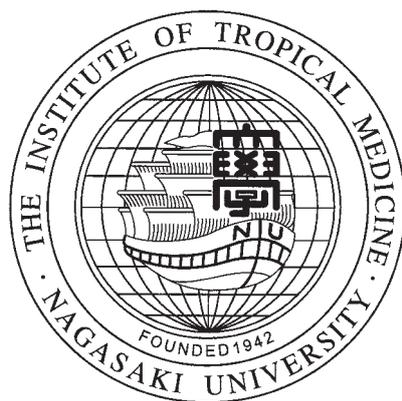


長崎大学熱帯医学研究所

年 次 要 覧

平成26年度
(2014)



長崎大学熱帯医学研究所

平成27年(2015) 12月

長崎大学熱帯医学研究所

総合目標

熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境が、熱帯病をはじめとする錯綜した健康問題を引き起こし続けている。国際交流の進展が著しい今日、これらの問題は世界的視野に立って解決されなければならない。

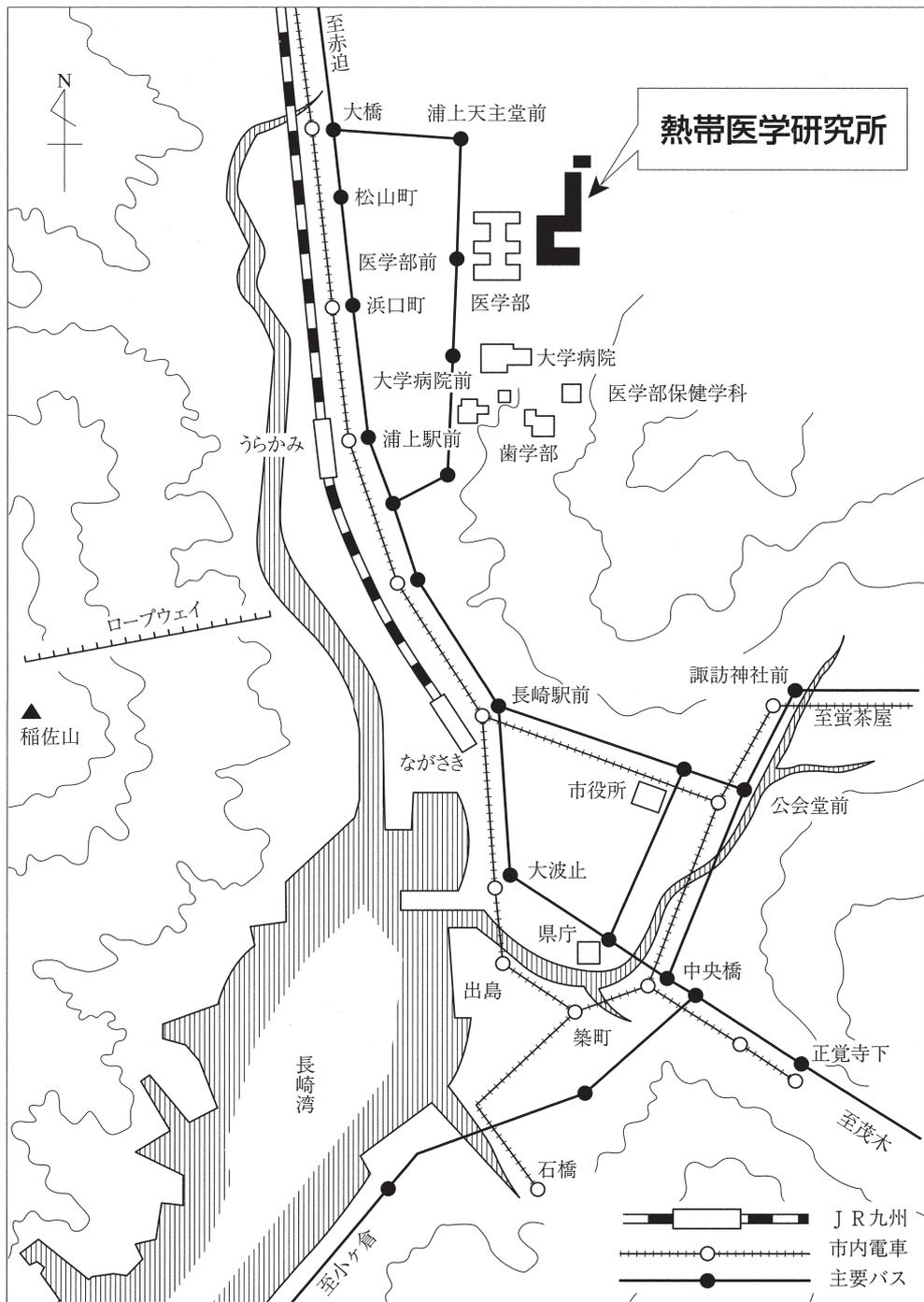
長崎大学熱帯医学研究所は、上述の認識に基づき、熱帯病の中でも最も重要な領域を占める感染症を主とした疾病と、これに随伴する健康に関する諸問題を克服することを旨とし、関連機関と協力して以下の項目の達成を図るものである。

1. 熱帯医学及び国際保健における先導的研究
2. 研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
3. 上記に係る研究者と専門家の育成



研 究 所 全 景

長崎大学熱帯医学研究所位置図



所在地 長崎市坂本1丁目12-4 (〒852-8523)
 電話 095-819-7800 (総合案内)

はじめに

長崎大学熱帯医学研究所

所 長 森 田 公 一

長崎大学熱帯医学研究所は、昭和17年（1942）に長崎医科大学附属東亜風土病研究所として開設され、昭和42年（1967）に長崎大学附置熱帯医学研究所となりました。日本において熱帯医学研究を目的とする唯一の公的機関として活動しています。本研究所は平成元年（1989）に全国共同利用研究所となり、平成5年（1993）には世界保健機関（WHO）からWHO協力センター（熱帯性ウイルス病に関する資料と研究）に、平成7年度（1995）には文部省から熱帯医学に関する国際的に卓越した研究拠点の指定を受けています。また、平成21年度（2009）に文部科学省より全国共同利用「熱帯医学研究拠点」の認定を受け、新たな運営制度のもと全国の研究者コミュニティに開かれた研究所として活動を強化しております。さらに、平成25年度（2013）には、医歯薬学総合研究科と共同して、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」事業に採択され、リーディング大学院「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を開設いたしました。平成26年度（2014）の研究所の組織は4 大部門（15研究分野、1 客員分野、1 外国人客員分野を含む）、2 附属施設、1 診療科で構成されています。

さて、熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境はそこに位置する開発途上国において古典的熱帯病に加え、新興感染症から生活習慣病まで錯綜した健康問題を引き起こしています。また、国際交流の進展が著しい今日、これらの問題は温帯に位置する先進諸国にも重大な影響を及ぼしており、世界的な視野に立って解決すべき課題であります。当研究所はこの課題克服を目指し、下記に掲げる総合目標（Mission Statement, 平成11年5月策定）を掲げてこの分野での研究、国際貢献、教育の各領域で関連機関と協力した活動を展開しているところです。

（熱帯医学研究所 総合目標）

1. 熱帯医学及び国際保健における先導的研究
2. 研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
3. 研究者と専門家の育成

この年次要覧は総合目標の達成を目指して、平成26年度に熱帯医学研究所が共同利用研究所として実施した共同研究、研究所各分野と附属施設での研究、JST-JICAのSATREPS事業等の外部資金による大型研究の実施状況、海外からの研究者の受け入れ状況、研究所が実施した教育活動、研究所の財務状況、研究成果出版物等を網羅的に記録したものです。本年は西アフリカでエボラ熱の大流行があり、また東京では70年ぶりに国内でのデング熱の流行が発生しました。本研究所への期待もますます大きくなっています。熱帯医学研究所のさらなる発展の為、皆様のご意見とご協力をお願いする次第です。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧 平成26年度 (2014)

目 次

総合目標

長崎大学熱帯医学研究所位置図

はじめに

1	沿革	1
	歴代所長	2
2	組織及び規模	
	2.1 組織	3
	2.2 職員	4
	2.3 経費	12
	2.4 敷地と建物	12
3	熱帯医学研究拠点共同研究	
	3.1 特定領域共同研究	13
	3.2 一般共同研究	14
	3.3 研究集会	19
4	研究活動	
	4.1 ウイルス学分野	20
	4.2 新興感染症学分野	22
	4.3 細菌学分野	24
	4.4 原虫学分野	25
	4.5 寄生虫学分野	29
	4.6 分子疫学分野	30
	4.7 免疫遺伝学分野	31
	4.8 生態疫学分野	34
	4.9 国際保健学分野	35
	4.10 病害動物学分野	38
	4.11 臨床感染症学分野	39
	4.12 小児感染症学分野	42
	4.13 臨床開発学分野	44

5	附属施設	
5.1	アジア・アフリカ感染症研究施設	
5.1.1	ケニアプロジェクト拠点	48
5.1.2	ベトナムプロジェクト拠点	52
5.2	熱帯医学ミュージアム	60
5.3	共同研究室	
5.3.1	エコヘルスユニット	61
5.3.2	病理実験ユニット	61
5.3.3	電子顕微鏡ユニット	62
5.3.4	マラリア研究ユニット	63
6	特別事業費による事業	
6.1	熱帯医学研修課程	65
7	外部資金による研究	
7.1	文部科学省科学研究費助成事業（平成26年度）	67
7.2	厚生労働省科学研究費補助金（平成26年度）	71
7.3	受託研究費等（平成26年度）	72
8	海外活動	75
9	外国人研究者の受け入れ	
9.1	平成26年度に受け入れた外国人研究者	90
10	研究成果の発表状況	
10.1	研究業績	93
10.2	学会発表演題	110
10.3	国際会議における研究発表	122
10.4	報告書等印刷物	132
11	講演会	
11.1	熱帯医学研究所における所外講師による講演	135
11.2	熱帯医学研究所教員による講演	138
11.3	熱帯医学研究所主催の市民公開講座	146
12	主要な研究設備品	147
13	刊行物	148

1 沿革

昭和17年3月	長崎医科大学附属東亜風土病研究所設立	昭和60年8月	本館の第三次増築竣工
昭和20年8月	原爆投下により研究所建物及び研究資料消失	昭和62年4月	病害動物学部門の増設
昭和21年4月	長崎医科大学風土病研究所に改称	平成元年4月	熱帯医学研究所は共同利用研究所に改組
昭和21年5月	諫早市に移転し、研究活動再開	平成3年4月	感染生化学部門の増設
昭和24年5月	新制長崎大学に附置され、長崎大学附置風土病研究所に改称	平成6年3月	本館の第四次増築竣工
昭和32年7月	諫早大水害により、施設、機器、研究資料等に壊滅的な被害	平成6年4月	大部門制に改組（3大部門12研究分野）
昭和34年3月	長崎市興善町の元長崎大学医学部附属病院外来患者診療所跡に移転	平成7年4月	世界の最先端の学術研究を推進する卓越した研究拠点（COE）の研究所に指定
昭和36年3月	長崎市坂本町に新庁舎竣工	平成8年4月	病原体解析部門に分子疫学分野（外国人客員分野）の新設
昭和36年4月	新庁舎に移転	平成9年4月	附属熱帯医学資料室の廃止・転換に伴い、附属熱帯病資料情報センターの新設
昭和39年4月	疫学部門の増設	平成13年4月	附属熱帯病資料情報センターの廃止・転換に伴い、附属熱帯感染症研究センターの新設
昭和40年4月	寄生虫学部門の増設	平成15年3月	本館の第五次増築（熱帯性病原体集中研究管理棟）竣工
昭和41年4月	ウイルス学部門の増設	平成17年9月	ナイロビ研究拠点 設置
昭和42年2月	本館の第一次増築竣工	平成18年3月	本館の改修工事竣工
昭和42年6月	風土病研究所が熱帯医学研究所に改称	平成20年4月	附属熱帯感染症研究センターの廃止・転換に伴い、附属アジア・アフリカ感染症研究施設及び熱帯医学ミュージアムの新設
昭和42年6月	熱帯医学研究所内科として、医学部附属病院に設置	平成21年6月	共同利用・共同研究拠点「熱帯医学研究拠点」に認定
昭和49年4月	附属熱帯医学資料室設置	平成23年4月	臨床研究部門（3研究分野）の増設
昭和49年4月	病原細菌学部門の増設	平成24年3月	「熱帯医学研究コース」終了
昭和53年3月	感染動物隔離実験棟竣工	平成25年6月	熱帯性病原体感染動物実験施設廃止
昭和53年4月	防疫部門（客員部門）の新設	平成26年4月	附属熱帯医学ミュージアムの移設
昭和53年4月	熱帯医学研修課程の新設		
昭和54年4月	感染動物隔離実験棟が熱帯性病原体感染動物実験施設に昇格		
昭和55年3月	本館の第二次増築竣工		
昭和58年4月	国際協力事業団（JICA）の集団研修コース「熱帯医学研究コース」開設		
昭和59年4月	原虫学部門の増設		

歴代所長

(長崎医科大学附属東亜風土病研究所)

角 尾	晋	自至	昭和17年 (1942) 昭和20年 (1945)	5月4日 8月22日
古 屋 野 宏	平	自至	昭和20年 (1945) 昭和23年 (1948)	12月22日 1月23日
高 瀬	清	自至	昭和23年 (1948) 昭和23年 (1948)	1月24日 8月31日
登 倉	登	自至	昭和23年 (1948) 昭和24年 (1949)	9月1日 5月30日

(長崎大学風土病研究所)

登 倉	登	自至	昭和24年 (1949) 昭和33年 (1958)	5月31日 8月31日
大 森	南 三 郎	自至	昭和33年 (1958) 昭和38年 (1963)	9月1日 11月30日
福 見	秀 雄	自至	昭和38年 (1963) 昭和42年 (1967)	12月1日 5月31日

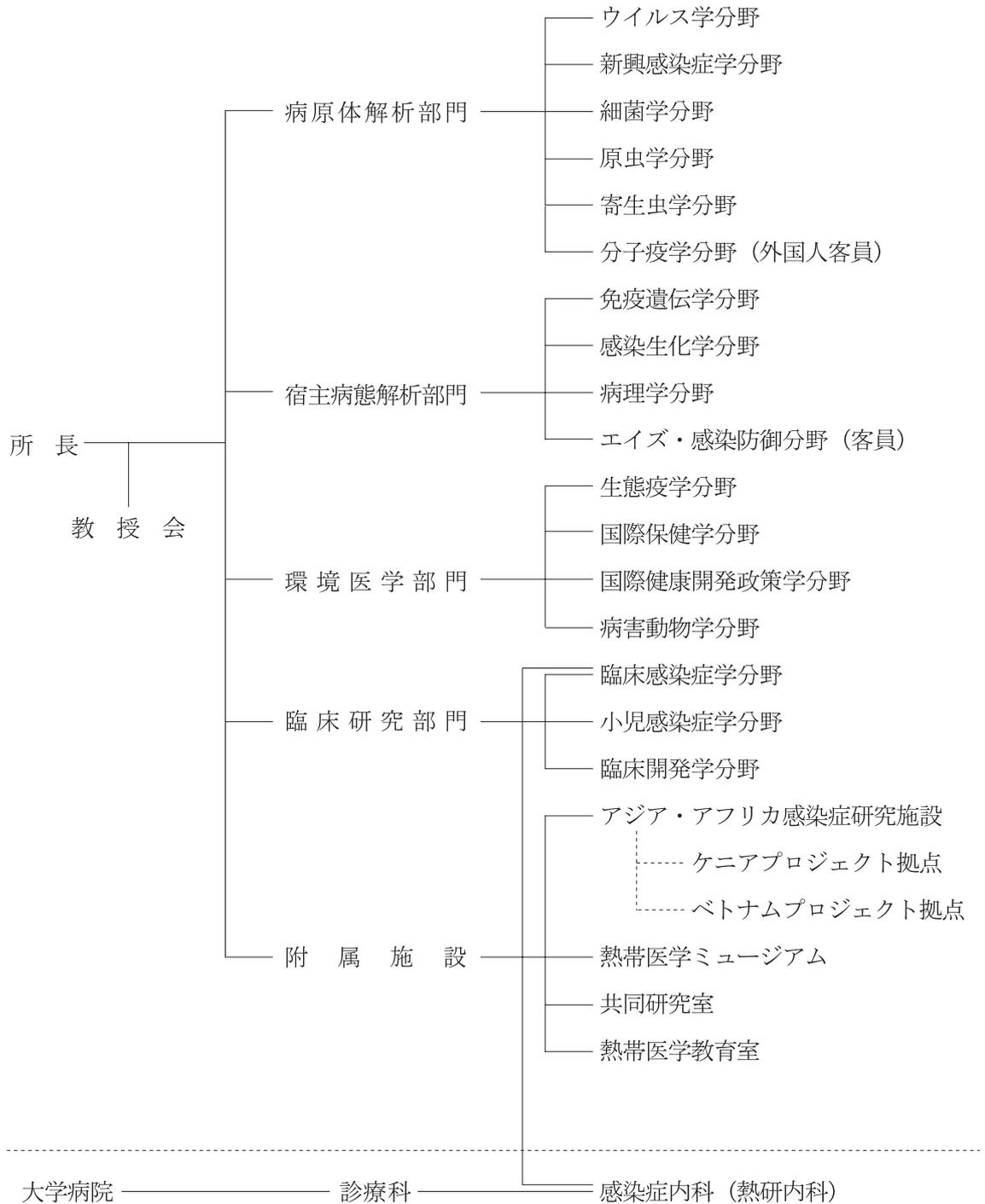
(長崎大学熱帯医学研究所)

福 見	秀 雄	自至	昭和42年 (1967) 昭和44年 (1969)	6月1日 11月30日
片 峰	大 助	自至	昭和44年 (1969) 昭和48年 (1973)	12月1日 11月30日
林	薫	自至	昭和48年 (1973) 昭和52年 (1977)	12月1日 11月30日
内 藤	達 郎	自至	昭和52年 (1977) 昭和54年 (1979)	12月1日 11月30日
片 峰	大 助	自至	昭和54年 (1979) 昭和56年 (1981)	12月1日 4月1日
松 本	慶 藏	自至	昭和56年 (1981) 平成3年 (1991)	4月2日 4月1日
板 倉	英 吉	自至	平成3年 (1991) 平成5年 (1993)	4月2日 4月1日
小 坂	光 男	自至	平成5年 (1993) 平成9年 (1997)	4月2日 4月1日
五 十 嵐	章	自至	平成9年 (1997) 平成13年 (2001)	4月2日 3月31日
青 木	克 己	自至	平成13年 (2001) 平成19年 (2007)	4月1日 3月31日
平 山	謙 二	自至	平成19年 (2007) 平成23年 (2011)	4月1日 3月31日
竹 内	勤	自至	平成23年 (2011) 平成25年 (2013)	4月1日 3月31日
森 田	公 一	自至	平成25年 (2013) 現 在	4月1日

2 組織及び規模

2.1 組織

平成26年4月1日



2. 2 職 員

平成26年 4 月 1 日

1) 定員内職員

区 分	教 員						その他 の職員	合 計
	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	計		
現 員	(3)13	(1) 5	3	(16)18	1	(20)40	(3) 1	(23)41

※ () は有期雇用職員で外数

2) その他の職員

非常勤講師 1名 外国人研究員(客員教授) 2名 客員教授 4名
 客員准教授 2名 産学官連携研究員 7名 プロジェクト研究員 0名
 科学研究費補助金研究支援員 6名 研究機関研究員 0名 研究支援推進員 7名
 事務補佐員及び技能補佐員 30名

3) 教職員・大学院学生等氏名

平成26年 4 月 1 日現在

所	長 (命)教 授	医 学 博 士	森 田 公 一
副 所	長 (命)教 授	医 学 博 士	金 子 修
	(命)教 授	医 学 博 士	平 山 謙 二
ウ イ ル ス 学 分 野	教 授	医 学 博 士	森 田 公 一
	(兼)教 授	医 学 博 士	長 谷 部 太
	助 教	獣 医 学 博 士	井 上 真 吾
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	余 福 勲
	助教(有期雇用)	農 学 博 士	鍋 島 武
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	早 坂 大 輔
	技術職員(有期雇用)		戸 田 み つ る
	産学官連携研究員	医 学 博 士	ポサダス ヘレラ ギエルモ
	産学官連携研究員		ミヤ ミヤット ヌグェ トン
	産学官連携研究員		高 松 由 基
	外国人研究員(客員教授)		ブレラノ コラソン セリラ
	客 員 教 授		中 谷 比 呂 樹
	客 員 准 教 授		吾 郷 昌 信
	客 員 准 教 授		M a t i l u M w a u
	客 員 研 究 員		久 保 亨
	技 能 補 佐 員		城 臺 和 美
	技 能 補 佐 員		千 葉 多 賀 子
	大 学 院 生		吉 川 亮
	大 学 院 生		内 田 玲 麻

	大 学 院 生		ウランダイ・ジーアン・エドワード・リンボ
	大 学 院 生		アドウンゴ フェルドナード
	大 学 院 生		嶋 田 聡
	大 学 院 生		アウン キョウ キョウ
	大 学 院 生		フ リ ミン フォン
新興感染症学分野	教 授	理 学 博 士	安 田 二 朗
	助 教(TT)	薬 学 博 士	黒 崎 陽 平
	助 教(TT)	薬 学 博 士	浦 田 秀 造
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	坂 部 沙 織
	客 員 教 授		R o g e r H e w s o n
	産学官連携研究員		宇 野 有 紀 子
	研 究 支 援 員		岡 田 沙 弥 香
	研 究 支 援 員		中 前 早 百 合
	研 究 支 援 推 進 員		小 林 繭 子
	技 能 補 佐 員		神 山 智 美
	大 学 院 生		楢 原 知 里
	大 学 院 生		弘 田 幸 子
細菌学分野	教 授	農 学 博 士	平 山 壽 哉
	講 師	理 学 博 士	和 田 昭 裕
	助 教(TT)	医 学 博 士	中 野 政 之
	研究支援推進員		前 田 香 代
原虫学分野	教 授	医 学 博 士	金 子 修
	講 師	薬 学 博 士	上 村 春 樹
	助 教	医 学 博 士	中 澤 秀 介
	助 教	薬 学 博 士	矢 幡 一 英
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	麻 田 正 仁
	客 員 研 究 員		キショール パンディー
	産学官連携研究員		タナシオン キッティサク
	研 究 支 援 員		宮 崎 真 也
	研 究 支 援 員		竹 田 美 香
	研 究 支 援 員		ハキミ ハッサン
	技 能 補 佐 員		木 下 美 紀
	技 能 補 佐 員		大 越 桃 子
	技 能 補 佐 員		田 中 玲 子
	大 学 院 生		ジョウ キマンティ ムトウギ

	大 学 院 生		アムザ ビヤルハンガ ラッキ
	大 学 院 生		外 川 裕 人
	大 学 院 生		クワメ クミ アサレ
寄 生 虫 学 分 野	教 授	医 学 博 士	濱 野 真 二 郎
	助 教	医 学 博 士	三 井 義 則
	助 教(TT)	薬 学 博 士	加 藤 健 太 郎
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	園 田 梨 沙
	技術職員(有期雇用)		梶 田 京 子
	客 員 教 授		Sammy M.Njenga
	客 員 研 究 員		安 藤 圭 志
	研究支援推進員		濱 崎 め ぐ み
	技 能 補 佐 員		小 田 裕 美
	技 能 補 佐 員		高 屋 知 子
	技 能 補 佐 員		原 史 絵
	技 能 補 佐 員		林 田 昌 子
	大 学 院 生		神 戸 俊 平
	大 学 院 生		ヨンボ ダン ジャスティン カレダ
	大 学 院 生		風 幸 世
	大 学 院 生		延 末 謙 一
	大 学 院 生		森 保 妙 子
	大 学 院 生		シャルミナ デロアール
分 子 疫 学 分 野	外国人研究員(客員教授)		トーマス ジェームズ テンプルトン
免 疫 遺 伝 学 分 野	教 授	医 学 博 士	平 山 謙 二
	講 師	医 学 博 士	菊 池 三 穂 子
	助 教(TT)	医 学 博 士	マハムド サマ シェリフ
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	水 上 修 作
	技術職員(有期雇用)		柳 哲 雄
	客 員 教 授		一 盛 和 世
	客 員 教 授		太 田 伸 生
	客 員 教 授		金 子 明
	客 員 教 授		北 潔
	客 員 教 授		津 谷 喜 一 郎
	客 員 教 授		ナーバンチャン ケセラ
	客 員 教 授		野 呂 伸 弘
	客 員 研 究 員		片 上 幸 美

	助教(有期雇用)	医学博士	都 築	中
	助教(有期雇用)	P h D	チャベス サナブリア	ルイス フェルナンド
	研究支援推進員		鶴 川	千 秋
	技能補佐員		川 島	恵 美 子
	技能補佐員		森	奈 緒 子
	技能補佐員		皆 川	こ ご み
	事務補佐員		酒 本	淳 子
	大学院生		山 田	晃 嗣
	大学院生		住 田	雄 亮
	大学院生		エウジェニオ	フォンツイ
	大学院生		フィン ティー	トウイー チャン
	大学院生		今 西	望
	大学院生		オウオア	ガブリエル オウイノ
	大学院生		サイ	ゾウ ミン ウー
臨床感染症学分野	教 授	医学博士	有 吉	紅 也
	准 教 授	医学博士	森 本	浩 之 輔
	助 教(TT)	熱帯医学修士	鈴 木	基
	助教(有期雇用)	医学士	佐 藤	光
	助 手		渡 邊	貴 和 雄
	客員研究員	医学博士	安 波	道 郎
	客員研究員		森	正 彦
	客員研究員		山 下	嘉 郎
	技能補佐員		内 堀	京 子
	技能補佐員		中 村	仁 美
	技能補佐員		白 水	里 奈
	事務補佐員		濱 崎	由 美
	事務補佐員		白 石	さ つ き
	研 究 生		寺 田	真 由 美
	研 究 生		原 田	義 高
	研 究 生		高 木	理 博
	大学院生		小 笠 原	徹
	大学院生		濱 口	杉 大 介
	大学院生		高 橋	健 介
大学院生		宮 原	麗 子	
大学院生		齊 藤	信 夫	
大学院生		島 崎	貴 治	

	大 学 院 生		島 田 郁 美
	大 学 院 生		柿 内 聡 志
	大 学 院 生		石 藤 智 子
	大 学 院 生		山 梨 啓 友
	大 学 院 生		ドバデル ビム グッパル
	大 学 院 生		泉 田 真 生
	大 学 院 生		ンゴ クオン チ
	大 学 院 生		北 庄 司 絵 美
	大 学 院 生		林 健 太 郎
	大 学 院 生		加 藤 隼 悟
	大 学 院 生		藤 井 宏
	大 学 院 生		大 澤 令 奈
小 児 感 染 症 学 分 野	教 授	医 学 博 士	橋 爪 真 弘
	准 教 授	医 学 博 士	吉 田 レイミン ト
	研 究 支 援 推 進 員		岡 希 望
	技 能 補 佐 員		平 倉 説 子
	大 学 院 生		高 橋 法 子
	大 学 院 生		今 井 智 里
	大 学 院 生		吉 原 圭 亮
	大 学 院 生		樋 泉 道 子
	大 学 院 生		池 田 恵 理 子
臨 床 開 発 学 分 野	教 授	P h D	ローサボーン チャントラ
	准 教 授 (有 期 雇 用)	学 術 博 士	グエン フィ ティエン
	助 教 (有 期 雇 用)	医 学 博 士	川 崎 エドゥアルド ホセ
	技 能 補 佐 員		フ リ ッ ツ 郁 美
	大 学 院 生		クーンランセソンプーン ナット
ア ジ ア ・ ア フ リ カ 感 染 症 研 究 施 設 (ケ ニ ア 拠 点)	拠 点 長 (命) 教 授	医 学 博 士	一 瀬 休 生
	教 授	理 学 博 士	皆 川 昇
	教 授	医 学 博 士	濱 野 真 二 郎
	教 授	医 学 博 士	橋 爪 真 弘
	教 授 (有 期 雇 用)	医 学 博 士	嶋 田 雅 暁
	教 授 (有 期 雇 用)	獣 医 学 博 士	堀 尾 政 博
	教 授 (有 期 雇 用)	医 学 博 士	金 子 聰
	准 教 授	医 農 学 博 士	川 田 均
	助 教	獣 医 学 博 士	井 上 真 吾

	助教(有期雇用)	医学博士	藤井 仁人
	助教(有期雇用)	農学博士	二見 恭子
	助教(有期雇用)	学術博士	シャー モハマド モニル
	助教(有期雇用)	P h D	竹内 理恵
	助教(有期雇用)	P h D	ラーソン ピーター ション
	技術職員(有期雇用)		戸田 みつる
	産学官連携研究員	理学博士	三浦 雅史
	客員准教授		長谷川 慎
	事務職員(有期雇用)		風間 春樹
	事務職員(有期雇用)		齊藤 幸枝
	事務職員		小谷 昌之
	事務職員(有期雇用)		俵 ともか
	委託事務員		高東 光雄
	大学院生		神戸 俊平
	大学院生		ガブリエル ディダ
	大学院生		アーネスト アポンディ
アジア・アフリカ 感染症研究施設 (ベトナム拠点)	拠点長(命)教授	医学博士	山城 哲
	(兼)教授	医学博士	長谷部 太
	助教(有期雇用)	学術博士	角田 隆
	助教(有期雇用)	人間・環境学博士	竹村 太地郎
	助教(有期雇用)	国際関係学修士	時沢 亜佐子
	事務職員		中尾 隆宏
	事務補佐員(熱研内)		福岩 由美子
熱帯医学ミュージアム	館長	理学博士	皆川 昇
	教授(有期雇用)	獣医学博士	堀尾 政博
	技術職員		荒木 一生
	技能補佐員		須田 清美
共同研究室	室長(命)教授	農学博士	平山 壽哉
	准教授	P h D	リチャード カレトン
	准教授	保健学博士	奥村 順子
	講師	医学博士	菊池 三穂子
	助教	医理学博士	千馬 正敬
	助教	理学博士	坂口 美亜子
	研究支援推進員		龍原 梨沙
	研究支援推進員		外間 沙里菜

診 (熱研内科)	療 (研内科)	科 (内科)	科長(命)教授	医学博士	有	吉	紅	也
			副科長(命)准教授	医学博士	森	本	浩	之
			講師		古	本	朗	輔
			助教		神	白	麻	衣
			助教		田	中	健	之
			医員	医学士	高	木	理	博
			医員		藤	井		宏
			医員		島	崎	貴	治
			医員		高	橋	健	介
			医員		加	藤	隼	悟
			医員		信	吉	正	治
			医員		平	岡	知	子
			修練医		岩	田	知	真
			修練医		山	本	優	美
			事務補佐員		松	尾	亜	矢
非常勤講師	国連人口基金 東京事務所・所長	佐	崎	淳	子			

2. 3 経 費

年度別決算額（平成20年～平成26年度）

年度	区分	人 件 費	物 件 費	合 計
平成20年		651, 898, 818 円	265, 358, 082 円	917, 256, 900 円
平成21年		605, 260, 738	271, 544, 815	876, 805, 553
平成22年		532, 702, 260	471, 523, 873	1, 004, 226, 133
平成23年		607, 943, 166	483, 626, 501	1, 091, 569, 667
平成24年		598, 138, 424	420, 465, 416	1, 018, 603, 840
平成25年		489, 567, 605	476, 723, 671	966, 291, 276
平成26年		561, 606, 263	443, 315, 439	1, 004, 921, 702

年度別決算額：外部資金等（平成20年～平成26年度）

年度	区分	人 件 費	物 件 費	合 計
平成20年		262, 345, 094 円	658, 352, 116 円	920, 697, 210 円
平成21年		326, 227, 542	746, 606, 269	1, 072, 833, 811
平成22年		296, 164, 175	850, 841, 443	1, 147, 005, 618
平成23年		156, 919, 028	925, 992, 376	1, 082, 911, 404
平成24年		208, 595, 480	608, 765, 460	817, 360, 940
平成25年		131, 139, 405	479, 535, 519	610, 674, 924
平成26年		169, 608, 636	439, 383, 221	608, 991, 857

2. 4 敷地と建物

所在地 長崎市坂本1丁目12-4

敷 地 長崎大学医学部構内 3, 305m²

建 物

建物名称	構 造	建面積(m ²)	延面積(m ²)	備 考
本 館	鉄筋コンクリート 3階，一部4階建	1, 763	6, 454	昭和36. 3 建築 昭和42. 2 増築 昭和55. 3 増築 昭和60. 8 増築 平成6. 3 増築 平成18. 3 改修
熱帯性病原体 集中研究管理棟	鉄筋コンクリート 4 階 建	329	1, 328	平成15. 3 建築
薬 品 庫	ブ ロ ッ ク 建	20	20	昭和47. 3 建築
計		2, 112	7, 802	

3 熱帯医学研究拠点共同研究

3. 1 特定領域共同研究 (◎は研究代表者)

1. 熱帯地域, 特にアフリカおよびベトナムで発生している真菌症・放線菌症の原因菌の収集と形態学的, 生理学的, 分子生物学的解析

千葉大学・真菌医学研究センター・センター長	◎笹川 千尋
千葉大学・真菌医学研究センター・教授	亀井 克彦
千葉大学・真菌医学研究センター・教授	川本 進
千葉大学・真菌医学研究センター・教授	五ノ井 透
千葉大学・真菌医学研究センター・准教授	矢口 貴志

2. アジア地区におけるHIV感染防止ワクチン及び新規抗HIV薬の開発のための基盤研究

熊本大学・エイズ学研究センター・センター長	◎滝口 雅文
熊本大学・エイズ学研究センター・教授	松下 修三
熊本大学・生命科学研究部・教授	原田 信志
熊本大学・エイズ学研究センター・教授 (客員)	岡 慎一
熊本大学・エイズ学研究センター・助教	阪井 恵子

3. マラリアと結核に対するワクチン開発と臨床免疫学解析

琉球大学・熱帯生物圏研究センター・センター長	◎酒井 一彦
琉球大学・熱帯生物圏研究センター・教授	松崎 吾朗
琉球大学・熱帯生物圏研究センター・教授	渡部 久実
琉球大学・熱帯生物圏研究センター・准教授	新川 武
琉球大学・熱帯生物圏研究センター・准教授	梅村 正幸
琉球大学・熱帯生物圏研究センター・ポスドク研究員	福井 雅之

3. 2 一般共同研究 (◎は研究代表者)

1. バベシア原虫の赤血球侵入・発育メカニズムの解析：マラリア原虫との比較

帯広畜産大学・原虫病研究センター・教授	◎河津 信一郎
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	金子 修
長崎大学・熱帯医学研究所・助教	麻田 正仁
長崎大学・熱帯医学研究所・助教	矢幡 一英

2. 一塩基多型プロファイリングによるサルモネラ属菌の迅速血清型別法の開発

帯広畜産大学・教授	◎倉園 久生
帯広畜産大学・助教	山崎 栄樹
マヒドール大学・教授	Wanpen Chicumpa
Translational Health Science and Technology Institute・ Executive director	G. B. Nair

3. ヘリコバクター・ピロリVacAによるオートファジー形成に関するシグナル伝達機構の解明

千葉大学・医学研究院・病原分子制御学・准教授	◎八尋 錦之助
千葉大学・医学研究院・病原分子制御学・教授	野田 公俊
長崎大学・熱研医学研究所・教授	平山 壽哉
長崎大学・熱帯医学研究所・助教	中野 政之

4. ウイルス様粒子形成を可視化する新規FRETプローブを用いたラッサウイルス治療薬スクリーニング

京都大学・ウイルス研究所・特定助教	◎水谷 龍明
北海道大学・大学院医学研究科・准教授	南保 明日香

5. ウイルス膜融合活性を制御する化合物の探索と抗 Dengue ウイルス剤への応用

会津大学短期大学部・食物栄養学科・教授	◎左 一八
広島国際大学・薬学部・教授	池田 潔
立教大学・理学部・教授	常盤 広明

6. 補体抵抗性を付与した新型マラリアワクチンベクターの開発

金沢大学・医薬保健研究域薬学系・特任助教	◎伊従 光洋
金沢大学・医薬保健研究域薬学系・教授	吉田 栄人
金沢大学・医薬保健学総合研究科創薬科学専攻・大学院生	中谷 大樹
金沢大学・医薬保健学総合研究科創薬科学専攻・大学院生	西浦 秀里
長崎大学・熱帯医学研究所・助教	坂口 美亜子

7. ベトナム自然環境由来コレラ菌のゲノム疫学的ヒト感染機構の解明

京都大学・大学院医学研究科・准教授	◎丸山 史人
北海道大学・人獣共通感染症リサーチセンター・助教	大西 なおみ
長崎大学・熱帯医学研究所・助教	竹村 太地郎

8. 新しいウイルス検査装置のロタウイルス定量への応用

長浜バイオ大学・バイオサイエンス学部・教授	◎長谷川 慎
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	一瀬 休生
長崎大学・熱帯医学研究所・講師	和田 昭裕

9. 内蔵型リーシュマニア症の臓器内感染拡大様式の解明

岐阜大学・大学院医学系研究科・教授	◎前川 洋一
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	濱野 真二郎

10. ベトナム小児から検出された薬剤耐性肺炎球菌の全ゲノムシーケンスとゲノム疫学への応用

大阪大学・微生物病研究所・特任教授	◎飯田 哲也
大阪大学・微生物病研究所・助教	中村 昇太
大阪大学・微生物病研究所・特任研究員	元岡 大祐
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	有吉 紅也
長崎大学・医歯薬学総合研究科・大学院生	柿内 聡志

11. 熱帯熱マラリア原虫の好適な地理的拡散経路の解明：アジアからアフリカへ

順天堂大学・大学院医学研究科・教授	◎美田 敏宏
東京女子医科大学・医学部・助教	本間 一
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	山本 太郎

12. マラリア感染赤血球の機械的性質及び生物学的指標評価デバイスの構築

東海大学・工学部・講師	◎木村 啓志
東京大学・生産技術研究所・教授	藤井 輝夫
東京大学・生産技術研究所・特任助教	金 秀炫
東海大学・工学部・特定研究員	中村 寛子
東海大学・工学部・学部4年生	額賀 正行
東海大学・工学部・学部4年生	小川 陽

13. 腸管感染症原因細菌の分子疫学解析法の開発とその活用

国立感染症研究所・細菌第一部・部長	◎大西 真
国立感染症研究所・細菌第一部・第二室長	泉谷 秀昌

14. ケニア国における結核菌感染のリスク解析

新潟大学・大学院医歯学総合研究科・教授	◎松本 壮吉
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	濱野 真二郎

15. 日本脳炎ウイルス感染における脳内浸潤特異的T細胞の生物学的意義の検討

国立感染症研究所・流動研究員	◎北浦 一孝
長崎大学・熱帯医学研究所・助教	早坂 大輔

16. *Trypanosoma brucei* AKB14-3-3-1 の下流シグナルの同定

久留米大学・医学部・感染医学講座・教授	◎井上 雅広
長崎大学・熱帯医学研究所・講師	上村 春樹
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	森田 公一

17. *Trypanosoma cruzi* トランスシアリダーゼの基質結合に伴う変化を検出する物理化学的システムの開発と阻害剤探索への応用

熊本大学・大学院生命科学研究部（薬学系）・教授	◎森岡 弘志
長崎大学・熱帯医学研究所・講師	上村 春樹

18. 集団治療実施に関連するヒト・熱帯熱マラリア原虫の分子疫学的研究

～ビクトリア湖島嶼マラリア撲滅に向けて～

大阪市立大学・大学院医学研究科・講師	◎五十棲 理恵
大阪市立大学・大学院医学研究科・教授	金子 明
大阪市立大学・大学院医学研究科・講師	木俣 勲
大阪市立大学・大学院医学研究科・准教授	木村 政継
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	一瀬 休生
長崎大学・熱帯医学研究所・講師	上村 春樹

19. 赤痢アメーバのシスト形成を制御するコレステロール硫酸の解析

佐賀大学・医学部・分子生命科学講座・助教	◎見市(三田村)文香
佐賀大学・医学部・分子生命科学講座・教授	吉田 裕樹
長崎大学・熱帯医学研究所・助教	中村 梨沙
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	濱野 真二郎

20. 日本脳炎エンデミック地域に住む高齢者の抗ウイルス免疫反応の解析と今後のワクチン接種のあり方に関する研究

日本赤十字社長崎原爆諫早病院・副院長	◎福島 喜代康
日本赤十字社長崎原爆諫早病院・医師	久保 亨

21. ケニア・ビタ群病院における未分類熱性疾患入院症例の特性とレプトスピラ症の検索

国立感染症研究所・細菌第一部・主任研究官	◎小泉 信夫
長崎大学・医歯薬学総合研究科・大学院生	大澤 玲奈
長崎大学・医歯薬学総合研究科・大学院生	濱口 杉大
長崎大学・医歯薬学総合研究科・大学院生	北庄司 絵美

22. バングラデシュにコレラ流行をもたらす大気水文環境に関する疫学研究

香川大学・教育学部・教授	◎寺尾 徹
海洋研究開発機構・特任研究員	名倉 元樹
京都大学・防災研究所・准教授	林 泰一
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	橋爪 真弘

23. 免疫複合体解析によるシャーガス病感染抵抗メカニズムの解明

長崎大学・医歯薬学総合研究科・准教授	◎大山 要
長崎大学・医歯薬学総合研究科・教授	黒田 直敬
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	平山 謙二
長崎大学・熱帯医学研究所・准教授	グエン フィ ティ エン

24. ケニア国における生活習慣病の疫学研究

順天堂大学・医学部・助教	◎峰松 和夫
大阪教育大学・学校危機メンタルサポートセンター・准教授	後藤 健介
順天堂大学・医学部・准教授	湯浅 資之
福岡女子大学・国際文理学部・准教授	水元 芳
長崎大学・熱帯医学研究所・教授	金子 聡

3. 3 研究集会

1. 医学研究のための倫理に関する国際セミナー

開催日：平成26年5月8日(木)～平成26年5月10日(土)

場 所：長崎大学医学部ポンペ会館（長崎市）

代表者：長崎大学病院・薬剤部長・教授 佐々木 均

参加者：63名

内 容：「医学研究のための倫理に関する国際研修コース」との共催として、長崎大学医学部ポンペ会館において平成26年5月8日から5月10日までの3日間、講師9名（うち外国から2名）と参加者54名（うち外国人31名）を集めて開催した。

本集会は、参加者が研究倫理についての基本的な考え方を学ぶと同時に、近年の研究倫理に関する国内外における議論を把握することを目的として実施するもので、主たる内容は、研究倫理の基本原則、インフォームド・コンセント、リスク・ベネフィット評価、既存資料の利用、国際共同研究における倫理である。これに加えて、子どもなど特別の配慮を必要とする人たちを対象とする研究の倫理、コミュニティを対象とする研究の倫理、プラセボ対照試験の倫理、研究と治療の区別、倫理審査委員会の構成や機能等についても学ぶ。

今回も国内外の倫理関係の研究者を多数講師として招聘し、質の高い研修コースを運営することができた。また、アフリカ、アジア等各国から多数の参加者があり、国際的な視野での討論が活発に行われ、この研究集会の特色が示された。

4 研究活動

4. 1 ウィルス学分野

I. 熱帯ウィルス病の疫学研究

1) 日本脳炎ウィルスの分子疫学解析

日本脳炎ウィルスの生態をより詳細に明らかにするため、前年度に引き続き東南アジアと日本において分子疫学解析を実施した。日本脳炎ウィルスの一部は日本本土に土着しているが、多くは東南アジアから中国を経由して日本に飛来している。1990年以降には東アジア全域で遺伝子型が入れ替わる現象（Genotype shift）が観察されたが、日本でも従来のⅢ型が姿を消し、飛来しているウィルスは遺伝子型Ⅰ型のA群ウィルスのみであり、平成26年度もこの状況が続いている。

2) デングウィルスとチクングニアの分子疫学解析

平成25年度に引き続き、アジア各国でウィルスを分離して分子疫学解析を実施した。ベトナム、フィリピン、バングラデシュ、ミャンマー、ケニアでのデングウィルスを分離して遺伝子解析を実施した。またベトナムでは脳炎患者の髄液からデングウィルスが分離され遺伝子レベルでの変異について解析している。また、ミャンマーではアフリカ由来のチクングニアウィルスの侵入が2010年に発生したことを後方視的研究で明らかにした。

3) ベトナムでのコウモリに生息するウィルスの調査

コウモリは多くのウィルスの保有動物として知られており、ベトナムの熱帯雨林に生息するコウモリの調査を実施している。平成26年度は前年度に分離した新種のヘルペスウィルスの解析を実施した。

4) 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウィルスの調査

平成25年1月、日本にSFTSウィルス患者が発生していることが明らかになり、長崎を中心に、ヒト、野生動物、マダニの調査を継続した。現在まで、患者周辺には不顕性感染者は発見されずマダニからもウィルスは分離されていない。しかしながら野生動物（イノシシ）およびイヌからは抗体陽性例が確認された。地域の感染リスクを明らかにするため現在も調査を継続している。

II. 迅速診断法とウィルス同定手法の開発

1) 重症熱性血小板減少症ウィルスの簡易検出法の開発

ELISA法によるSFTS特異的抗体検出法（IgG, IgM）を開発した。Nタンパク質に対する単クローン抗体を樹立してイムノコロマト法による簡易検出キットの開発を開始した。

2) 黄熱病とリフトバレー熱の迅速診断法の開発

JICAとJSTとが共同して実施する国際研究事業である地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS）「ケニアにおける黄熱病およびリフトバレー熱に対する迅速診断法の開発とそのアウトブレイク警戒システムの構築」を継続した。この事業は熱帯医学研究所とケニア国立中央医学研究所とが共同して黄熱病とリフトバレー熱のイムノクロマト法を用いたPoint of Care (POC) Testや携帯電話網を用いた早期警戒システムの構築のための研究開発しmSOSと命名してその有用性をフィールド試験により確認した。

Ⅲ. ウイルス病原性の解析

1) 日本脳炎ウイルスなどフラビウイルス脳炎の病態発現機序の解析

日本脳炎ウイルスおよびダニ媒介性脳炎ウイルス感染マウスモデルを用いて、病態発現機序の解析を行っている。日本脳炎ウイルス感染において接種量と致死性に相関性がみられない現象に関して、ウイルス接種量に応じたインターフェロン応答により相殺される機序が働くことを示した。ダニ媒介性脳炎ウイルス感染において、TNF- α 、IL-10、IL-2が致死感染に抑制的に働いていることを示した。また、ダニ媒介性脳炎ウイルスのエンベロープ蛋白におけるGlu122→Gly122のアミノ酸置換が致死性に関わっていることを明らかにした。

2) デングウイルス、西ナイルウイルスの病原性の解析

デングウイルスはヒトの体内では高い増殖性を示し、昨年までの研究でデングウイルスがヒト細胞においてインターフェロンを抑制しており、これがウイルス特異的dsRNAが粗面小胞体にウイルス特異的に形成される小胞内に隠されることにより、細胞内の自然免疫系のRIG-I等のウイルス検知システムを回避する結果であることを証明したが、本年度は西ナイルウイルスのヒト神経細胞内で同様のインターフェロン回避能力をもつことを証明した。

Ⅳ. ワクチン、抗ウイルス薬の開発

1) フラビウイルス治療薬の開発

デングウイルスや日本脳炎ウイルスの治療薬開発を目指して、ウイルス粒子表面の細胞接着に関与する糖鎖構造類似物質による感染防御の研究を中部大学鈴木博士と会津大学短期大学部の左博士らと共同で開発している。さらに平成25年度から開始された、アステラス製薬や東京工業大学とのコンソーシアム研究を開始してウイルスのプロテアーゼとポリメラーゼ等を標的とした抗ウイルス薬の開発を継続した。

2) 西ナイルウイルスワクチンの開発

（財）阪大微生物研究会との共同で西ナイル熱ワクチンの開発を実施している。これまでにニューヨークで分離された西ナイルウイルス株を種株としてGMPを満たす環境下で活化ワクチン候補を作成しその有効性をマウスを使った系で確認するとともにGLP試験を完了して研究開発を継続している。

V. WHO研究協力センターとしての活動

アジアの開発途上国からフラビウイルスの診断に関する研修生を受け入れた。又、WHOのデング対策会議へ専門家を派遣した。さらにエボラ出血熱対策を支援する為、WHO本部等への人材派遣など行った。

4. 2 新興感染症学分野

当分野では、エボラウイルス、マールブルグウイルス、南米出血熱ウイルスなどアフリカや南米でアウトブレイクを繰り返す出血熱ウイルスや西アフリカで常在化しているラッサウイルス、世界的な流行を引き起こすインフルエンザウイルス、そして最近我が国でも発症者が報告されて問題となっているSFTS（重症熱性血小板減少症候群）ウイルスなど重篤な疾患を引き起こす高病原性ウイルスに注目し、これらのウイルスに対する抗ウイルス戦略の確立に資する研究を進めている。また、農林水産省等からも競争的資金を獲得し、内在性レトロウイルスやウシのウイルス感染症に関する研究にも取り組んでいる。

I. エボラウイルス検出法の開発

RT-LAMP法を検出原理とする新規エボラウイルス検出法を開発した。本検出法は2014年以降西アフリカで流行しているウイルス株およびこれまでに分離されたウイルス株双方を検出することができ、ザイールエボラウイルス種特異的に遺伝子増幅することを確認した。実際に、ギニア共和国コナクリ市の国立ドンカ病院での臨床サンプルを用いた検証も行い、現行の検査診断法であるリアルタイムRT-PCR法と同等の感度、特異性でエボラウイルスを検出することができることを確認した（論文投稿中）。

II. ウイルス出芽機構の解明

2008年に新規のウイルス性出血熱の病原体として同定されたルジョウイルスの出芽機構の解析を行い、出芽に重要なモチーフ配列を同定し、出芽に関連する宿主因子の関与も解析した（論文投稿中）。

Ⅲ. 抗ウイルス活性をもつ細胞性因子Tetherin/BST-2の解析

Tetherin/BST-2（以下Tetherin）は様々なエンベロープウイルスに対して抗ウイルス活性をもつインターフェロン（IFN）誘導性の細胞性因子である。重篤な出血熱を起こすクリミア-コンゴ出血熱ウイルスのモデル系として同じナイロウイルス属のハザラウイルスを用いて解析を進め、Tetherinがこのウイルスに対しても抗ウイルス活性を示すことを明らかにし、更にI型IFNによるウイルスの増殖抑制に重要な役割を担っていることを英国PHEポートンダウン研究所との共同研究で明らかにした（論文投稿中）。この結果はTetherinがナイロウイルスの増殖を制御する有用な細胞性因子であることを示唆する。

また、より強力な抗ウイルス活性分子の人工デザインを目的としてTetherinの抗ウイルス活性の強弱に影響する分子構造の同定も行った（論文準備中）。

Ⅳ. 病態モデル・感染モデル動物の作出

動物個体レベルでSFTSウイルスの感染・増殖機構や病態発現機序を解析するために、各種近交系マウス、ノックアウトマウスやトランスジェニックマウスを用いてSFTSウイルスの感受性と病態発現を解析し、感受性モデルおよび病態再現モデルの確立を進めている。このモデルマウスを用いた抗ウイルス薬の検証も行っている。

Ⅴ. 抗ウイルス剤の開発

リバビリン、IFN α 、S1P阻害剤、さらにファビピラビルがSFTSウイルスの増殖を抑制することを明らかにした（論文投稿中）。

また、ルジョウイルスのウイルス表面糖タンパク質の開裂に宿主プロテアーゼS1Pが関与していることを明らかにし、S1P阻害剤がルジョウイルスの産生を阻害することも見出した（論文投稿中）。

更に、ラッサウイルスやエボラウイルスに対する抗ウイルス剤の候補となり得る化合物の探索も進めており、*in silico*スクリーニングや独自に開発したハイスループットスクリーニング（HTS）系を用いて化合物ライブラリーからの抗ウイルス活性物質の同定を行っている。

Ⅵ. レトロウイルスに関する研究

β レトロウイルスに分類されるMason-Pfizer Monkey Virus（M-PMV）は、Gagタンパク質に出芽において中心的な機能を果たすL-ドメイン様の配列が3種類（PPPY, PSAP, YADL）存在する。そこでこれらの配列の機能を解析した結果、PPPYはL-ドメインとして主要な役割を果たしており、PSAPは細胞種依存的にL-ドメインとして機能することが明らかになった。更に、YADLはL-ドメインとしてではなく、Gagタンパク質の細胞膜への輸送に重要であることがわかった

(Microbiol Immunol, 2015)。

4. 3 細菌学分野

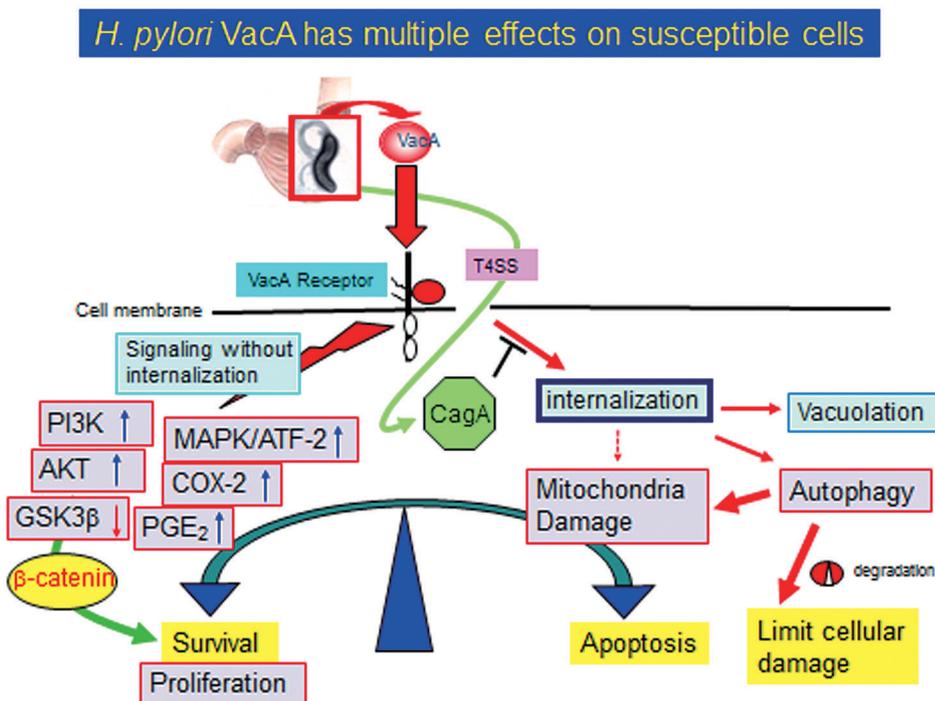
細菌学分野は熱帯地に蔓延または熱帯地から伝播される細菌感染症とその原因細菌に関する研究、とくに感染成立に関与する種々の病原因子の研究を展開している。

- 1) ヘリコバクター・ピロリ (Hp) は消化性潰瘍, MALTリンパ腫, 胃癌などの原因細菌であり, 熱帯地域を含む発展途上国においては20歳前に約80%のヒトが感染している。本菌の病原性について, 空胞化毒素VacAおよび4型分泌装置で宿主に注入されるエフェクター分子CagAに焦点を当ててこれらの病原因子の感染における役割を解析している。

VacAが胃炎や胃潰瘍などの胃粘膜障害を引き起こすためには受容体型チロシンフォスファターゼRPTP β との結合が必須であることを明らかにした (Nat. Genet. 2003)。一方, VacAのみならずCagAが宿主ホスファターゼを介して毒性発現に至る情報伝達を行っているにもかかわらず, 感染におけるこれら2つの主たる病原因子の相互の働きが明確ではない。そこでHpが産生するこれら2つの主たる因子が及ぼす互いの影響を究明し, Hpの持続感染が引き起こす広範多岐な疾患との関連を説明する分子基盤とすることを現在の目的としている。その結果, VacAの新規な宿主受容体としてlow-density lipoprotein receptor-related protein-1 (LRP1)を同定し, このLRP1を介してオートファジーを誘導することを明らかにした (J Biol Chem. 2012)。この知見はLRP1がオートファジー誘導に機能することを示す初めてのものであった。一方, LRP1は腫瘍マーカーでもあるCD44と結合していることやCagAがVacA依存的なオートファジーによって分解され, 加えて, ある種のCD44を発現している胃癌幹細胞ではVacA依存オートファジーによるCagAの分解が抑制されており, このような細胞から発癌へのプロセスが進められることを示した (Cell Host Microbe. 2012)。CagA自体もVacAの細胞内移行を阻止することも明らかにしている (実に複雑巧妙な仕組みと考えている。Dis Model Mech. 2010)。かかる事実は, ピロリ菌感染症でのVacAが消化性潰瘍などの発症のみならず, 発癌蛋白であるCagAの機能とも密接に関連していることを示している。

- 2) サルモネラエンテロトキシンStnについての構造と機能をしらべている (Dis Model Mech. 2012)。

図の説明：ヘリコバクター・ピロリが産生するVacA毒素の多様な毒性発現



4. 4 原虫学分野

金子修が着任し8年目となった。4月には外川裕人が、5月にはクワメ・クミ・アサレが博士課程教育リーディングプログラムに2期生として入学した。10月にはジョー・ムトゥンギが大学院博士課程を修了し、研究支援員として当分野にて研究を継続した。5月に技能補佐員の松尾佳美が復職した。11月には高浜幸絵が、平成27年1月には松本菜奈が技能補佐員として分野に参画した。一方、技能補佐員の大越桃子が12月に退職した。麻田正仁助教は3月に日本寄生虫学会奨励賞を受賞した。

I. マラリアに関する研究

1) マラリア原虫の赤血球侵入分子機構

矢幡一英とジョー・ムトゥンギは赤血球侵入中のネズミマラリア原虫を観察するために、ネズミマラリア原虫のメロゾイトを精製する条件を検討し、論文投稿の準備を進めた。また、超解像顕微鏡による侵入関連分子の局在解析を継続した。ムトゥンギはネズミマラリア原虫の赤血球侵入関連分子RON5に関する解析結果を論文発表 (Parasitol Int 63: 794-801, 2014) するとともに、2014 (25th) Annual Molecular Parasitology Meeting (米国) やThe 13th

Awaji International Forum on Infection and Immunity (奈良) にて学会発表を行った。矢幡もこれらの研究成果を第22回分子寄生虫学ワークショップ／第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラムにて報告した。金子はネズミマラリア原虫EBLについて、鳥取大学の大槻均博士らとの共同研究による第3-5領域の機能解析結果を第84回日本寄生虫学会大会にて発表した。また、熱研病理学分野のリチャード・カレトン博士らとの共同研究として、以前に報告した系統とは異なるネズミマラリア原虫系統間の遺伝子交配実験によっても、EBL遺伝子座が増殖速度や病原性と関連していることを示す結果を報告した（第84回日本寄生虫学会大会等）。麻田助教と外川裕人はネズミマラリア原虫の赤血球侵入機構の解析に向けたテトラサイクリン発現調節システムの開発を継続し、その成果の一部を第22回分子寄生虫学ワークショップ／第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラムで報告した。金子はネズミマラリア原虫を三日熱マラリア原虫の赤血球侵入のモデルとする共同研究を韓国江原大学の韓銀澤博士と継続した。

2) マラリア原虫感染赤血球に発現する分子の機能解析

宮崎真也と加賀谷渉は熱帯熱マラリア原虫SURFINの赤血球内への輸送に関わる分子の同定およびマラリア原虫分子がマウレル裂から赤血球膜に輸送される機序に関する研究を継続し、研究成果を第3回マトリョーシカ型生物学研究会と第22回分子寄生虫学ワークショップ／第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラムにて発表した。金子は走査型電子顕微鏡を用いた熱帯熱マラリア原虫の連続断面観察について、熱研共同研究室電子顕微鏡室の坂口美亜子博士らとの共同研究を行い、その成果を第84回日本寄生虫学会大会等で発表した。マラリア原虫Rab5bと原虫分子の感染赤血球への輸送に関する、国立感染症研究所の中野由美子博士との共同研究を継続した。矢幡は東海大学の木村啓志博士らと、マラリア原虫の赤血球の変形を定量解析できるマイクロデバイスの開発を行った。

3) 三日熱マラリア原虫培養株の樹立およびサルマラリア原虫 *Plasmodium knowlesi* の培養

実用的な培養系が確立していない三日熱マラリア原虫の培養系の確立と肝細胞でレポーター分子を発現する組換え三日熱マラリア原虫の作製を目的に研究を進めた。タナシオンは三日熱マラリア原虫の非翻訳領域のクローニングと機能検討を継続し、また、蛍光タンパク質とルシフェラーゼを発現するための三日熱マラリア原虫用プラスミドを構築した。これらのプラスミドを米国国立アレルギー・感染症研究所のトーマス・ウェレムズ博士らとの共同研究としてサルに適応した三日熱マラリア原虫への遺伝子導入を試みた。一方、ラッキー・アムザはハーバード大学のマノジ・デュライシン博士からヒト赤血球での培養に適応した *P. knowlesi* 株を得、長期培養の条件を確立および遺伝子導入実験に成功した。獨協医科大学の川合覚博士から得た培養系に適応したことのない *P. knowlesi* 2株について、同じ条件を用いることにより長期培養系を確立することに成功した。*P. knowlesi* に関する

これらの研究成果は第84回日本寄生虫学会大会にて発表した。さらに、ヒト肝細胞を有するキメラマウスを用いる三日熱マラリア原虫の肝細胞ステージに関する研究にも着手した。

4) マラリア原虫のカルシウムシグナル

キショール・パンディーとペドロ・フェレイラは、カルシウムセンサータンパク質を発現する遺伝子組換え熱帯熱マラリア原虫を用いて、細胞内カルシウム濃度に影響を与える薬剤の本原虫への効果をより深く検討し、第13回あわじしま感染症・免疫フォーラム等にて発表した。

5) マラリア原虫ガメトサイトの解析

中澤秀介はベトナム・カンホア省カンフー地域およびラオス・サワナケット地区セポン郡におけるマラリアの伝播の実態解明に向けて、ヒト並びサルサンプル、そして媒介蚊からマラリア原虫を検出するとともにガメトサイトの解析を継続した。サルマラリア伝播研究や媒介蚊調査に対してドローン活用を開始した。矢幡はマラリア原虫ガメトサイト期におけるカルシウム分布と酸性オルガネラに関して国立感染症研究所の永宗喜三郎博士と共同研究を継続している。

6) 人獣共通感染症サルマラリアのヒトとサルでの感染ダイナミクス

中澤は川合覚博士らとの共同研究として、マラリア原虫が感染したサルの尿と糞便中から原虫DNAをPCR検出する方法を論文報告した (Malaria J 13, 373, 2014)。

7) マラリアに対する創薬と薬剤耐性の研究

上村春樹は大阪市立大学の五十棲理恵博士らとの共同研究として、ケニアの熱帯熱マラリア原虫集団におけるアルテミシニン耐性遺伝子K13の多型について論文報告した (Emg Infect Dis 21, 490-492, 2015)。また、インドネシア・カリマンタン島の熱帯熱マラリア原虫の *pf₁hps* 遺伝子に見つかった新しいアミノ酸置換K504TとI588Fの広がりを調べ、限られた地域でのみ認められる変異であることが明らかになった。

8) マラリア原虫抗原の抗原性と多様性に関するフィールド調査研究

タイ・ナレスワン大学のティップワン・スンカポン博士との共同研究として、熱帯熱及び三日熱マラリア原虫の感染赤血球表面に発現している原虫分子に対するタイ人における血清疫学研究を継続した。さらに、韓国江原大学校の韓銀澤博士らとの共同研究として、韓国とミャンマーの三日熱および熱帯熱マラリア原虫感染患者に対する解析を開始した。ケニアにおける熱帯熱マラリア原虫抗原の抗原性と多様性に関する研究のため、金子は8月にケニアに10日間出張し、大阪市立大学の金子明博士らと共同で30弱の熱帯熱マラリア感染赤血球の凍結保存バイアルを作製し、これら全てのバイアルから培養株の樹立に成功した。ケニアから論文博士候補者であるマウント・ケニア大学のジェッセ・ギタカが平成27年1月初旬から6週間来日し、ケニア株の培養とSURFINの多型解析に従事した。

II. トリパノソーマ原虫に関する研究

上村は東京大学創薬オープンイノベーションセンターの所有する化合物ライブラリーを用いて *Trypanosoma cruzi* トランスシアリダーゼの阻害剤スクリーニングを行い、安定して阻害の認められる6種類の候補化合物を確認した。これら化合物とトランスシアリダーゼの物理化学的結合定数測定、原虫の生活環における効果、影響を調べる。上村は久留米大学の井上雅広博士と共同で、*Trypanosoma brucei* 14-3-3 (Tb14-3-3) 分子の原虫増殖、細胞周期の制御への役割を調べている。このTb14-3-3との結合タンパク質としてその新しいタンパク質リン酸化酵素 (AKB1) を同定し、その局在と生化学的解析を行って原虫の細胞周期における重要性を示した結果を報告した (J Biochem 158, 46-60, 2015)。

III. バベシア原虫に関する研究

麻田らはバベシア原虫が赤血球から放出される際に見られるカルシウムイオンの動態についての共同研究について論文発表した (J Vet Med Sci 77: 53-8, 2014)。麻田は *Babesia bovis* の新たな遺伝子導入法を確立し、第157回日本獣医学会学術集会や第84回日本寄生虫学会大会等にて発表した。ハサン・ハキミは *Babesia ovata* の遺伝子導入に関する研究を推進した。

IV. その他の国際活動

上村は熱研のケニア拠点およびインドネシア・アイルランガ大学と、中澤はベトナム・カンホア省のカンフーマラリア研究センターやラオスの国立公衆衛生研究所等、金子はタイのマヒドン大学や米国南フロリダ大学、米国国立アレルギー・感染症研究所、韓国江原大学といった種々の国外研究機関とマラリアに関する海外共同研究を継続した。麻田、パンディー、ハキミは8月にメキシコで開催されたICOPA会議にて成果発表を行った。ラッキは8月から約1か月間米国国立アレルギー・感染症研究所のチンシュアン・スー博士の下で研究を行った。その後、9月中旬に矢幡とムトゥングに合流し、米国ウッズホールで開催されたMolecular Parasitology Meetingに参加・発表するとともに、ハーバード大学を訪問し研究について討論した。金子は平成27年1月に日本熱帯医学会の監事に着任し、米国国立アレルギー感染症研究所が進めているInternational Centers of Excellence for Malaria Research (Southwest PacificおよびSoutheast Asia地区)の科学諮問委員会委員や学術誌PLOS ONEの編集委員を継続して務めた。

4. 5 寄生虫学分野

本分野は世界的に重要な住血吸虫症・フィラリア症ならびに腸管寄生虫症などの蠕虫疾患、多くの人々を苦しめているにもかかわらず顧みられることの少ないアメーバ赤痢・リーシュマニア症・トリパノソーマ症などの原虫疾患に対してフィールド・ラボ双方向からのアプローチを試みている。

平成26年4月から小田裕美が技能補佐員として本分野配属となった。7-12月の期間、岡山大学・医学部3年生の西野貴大が「医学研究インターンシップ」の一環として本分野に学外配属され、本間季里先生の指導の下、医学研究を行った。医歯薬学総合大学院博士課程4年生・風幸世が日本学術振興会の特別研究員(DC1)に採用され、また3月には医学博士の学位を授与された。熱帯医学修士課程の学生として本分野へ配属されていたケニアのMaurice Amulunduが修士を取得した。技術職員・榊田京子が任期満了に伴い3月31日付で退職した。平成27年3月、一盛和世客員教授を室長とするフィラリアNTD室を立ち上げた。

I. 住血吸虫症に関する研究

平成26年度は、日本学術振興会・頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム『住血吸虫症の多角的な調査を通じたフィールド志向型熱帯感染症専門家の強化育成事業(平成25-27年度)』に基づき、当分野・風幸世、病害動物学分野・二見恭子、免疫遺伝学分野・Lam Bao Quocが頻繁にケニアと英国を訪問し研究を進めると共に、ケニア・マセノ大学やロンドン大学との連携を進めた。ケニア中央医学研究所KEMRIにおいて承認されている研究計画に基づき、Mbitaでの研究を進めると共に、Prof. Njenga (ESACIPAC, KEMRI)の研究グループ、新潟大・松本(結核)グループ、国立感染症研究所などとの共同研究体制を維持・強化した。またさらに、疫学調査の結果を解析し、論文を発表すると共に、生態疫学分野と連携してマンソン住血吸虫の診断用抗原の探索・構築を進めた。

ラボではマンソン住血吸虫の感染モデルを用いた研究を進め、肝臓内にユニークな免疫細胞集団が誘導され、その増加にIL-18が関与することを見いだした。また、福岡大学との共同研究によりマンソン住血吸虫感染が糸球体腎炎の病態を修飾することを見出し、それぞれに関して論文を発表した。

平成27年2月5-6日にかけてWHO本部(ジュネーブ, スイス)において開催されたMeeting on Diagnostic Tools for Schistosomiasis Controlに参加・討議した。

II. フィラリア症ならびにその他の蠕虫疾患に関する研究と国際貢献

ラボでは、マレー糸状虫 *Brugia malayi* , パハン糸状虫 *Brugia pahangi* および糸状虫の媒介蚊であるネッタイシマカ *Aedes aegypti* を継代維持している。

III. アメーバ赤痢およびリーシュマニア症に関する研究

バングラデシュはダッカのICDDR, B.と共にアメーバ赤痢に関する研究を継続すると共に、ムクタガサにおいてポストカラ・アザール皮膚リーシュマニア症PKDLの共同研究を展開した。

4. 6 分子疫学分野—外国人客員

My (Professor Thomas J. Templeton) interests include a broad range of molecular and cellular studies of the malaria parasite, *Plasmodium*, as well as comparative genome annotations of related protozoan pathogens. A general focus centers on parasite-encoded cell surface proteins which confer recognition of and interaction with host tissues and cells. In this past year I participated in a whole genome sequence study for two non-parasitic, “free-living” protozoans, *Chromera* and *Vitrella*, which are models for the transition to parasitism in related pathogens such as *Plasmodium*. This effort was recently published (*Elife* 15, 4; 2015), as well as a companion review which I wrote in collaboration with Dr. Arnab Pain (in press, *Parasitology*). My contributions for both manuscripts were the annotation of *Chromera* and *Vitrella* and comparison with related protozoans, with respect to cell surface proteins which might interact with the external environment and promote the evolutionary transition to parasitism. We have made progress on another comparative project, to characterize erythrocyte modifications induced in the host human or *Rhesus* erythrocyte by the malaria parasite, *Plasmodium knowlesi*. Specifically, we have identified by bioinformatics two parasite protein markers conserved between *P. falciparum* and *P. knowlesi*; and via indirect immunofluorescence microscopy have shown that they localize to parasite-induced cleft-like structures in the erythrocyte cytoplasm, similar to *P. falciparum*. These markers thus unite erythrocyte modification strategies by *P. knowlesi*, with the human malaria parasite, *P. falciparum*.

4. 7 免疫遺伝学分野

2014年に出版された主要な論文を紹介し、関わった教室員や学生の情報を加える。

I. 住血吸虫症

- Mbanefo EC, Kikuchi M, Huy NT, Shuaibu MN, Cherif MS, Yu C, Wakao M, Suda Y, Hirayama K. Characterization of a gene family encoding SEA (sea-urchin sperm protein, enterokinase and agrin)-domain proteins with lectin-like and heme-binding properties from *Schistosoma japonicum*. *PLOS Negl Trop Dis*. 2014 Jan 9;8(1):e2644. doi: 10.1371/journal.pntd.0002644. eCollection 2014. PMID: 24416467

ナイジェリアからの留学生（文科省奨学金）のEvaristus Mbanefoは、すでに前年にシグナルトラップ法を用いた住血吸虫虫卵mRNAライブラリーからのクローニングにより得られた膜あるいは分泌タンパクをコードする遺伝子群のかかなりの遺伝子が共通のシグナル配列を有することから、共通のシグナルを有する遺伝子ファミリーが存在することをBMCgenomics誌に発表した。今回はその遺伝子ファミリーが共通のSEA相同構造を有することを発見した。この構造は興味深いことに、特定の糖鎖に結合し、またヘムに対する強力な結合活性を有するという生物学的な機能を有することを実験的に示した。この研究を含む一連の住血吸虫症に関する研究に対して、平山に日本寄生虫学会小泉賞が授与された。

- Mbanefo EC, Huy NT, Wadagni AA, Eneanya CI, Nwaorgu O, Hirayama K. Host determinants of reinfection with schistosomes in humans: a systematic review and meta-analysis. *PLOS Negl Trop Dis*. 2014 Sep 11;8(9):e3164. doi: 10.1371/journal.pntd.0003164. eCollection 2014.

上記の学生による住血吸虫症の再感染抵抗性を決定する要因に関するメタ解析論文である。今後ナイジェリアの大学でさらに研究活動を開始するための準備として、現地で大きな問題となっている住血吸虫症の制御法開発に関するプロジェクトの提案のため、このようなメタ解析を修得し、要因について整理することを目的とした。その結果、IgEあるいはIgG4特異抗体レベルがその要因として最も顕著な影響を与えることを明らかにした。

II. マラリア

- Cherif MS, Shuaibu MN, Kodama Y, Helegbe GK, Kikuchi M, Ichinose A, Yanagi T, Sasaki H, Yui K, Tien NH, Karbwang J, Hirayama K. Nanoparticle formulation enhanced protective immunity provoked by PyGPI8p-transamidase related protein (PyTAM) DNA vaccine in *Plasmodium yoelii*

malaria model. *Vaccine*. 2014 Apr 7; 32 (17):1998-2006. doi: 10.1016/j.vaccine.2014.01.005.

長崎大学病院薬剤部佐々木均教授グループとの共同研究で、ナノボールと称するDDSを利用したDNAワクチンの有効性について一連の研究を論文として発表しているが、本論文では赤内期をターゲットとした新たな候補分子としてERから細胞膜へのGPIアンカータンパクの修飾輸送に重要なトランスアミナーゼの第8タンパクを同定し、ほぼ100%の防御効果を認めたことを報告した。この論文によって、マウスモデルによる赤内型防御ワクチンの探索におけるナノボールDNAワクチンの有効性の証明を終了し、本方法の更なる応用の可能性を提示することと、今回新規に同定したTAMのヒトワクチンへの研究開発への発展を期することになる。

- Bao LQ, Nhi DM, Huy NT, Kikuchi M, Yanagi T, Hamano S, Hirayama K. Splenic CD11c (+) cells derived from semi-immune mice protect naïve mice against experimental cerebral malaria. *Malar J*. 2015 Jan 28; 14(1):23. [Epub ahead of print] PMID: 25626734 [PubMed - as supplied by publisher]

COEプログラムの特別奨学生であったBao Lamの一連のマラリア研究の成果である。繰り返し感染治療を3回繰り返すと、脳マラリアに感受性であったマウスは抵抗性へと転換するが、この処理マウスの脾臓を分離し、樹状細胞分画をソーターにより分離し、ナイーブマウスに移植すると、このマウスはやはり抵抗性となった。このことから、樹状細胞レベルで何らかの抵抗性を付与する機構が存在することが示された。

Ⅲ. デング熱

- Mangione JN, Huy NT, Lan NT, Mbanefo EC, Ha TT, Bao LQ, Nga CT, Tuong VV, Dat TV, Thuy TT, Tuan HM, Huong VT, Hirayama K. The association of cytokines with severe dengue in children. *Trop Med Health*. 2014 Dec;42(4):137-44. doi: 10.2149/tmh.2014-09. Epub 2014 Jul 31. PMID: 25589878 [PubMed]

2013年にオランダのライデン大学から医学部間の相互交換学生として来日し、約半年間本教室に滞在し、研修を行ったJulia Mangioneの研修中に行った研究をまとめて報告した論文である。Huy助教が直接に指導し、実際にベトナムの病院にも数日滞在しデング熱患者を診療するトレーニングも行った。本論文では各重症度の患者の血漿中のサイトカインレベルを測定し、数種のサイトカインで、重症度により異なるパターンをとることを発見した。

Ⅳ. その他

- Fujii Y, Kaneko S, Nzou SM, Mwau M, Njenga SM, Tanigawa C, Kimotho J, Mwangi AW, Kiche

I, Matsumoto S, Niki M, Osada-Oka M, Ichinose Y, Inoue M, Itoh M, Tachibana H, Ishii K, Tsuboi T, Yoshida LM, Mondal D, Haque R, Hamano S, Changoma M, Hoshi T, Kamo K, Karama M, Miura M, Hirayama K. Serological surveillance development for tropical infectious diseases using simultaneous microsphere-based multiplex assays and finite mixture models. *PLOS Negl Trop Dis*. 2014 Jul 31;8(7):e3040. doi: 10.1371/journal.pntd.0003040. eCollection 2014 Jul.

2010年に当時ケニア拠点の特任教授であった金子聡教授と所長の平山の二人で発想し具体的な方法論と戦略をまとめ、顧みられない感染症の一括診断疫学調査プロジェクトとして、振興調整費の支援により始まったのがマルチプレックスプロジェクトである。その記念すべき最初の論文である。これまで活動性の疾患に特異的に反応すると報告された抗原分子を調査し、これを組換えタンパクとして大量に調製し、マルチプレックスマイクロビーズにコーティングすることにより、少量の血液サンプルによる各個人の多数の感染症の活動性感染状況を瞬時にとらえることができる。本論文ではケニア西部の熱研の拠点地域を中心にサンプリングを行い、この方法が実際に血清疫学による感染症流行状況の把握に有効であることを証明した。このプロジェクトはさらに発展し、アフリカの各地域の研究者を巻き込んで用途を拡大しつつある。

- Huong VT, Ha N, Huy NT, Horby P, Nghia HD, Thiem VD, Zhu X, Hoa NT, Hien TT, Zamora J, Schultsz C, Wertheim HF, Hirayama K. Epidemiology, clinical manifestations, and outcomes of *Streptococcus suis* infection in humans. *Emerg Infect Dis*. 2014 Jul;20(7):1105-14. doi: 10.3201/eid2007.131594.

新興感染症として特に畜産国で恐れられているスイス連鎖球菌感染症のすべての報告論文を集め、その流行様式、臨床症状、病気の帰結についてメタ解析しその特徴を総括した。Master of Tropical Medicineの学生による学位論文を契機として、数年の歳月をかけて完成させた労作である。

- Eikawa S, Mizukami S, Udono H. Monitoring multifunctionality of immune-exhausted CD8 T cells in cancer patients. *Methods Mol Biol*. 2014;1142:11-7. doi: 10.1007/978-1-4939-0404-4_2.

長崎大学医学部出身で、医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻修了しその後理研、岡山大学で免疫学を専攻した水上修作が、特任助教として平山研に参加することとなった。それまでの癌免疫におけるCTLに関する研究を発展させ、熱帯感染症領域での更なる研究の発展を期している。

4. 8 生態疫学分野

本分野では、実態把握と実態の把握から始まる新たな研究への展開を目指し、分子生物学や最新の情報技術も駆使しつつ、広く疾病・健康状態を監視するシステムとそのツールの開発、さらには得られた新たな知見からの次世代研究へと繋げる活動を行っている。

- 1) 貧困層を中心とする複数感染症の一括・同時診断技術開発と広域的監視網の構築に関する研究：

アフリカにおいては、顧みられない熱帯病 (Neglected Tropical Diseases: NTDs) が蔓延し、その実態把握もままならない。幾つかのNTDsは、感染分布も重複していることから、複数のNTDsを同時に監視する事が出来れば、効率よくその実態の把握と対策の評価を行うことができる。本分野では、Multiplex技術を用いた複数の感染症に対する抗体価の同時一括測定技術の開発を展開しており、さらには、その技術を用いたサーベイランス(監視網)の整備にむけての研究も展開している。(PLoS NTD; 8(7): e304014)

- 2) ラオスにおけるHDSSの運営：

開発途上国では、住民登録が未整備な地域も多く、疫学調査を展開するに当たり、地域住民の基礎統計も算出できない。そこで、調査地域に居住しているすべての住民を登録し、その出生、死亡、移動、健康関連情報などを定期的に更新し、長期に追跡するための仕組み (HDSS: 人口登録動態追跡システムという) を展開している。本研究分野では、ラオスのラハナム地区、セボン地区の2箇所において、このHDSSの技術支援をすると共に同地域における健康問題に関する研究も行っている。(医学のあゆみ 2014; 249(6): 557-63, 民族衛生 2014; 80(1): 54-9)

- 3) アフリカにおける地域特性を考慮した乳幼児の健康改善モデル構築に関する疫学研究：

ケニアの地方 (辺縁地域) であるクワレ地区は、ケニア国内においても最も貧困である地域の一つであり、乳幼児死亡も高く、また、子供の栄養状態が悪いことから、stunting (月齢に対する標準に比べて、身長が低い) の割合も高い。そこで、妊婦登録と乳幼児登録により、新生児の把握とその追跡、さらには、乳幼児の健康に関する疫学研究を展開し、新生児死亡やstuntingを予防するための要因の把握に関する研究をタブレットPCや指静脈認証装置を導入し、展開している。(月刊自動認識. 2014)

- 4) スリランカにおける居住地の衛生環境改善によるデング熱予防に関する研究：

スリランカのデング熱は、endemic状態にあり、その対策が急がれている。本分野では、スリランカ・クルネーガラ県、ケラニア大学、大阪教育大学との協力により居住地の衛生環境改善（屋外に放置された容器の回収による清掃活動）によるデング熱予防効果の評価に関する研究を行っている。

5) 陸前高田市における乳幼児を抱える家族の困難に関するエスノグラフィー研究：

東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市の乳幼児を抱える家族が被災後直面した困難やその経過・支援ニーズを災害エスノグラフィーの手法により普遍化し、防災共有財産とすることを目指している。

6) 住民主導による総合的な公衆衛生（CLTS）のアフリカ型のモデルを構築する研究：

住民主導による総合的な公衆衛生活動（CLTS）によるアフリカ型健康改善モデルの構築について研究している。

7) JICAスリランカ国・非感染性疾病対策強化プロジェクト：

スリランカでは、経済発展にともない、寿命が伸び、それとともに生活習慣病の増加と医療費の増加が社会的問題となっている。しかし、その実態を把握する仕組みが存在せず、医療政策策定のための基礎資料に事欠く事態が発生している。本分野では、スリランカにおける生活習慣病患者の実態把握のための仕組みの構築に向けて、JICA事業に協力している。

4. 9 国際保健分野

当分野は、1)「生態系と感染症」に関する研究、2)「環境や気候変動と感染症」に関する研究、3)「時間軸の中での感染症」の再構築に関する研究、4)「歴史感染症学」に関する研究を行っている。各研究において“空間軸”と“時間軸”の2つのキーワードを共通の概念することで感染症の流行の様相や多様性を理解し、且つ微生物の遺伝的多様性を適応や進化といった側面から理解することを目指している。具体的には、実地疫学、分子疫学、統計・数理モデリング、分子生物学的手法を用いた解析、次世代シーケンサー、バイオインフォマティクス、分子進化学を駆使し、多種多様なアプローチによって解決の糸口を探る。これらに加えて、文献資料に基づく歴史学的アプローチも行うことで生物と社会の関係性を広く理解することが可能になると考えている。

もう1つの柱である社会貢献は、分野の特性から国際貢献を行うことを目指す。企業に「企業の社会的貢献（CSR: Corporate Social Responsibility）」という言葉があるように、大学にも社会的責任があると考えられる。そこで、当分野における社会的責任の1つに国際貢献が挙げられ、それを実施するために、①政策の提言、②現場における開発協力、③緊急援助の3項目を通じて国際社会への貢献をする。

【研究活動について】

I. 病原体の分子進化と感染自然史

1) STLV-1の感染自然史

ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1）に近縁なサルT細胞白血病ウイルス（STLV-1）の感染自然史の解明を目指している。これまでに得られた疫学情報の分析によりサルが生活する集団（＝群）には、STLV-1の感染陽性率が50%を超える群も存在し、且つHTLV-1とは異なり母子感染よりも性成熟以降の水平伝播により高い陽性率が維持されている可能性が示唆されている。宿主の変化により病原体の伝播や拡散戦略は大きく変化し、ウイルスが保持する病原性さえも変化することもある。本課題では、HTLV-1とSTLV-1をそうした変化を理解するためのモデルウイルスと捉え、詳細に解析を進める。

2) 動物感染症、人畜共通感染症の循環と生態学的理解

本課題では、抗酸菌種や下痢原性大腸菌群の病原遺伝子や宿主スペクトル、さらにそれらの病原体の病原性を研究対象とし、途上国との連携やフィールド調査に加えて、患者からの病原体の分離・同定や分離した病原体の遺伝的多様性の解析を行っている。

3) 日本における結核菌の遺伝的特性とその来歴

結核菌には複数の系統群が、地域特異的に定着している。東アジア地域では「北京型」と呼ばれる系統群が定着しており、日本での臨床分離株の約8割が同群に分類される。この中で、「祖先型」と細分化された亜系統群は本邦にて優先的に分離されることが知られているが、周辺国を含めて分離例が少ないことから、日本固有の疫学的背景や適応進化が生じていると考えられている。

そこで本課題では、現在株の比較ゲノムと分子進化、過去の結核患者の古病理標本を材料とした微量DNAの調査分析、歴史学的調査といった多角的なアプローチによる解析を行うことで日本における結核菌のルーツと履歴を検証し、現在に及ぼす影響を探る。

4) 文献史料を用いた感染症の流行史

文献史料から得られるデータを用いて過去数百年における日本の感染症流行状況の再現を行う。対象となるのは、江戸時代の天然痘、明治時代のコレラ、戦前から戦後にかけての結核、戦後直後の三日熱マラリアなど、日本社会に多大な影響をもたらした事例である。過去の感染症流行については、これまでに歴史学や社会経済学史などの領域で文献史料のみを用いた人文・社会科学的手法により研究されてきた。本課題では、天然痘については数理疫学による伝播パターンへの追求、結核については遺伝子型別に基づく結核菌の分子疫学研究などを文献史料の分析と合わせて用いることで、過去の感染症流行の実態に迫ることを目指している。

II. 寒冷高地への適応と生活習慣病に関する疫学研究

中国西北部（四川省，青海省，チベット自治区），およびネパール北部の海拔3500mを超える高地居住者で問題となっている生活習慣病（肥満，糖尿病，高血圧など）が，どのような原因に基づくものであるのかを疫学的に解明することを目的とする。そこで長期的な視野に基づき，次の2点からの解析を行っている。第一に，伝統的な塩分多量摂取する食文化が歴史文化的適応において生活習慣病を増加させる要因となっているのではないかという点である。第二に，数千年に及ぶ高地居住で蓄積された遺伝的変化，すなわち身体的適応と生活習慣病との関係である。これらについて，現地住民の食生活調査や身体計測などのデータを採取する。

本課題では，高地居住者が歴史文化的および遺伝的適応をどのように行ってきたのかを踏まえ，このような状況が生活習慣病を増幅させる要因となっていないかを疫学的に明らかにし，これらを基に高地居住者の健康増進法について検討する。

III. 結核分子疫学に基づく伝搬経路推定

結核分子疫学は，結核菌の遺伝的多様性を指標として患者由来株の異同，または相同を判定し，感染源や伝搬経路を推定することを目的とする。本邦では，東アジア地域の定着化部である北京型結核菌において分解能が高いJATA(12)-VNTR型別分析が標準法として有効であり，地方衛生研究所（地衛研）を中心に普及が進められている。しかしながら，数十年にわたる潜伏や患者の長距離移動などなどの様々な要因のために遺伝子多型解析のみでは結核の伝搬経路の正確な追跡は難しく，患者情報をはじめとした多様な疫学情報を付しすることが不可欠である。

そこで当分野では，1）地衛研との連携に基づく実地疫学や遺伝子多型情報の集積と各用の模索，2）次世代シーケンサーの活用と菌株間比較ゲノム解析による超精密な異同判定手法の確立，3）統計数理モデリングによる実地疫学情報の高度活用を柱とし，結核菌伝搬経路の正確な推定と結核公衆衛生への還元を目指している。

IV. ピロリ菌の病原性に関する研究

本邦では、男女問わずに毎年数多くの胃ガン患者や胃ガンに起因した死亡者が報告されている。胃がんを誘発する要因は多岐にわたるが、それらの中でピロリ菌が最も重要な因子であることが広く知られている。現状では抗生物質を用いた化学療法でピロリ菌を除去することが一般的に行われているが、他の病原細菌同様にピロリ菌も薬剤耐性菌が増加傾向にあり、抗生物質に頼らない治療法の確立が求められている。新たな治療法や予防法などを確立するには、ピロリ菌がどのように胃ガンなどの疾患を引き起こすのかを理解し、同時にピロリ菌の病原因子が疾患形成における役割などを明らかにすることが重要である。

そこで本課題ではピロリ菌の病原因子であり、胃ガンなどの疾患の形成に重要な役割を担っていることが示唆されるVacAに着目し、ピロリ菌感染におけるVacAの役割を分子生物学的な手法を用いて解析する。特に、ピロリ菌感染によって誘発される主病態の1つであるガンの形成におけるVacAの役割を明らかにすることで、VacAの標的とした新たな治療法や予防法などの確立を目指し、臨床面での応用も視野に入れている。

V. 特殊環境下に居住する住民の腸内細菌叢の解析

ヒト腸管内には膨大な数や種類の微生物が存在し、常在細菌叢と呼ばれる微生物の集団を形成しており、ヒトの健康の維持に重要な役割を担っていることが報告されている。常在細菌叢は各人固有の構成を有しており、生活する環境や摂取する食事などに応じて細菌種の構成が変化することが知られている。近年では、microbiomeと呼ばれる次世代シーケンサーを用いた解析により、ヒトの腸管内や皮膚に存在する細菌種の構成が明らかになりつつある。

当分野では、特殊環境下（高地や砂漠など）で生活する住民の常在細菌叢を明らかにすることで、環境適応に特徴付けられる細菌種の構成が認められるのかを検証するという計画をしている。また同時に、それら特殊環境下で生活する住民から回収した糞便サンプルを適切に保存する方法の確立も目指す。

4. 10 病害動物学分野

当分野では、主に感染症を媒介する昆虫の生理、生態、分類及び防除について、フィールドを重視した研究を行なっている。特にケニアと南アフリカでは、マラリア原虫媒介蚊の生態とその防除について、東南アジア、東アフリカ各地においては、デングウイルス媒介蚊を対象とする研究を実施している。また、25年度から、ケニアにおいて、住血吸虫症の中間宿主である貝の生態に関する研究も開始している。

I. マラリア媒介蚊研究

マラリア媒介蚊の研究は、主に、西ケニアにあるフィールドで実施している。西ケニアでは、住友化学と共同研究で1万2000人を対象とした、2種類の新型蚊帳（オリセットプラスと天井型オリセット蚊帳）の効果試験を実施し、それぞれの新型蚊帳により、マラリア感染を半減できるなどの成果を上げている。上記試験を実施するにあたって、現地の状況を調べたが、子供は床で寝る傾向があり、床では蚊帳が張りにくく、感染リスクが高くなるなど、新たな知見を得ている。さらに、殺虫剤付き蚊帳の普及後、急速に殺虫剤抵抗性が媒介蚊に広まっているとともに、殺虫剤の影響を受けやすい屋内吸血性の媒介蚊の割合が減少し、屋外性の蚊の割合が増加していることを明らかにした。

また、気候変動とマラリア感染への影響について、小児感染症分野と共同で研究を進めており、気候をもとにした流行予測を目指している。同様の研究を南アフリカでも実施しており、海洋研究開発機構が開発中の気候変動予測モデルをもとに感染症流行の予測と警報システムの開発を目指している。

II. デング熱媒介蚊研究

デングウイルスを媒介する蚊の生態研究においては、東南アジアおよびアフリカ各地で、媒介蚊の種構成、殺虫剤抵抗性、ウイルス感受性など、感染に重要なリスク因子について分析を行なっている。現地の防蚊対策および日本への侵入を防ぐための有益な情報が世界各地から集まりつつある。これらのデータは、媒介蚊の起源およびグローバル化に伴う蚊の移動などを推測する上でも重要な情報である。

III. 住血吸虫中間宿主研究

西ケニア・ビクトリア湖周辺の村では住血吸虫の感染が非常に高く、重大な健康問題となっている。そこで、寄生虫学分野と共同で、住血吸虫症を対象としたプロジェクトを実施している。病害動物学分野では、中間宿主の貝の生態研究を担当し、湖内では、浮遊しているホテアオイに貝が付着して移動している等の新たな知見が得られている。

4. 11 臨床感染症学分野（熱研内科）

当分野では、熱帯地および国内の臨床現場で最も問題となる呼吸器感染症、エイズ、結核、熱帯感染症等の臨床研究を推進している。基盤となる病院ベースおよびコミュニティ・ベースの臨床疫学フィールドを立ち上げ、適正な研究デザインに基づき体系的に収集した質・量とも

にレベルの高い情報と検体を蓄積させ、これらを核とし、患者とサイエンスをつなぐ学際的研究を実施してきた。当分野の最大の特徴は、長崎大学病院にて診療科（呼吸器・感染症内科）として日常的に診療を行っていることにある。国際医療センター 1 階内科病棟で、年間約250症例の入院患者を診療する他に、院内感染症内科コンサルタント業務を充実させた結果、平成26年度の年間院内紹介症例は459症例まで増加した。その殆どは、当該診療科では手に負えなくなった重症の感染症患者である。

I. 呼吸器感染症に関する研究

- 1) ナノテクノロジーを応用し50種類の主要な肺炎球菌血清型を多検体同時に同定・定量できる検査法を確立した (Dhoubhadel, J Med Microbiol. 2014)。本検査法は、マイナー群として存在する肺炎球菌血清型を高感度で定量的に検出できるため、異なる血清型に重複して定着している患者を容易に同定できる。これを用いて、ベトナム人小児の鼻咽頭拭い液を調べた結果、肺炎球菌血清型特異的菌量が、血清型頻度と相関していること、複数の血清型に感染している割合が、急性呼吸器感染症患者の方が健康小児に比べて高いこと、重複感染している場合の菌量は、優位な血清型の方がマイナーな血清型に比べて200倍高いことが判明した (Dhoubhadel, PLOS ONE 2014)。
- 2) 高齢化の進む国内において、成人の肺炎の疫学情報は非常に重要であるが十分ではない。そこで、高知県の近森病院で2008年から市中肺炎の前向きコホート研究を行い、日本で初めて成人市中肺炎の発生率を推定した。これによると高知市における市中肺炎の発生は9.6/1000人・年と推定され年齢とともに増加していた (Takaki, Jpn J Infect D. 2014)。この研究をもとに、我が国における医療介護関連肺炎も含めた市中発生肺炎 (COP) の疫学の重要性を考え、北海道、千葉県、高知県、長崎県の四病院において2011年9月から順次前向きサーベイを開始し、各病院において2年間の症例登録を行った。これにより、日本におけるCOPの発生率を年齢別、原因微生物別に算出した。この中では肺炎球菌やインフルエンザ菌、ウイルス感染と並んで、高齢化社会において誤嚥の関連する肺炎が重要であることを明らかにした (Morimoto, PLOS ONE 2015)。また、肺炎球菌性肺炎は高齢者においても重要な肺炎の起炎菌であるが、これによる高齢者介護施設における集団発生事例を調査し、論文として報告した (Kuroki, J Am Geriatr. 2014)

II. 呼吸器病学に関する研究

長崎大学病院においては、希少疾患の一つである肺胞蛋白症の診療を積極的に行っており、H27年度から始まるGM-CSF吸入療法の医師主導治験の九州で唯一の拠点施設として準備も行ってきた。H26年度は自己免疫性肺胞蛋白症に対するGM-CSF吸入治療後の効果持続

期間について35名の患者で検討し、23名は30か月以上持続することを確認した (Tazawa, Chest 2014)

Ⅲ. エイズに関する研究

タイ国立衛生研究所との共同研究として立ち上げた北タイのランパン病院におけるHIV感染者およびその配偶者を対象にしたコホート研究は、これまで3,706名の患者が登録された。2010年12月に追跡を終了した後も、これまでに蓄積された臨床データや検体を用いた学際的研究が推進されている。本年度は、CRF01_AEサブタイプが流行する北タイの抗HIV薬治療前の患者群 (n=557) おいて、HLA B*57に加え、HLA B*3505が低ウイルス量と有意に相関し、HIV感染症に対して防御的に働いていることを発表した (Mori, AIDS 2014)。さらに抗HIV薬治療を開始した患者コホート (n=914) を用いて第一選択薬であるジェネリック合剤 (d4T/3TC/NVP) からの薬剤変更リスクを解析し、HLA*B3505が薬疹を原因とする薬剤変更のリスクを有意に高めていることを発表した (Tsuchiya, BMC Infect Dis. 2014)。

Ⅳ. 免疫・炎症関連疾患の宿主要因に関する研究

全国実態調査を実施したメンデル性遺伝性疾患である家族性地中海熱の国内症例について、その原因遺伝子であるMEFVの遺伝子型と症状の特徴をまとめた (Migita, Medicine 2014)。また、国立病院機構長崎医療センターならびに佐世保市立総合病院との共同研究として家族性地中海熱と別の周期性発熱疾患であるTRAPSの重複症例や、新しい疾患単位とされるIMAM (inflammatory myopathy with abundant macrophages) の症例において、家族性地中海熱の原因遺伝子であるMEFVやTNF受容体遺伝子に変異を認めることを明らかにした (Fujikawa, Clin Exp Immunol. 2014)。

Ⅴ. その他

小児感染症分野とのベトナムでの共同研究成果についての説明は、重複する為、ここでは割愛する。(Yoshida, Trop Med Health. 2014) (Le, Influenza Other Respir Viruses. 2014) (Flasche, Vaccine 2014) (Toizumi, Pediatrics. 2014)。

4. 12 小児感染症学分野

I. 臨床疫学に関する研究

1) ベトナム・カンホア県ニャチャン市における小児感染症研究 (J-GRID)

ベトナム国立衛生疫学研究所(NIHE)との共同研究。2006年,2010年にカンホア県全住民(人口約35万人)を対象としたセンサスをおこない,人口・社会経済状態の他,急性呼吸器感染症(ARI),下痢症など小児感染症罹患に関する情報を収集した。また,2007年よりカンホア総合病院においてMultiple PCR法を用いてARI入院患者の病原ウイルスを同定するARIサーベイランスシステムを構築した。これらデータをもとに小児感染症データベースを作成した。平成26年度には以下の研究結果を発表した。

これまで中部ベトナムで行った大規模コホートおよび病院を基盤にした臨床疫学研究活動の概要を発表した。(Trop Med Health. 2014 Jun;42 (2 Suppl):47-58.)

病院サーベイランスデータを用いて, B型インフルエンザ桿菌 (Hib) ワクチン導入による急性呼吸器疾患・肺炎罹患に対する効果を数理モデルにより推定した。肺炎患者数の季節性と年々変動を考慮したモデルを用い, Hibワクチン導入後に全細菌性肺炎が31%減少したことを明らかにした。(Vaccine. 2014 Nov 1;32 (51):6963-6970.)

5歳未満小児の主要死因の一つである肺炎球菌の複雑な疫学を明らかにするため, また肺炎球菌ワクチンの効果を評価するため, 肺炎球菌の血清型別定量化を可能とする流体素子リアルタイムPCRを応用して新しい分析方法を確立した。1回の分析で45サンプルを29血清型について定量化することが可能であり, 肺炎球菌の大規模疫学研究の実施が可能となった。

(Journal of Medical Microbiology. 2014 Apr;63 (Pt 4):528-39.)

肺炎球菌の90以上の血清型の重複常在と臨床症状との関連を明らかにするため, 新しく確立した流体素子リアルタイムPCRシステムを用いて, ARI罹患小児および健康小児において解析を行った。ARI罹患小児だけでなく健康小児においても, 血清型特異的な菌量とその保菌率と相関していることが明らかとなった。複数の血清型の常在は健康小児よりARI罹患小児で多く認められた。(PLoS ONE. 2014 Oct 31;9(10):e110777.)

急性下気道感染症の主要な病因の一つであるRSウイルス (RSV) の新しい遺伝子型であるON1が近年出現した。遺伝子型ON1とその祖である遺伝子型NA1でRSVの糖タンパク(G) 遺伝子の包括的な遺伝子解析をおこなった。ON1の進化速度はNA1のそれよりも速く, ON1が抗原を変化させ速やかに進化し, 多くの国でRSV感染の流行を引き起こしていることが示唆された。(論文投稿中)

2) 他の共同研究プロジェクト

臨床医学分野との共同プロジェクトとして、日本の老年人口での市中肺炎発生率、疾病負荷、病因を調査した。(Jpn J Infect Dis. 2014;67(4):269-75, PLoS One. 2015 Mar 30;10(3):e0122247.)

病害動物学分野との共同プロジェクトとして、都市人口における移住とデング熱入院の関連について、ベトナム北部でケースコントロール研究をおこなった。(Trop Biomed. 2014 Dec;31(4):698-708.)

ケニア拠点との共同プロジェクトとして、熱帯感染症の血清学的調査のため、simultaneous microsphere-based multiplex assaysとfinite mixtureモデルを開発した。(PLoS Negl Trop Dis. 2014 Jul 31;8(7):e3040.)

II. 環境疫学に関する研究

1) バングラデシュにおける洪水災害・気候変動と感染症流行

- ① 首都ダッカのスラム地区における小児呼吸器感染症サーベイランスデータを用いて、気候変動と小児呼吸器感染症の疫学的関連を明らかにした。(Global Health Action 2014) バングラデシュ国際下痢症研究センター (icddr,b) との共同研究。
- ② エルニーニョやインド洋ダイポールなど気候変動とダッカのコレラ患者数の関連を調べ、両者の間に有意な関連を見いだした(論文投稿中)。さらに、数値シミュレーション結果を用いてバングラデシュ沖海面水温の変動過程を調べ、エルニーニョやインド洋ダイポールがバングラデシュ沖の水温変動を引き起こしていること、河川水流出の影響がこの海域の水温の変動メカニズムに本質的な影響を与えていることを明らかにした (J. Climate 2015)。香川大学、海洋研究開発機構との共同研究。

2) 東アフリカの高地マラリア再流行と海洋・気候変動、ビクトリア湖の生態環境

衛星観測によるビクトリア湖の生態環境情報を用いた予測モデルの開発に関する研究を開始した。宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、長崎大学工学部、ケニア拠点との共同研究。

3) 東アジア、WHO西太平洋地区 (WPRO)、日本における気候変動および越境大気汚染の健康影響

- ① 東アジアの気候変動および黄砂をはじめとする越境大気汚染の健康影響に関する疫学研究を進める目的で、ソウル国立大学 (韓国)、国立台湾大学 (台湾)、复旦大学 (中国)、筑波大学との共同研究プロジェクトを継続した。日本、韓国、台湾の複数都市データを用いて黄砂と死亡数との関連を解析した結果、日本と韓国において黄砂と死亡数増加、台湾において死亡数減少のエビデンスが得られた (Atmospheric Environment 2014)。

- ② ロンドン大学衛生熱帯医学大学院など12カ国の研究機関が加わる研究ネットワークに参加し、日本を含む13か国の気温と死亡者数に関する時系列データベースを構築した。今後、気温と死亡の関連に関する時系列統計解析を共同で進める予定である。
- ③ WPROのプロジェクトに参加し、西太平洋地域数か国の感染症サーベイランスデータを収集し、気候変動との関連を解析した（論文投稿中）。
- ④ 環境省「黄砂の健康影響に関する疫学研究等を行うワーキンググループ」において国内の既存疫学データの統計解析をおこなった（エアロゾル研究 2014）。
- ⑤ 環境省環境研究総合推進費「S-8」の研究として、筑波大学、国立環境研究所、長崎大学医学部保健学科と共同で、五島市における熱中症予防ランダム化地域比較介入研究をおこなった（Int. J. Environ. Res. Public Health 2015）。

4) 感染症と気象因子の時系列解析に関する理論疫学研究

日毎死亡数と気温との関連について、季節性などの交絡因子を調整した時系列解析研究が数多くなされており、同様の方法を用いて種々の感染症と気象因子との関連も解析されてきたが、感染症データに同法を用いる際の方法論的な検証はこれまでなされていない。コレラおよびインフルエンザサーベイランスデータを用いてシミュレーションを行い、感染症データに特異的な留意点の整理を行った。ロンドン大学との共同研究（Trop Med Health 2015）。

5) 節電による超過死亡数の推定

東日本大震災後の節電政策による東京都の超過死亡数の推定を、人口動態統計、気温、電力使用量データ等を解析して明らかにした。ロンドン大学（LSHTM）との共同研究。

4. 13 臨床開発学分野

臨床開発学分野は世界保健機関WHO決議事項（WHA61.21）である公衆衛生とイノベーションと知的財産権におけるグローバル戦略に応えるべく2011年度より新設された。この決議は実際に公衆衛生上のニーズに見合った医薬品の研究開発を促進することで、特に開発が遅れている発展途上国に偏ってみられる病気に対する医薬品開発を適正な規模で行うようにという趣旨でなされた。また、本分野は日本の文部科学省（MEXT）の特別の援助によって設置され、この分野の研究開発プロジェクトや人材育成プログラムが軌道に乗るまで継続して特別の支援を受けることとなった。

2014年6月に技能補佐員としてディラーニーさゆりが当分野に加わる。客員教授Kesara

Na-Bangchang (タイ) が共同研究者として度々長崎大学を訪れている。2013年2月より准教授 Nguyen Huy Tien (ベトナム) が加わる。また4月から客員研究員として Tullyakorn Plengsuriyakarn (タイ) が加わり、ヒト胆管癌異種移植ヌードマウスモデルを用いた β -eudesmol の抗がん作用のPET-CTによる研究を行った。12月には協力研究員として Wiriyaoporn Sumsaku (1タイ) が加わりPEC/SPECT/CTイメージングシステムを用いたPlumbanginの薬物動態研究を行っている。

【研究活動】

I. Double blinded randomised placebo controlled phase II trial of Shiunko Ointment local application twice a day for 4 weeks in Ethiopian patients with localized cutaneous Leishmaniasis.

Activities completed:

The study and data analysis were completed. The paper of this study has been sent to the Journal for publication, awaiting decision of the Journal.

II. Evaluating anticancer activity of β -eudesmol in Human Cholangiocarcinoma (CCA) using hamster model

The study has been completed and the result has been published

III. A randomized Clinical trial to assess the subject's understanding of the informed consent for phase I clinical trial.

The following tasks were completed:

1. The first paper: "Understanding of Essential Elements Required in Informed Consent Form among Researchers and Institutional Review Board Members" has been published.
2. The second paper: "SIDCER methodology for developing ICF" was written and sent to Journal for Publication, awaiting the decision of the Journal
3. The third paper: The study on A randomized Clinical trial to assess the subject's understanding of the ICF for healthy volunteer is completed. The paper was written and will be submitted in September 2015

Teaching Activities (2014-2015)

I. In collaboration with the Department of Immunogenetics

1. A 3-day Research Ethics Workshop in May 2014
2. A 2-week course on Product Development in Oct 20-30, 2014

II. MTM course

1. A one week course on Conducting Responsible Research (March 30-April 2)
2. Supervised MTM student
3. Teaching one session on WHO/TDR research

III. Leading program PhD course

1. Mentored Mr. Ernest
2. Supervised Dr. Nut Koonrungsomboon
3. Provided guidance in development of new tool for the informed consent process (Dr. Nut's research)
4. Provided guidance in development of herbal medicine for malaria (Dr. Martha)
5. Accompanied Dr. Nut to present his research and attend the FERCAP conference in November 23-25, 2014 in Tagaytay, Manila.
6. Lectured two sessions for Communication class on writing scientific paper.

III. In collaboration with SIDCER – FERCAP (2014-2015)

1. A 3-day training course for Ethics committee Surveyors
 - a. China:
 - b. Thailand
 - c. Philippines
 - d. Chair and speaker, at the 14th FERCAP Annual International Conference (Nov 23, 2014, Tagaytay, Philippines) on informed consent session

Network activities (2014-2015)

1. Initiated a collaborative network (three medical schools in Thailand Chulalongkorn University, Siriraj Medical School, Mahidol University and Khon Khaen University, School of Public Health in USA – University of Washington and the Middleton Foundation for Ethics Studies – a non profit organization in Olympia, USA) to develop curriculum for international fellow-ship program for Research Ethics. This curriculum is a six month training individuals on theory and practical aspects of ethical review in biomedical research. The first course started in October 2014. The first batch of training has completed the course successfully. There were 5 participants for this first course, all from Thailand.
2. Initiated a collaborative network with Thammasat University (TU, The International College of Medicine) and the Thai Government Pharmaceutical Organization (GPO) for research and development of an Herbal Medicine for Cholangiocarcinoma. The MOU between TU and GPO was signed on January 2015.

Social activities (2014-2015)

1. Coordinator of Strategic Initiative for Developing Capacity in Ethical Review (SIDCER)
2. Secretariat team Member for the FERCAP (Forum of Ethical Review Committee in Asia and western Pacific)
3. Chair and a speaker, International Annual FERCAP Conference in Tagaytay, Philippines (November 2014)
4. An examiner, the PhD proposal defend examination at Thammasat University, Thailand (2014)

Publications: (2014-2015)

1. Nut Koonrunsesomboon, Kesara Na-Bangchang, Juntra Karbwang. (2014) Therapeutic potential and pharmacological activities of *Atractylodes lancea* (Thunb.) DC. *Asian Pacific Journal of Tropical Medicine*, 412-420 Doi:10.1016/s1995-7645(14)60069-9
2. Wiriyaporn Sumsakul, Tullayakorn Plengsuriyakarn, Wanna Chaijaroenkul, Vithoon Viyanant, Juntra Karbwang and Kesara Na-Bangchang (2014) Antimalarial activity of plumbagin in vitro and in animal models, 14:15 <http://biomedcentral.com/1472-6882/14/15>
3. Mahamoud Sama Cherif, Mohammed Nasir Shuaibu, Yukinobu Kodama, Tomoaki Kurosaki, Gideon Kofi Helegbe, Mihoko Kikuchi, Akitoyo Ichinose, Tetsuo Yanagi, Hitoshi Sasaki, Katsuyuki Yui, Nguyen Huy Tien, Juntra Karbwang, Kenji Hirayama (2014) Nanoparticle formulation enhanced protective immunity provoked by PYGPI8p-transamidase related protein (PyTAM) DNA vaccine in *Plasmodium yoelii* malaria model. <http://dx.doi.org/10.1016/j.vaccine.2014.01.005>
4. Long NP, Huy NT, Trang NT, Luan NT, Anh NH, Nghi TD, Hieu MV, Hirayama K, Karbwang J. Scientific Productivity on Research in Ethical Issues over the Past Half Century: A JoinPoint Regression Analysis. *Trop Med Health*. 2014 Sep;42(3):121-6. doi: 10.2149/tmh.2014-12. Epub 2014 Jul 17.
5. Tullayakorn Plengsuriyakarn, Juntra Karbwang ‡ and Kesara Na-Bangchang. (2015) Anticancer activity using positron emission tomography-computed tomography and pharmacokinetics of b-eudesmol in human cholangiocarcinoma xenografted nude mouse model. *Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology*. doi: 10.1111/1440-1681.12354
6. Tam NT, Huy NT, Thoa le TB, Long NP, Trang NT, Hirayama K, Karbwang (2015). Participants' understanding of informed consent in clinical trials over three decades: systematic review and meta-analysis. *Bull World Health Organ*. Mar 1;93(3):186-98H. doi: 10.2471/BLT.14.141390. Epub 2015 Jan 22.

5 附属施設

5.1 アジア・アフリカ感染症研究施設拠点

5.1.1 ケニアプロジェクト拠点

ケニアプロジェクト拠点は文部科学省の特別教育研究経費（連携融合事業）「新興・再興感染症研究ネットワークの構築」（平成17年9月～平成22年3月）に引き続き、平成22年4月からは文部科学省特別経費（全国共同利用・共同実施分）「熱帯病・新興感染症臨床・疫学研究プログラムーアフリカと日本を結ぶ教育研究体制の構築ー」で運営する海外教育研究拠点である。当拠点はケニア中央医学研究所（Kenya Medical Research Institute, KEMRI）内に設置されている。

この事業はアフリカに開設したケニア教育研究拠点を充実強化し、これを活用しながら熱帯医学・臨床疫学研究の日本の中心として公募研究者と協力して熱帯病・新興感染症の予防治療に資する研究を行うと同時に人材育成を行うものである。

平成22年3月には熱研ケニアプロジェクト拠点に長崎大学・アフリカ拠点が併設され、このアフリカ拠点をプラットフォームとして長崎大学歯学部、水産学部、工学部および医学部保健学科が研究活動を開始した。

ケニアプロジェクト拠点は連携融合事業に引き続き、下記の三つの柱を中心に研究教育活動を展開している。

1. ナイロビの微生物病研究センター（CMR, KEMRI）内の病原微生物を扱う高度安全レベル3実験施設（P3ラボ）を始めとした実験室およびKEMRIの製造部門における実験室の整備と運営
2. ビタ県及びクワレ県の2か所の人口静態動態サーベイランスシステム（HDSS: Health and Demographic Surveillance System）の構築と運営
3. ビタ県及びクワレ県の病原体媒介生物（蚊、貝）のモニタリングシステムの構築と運営

【研究活動】

ビクトリア湖畔のビタ県で長期にわたり、特定した地域内の全人口、疾病、出生、死亡に関する情報を定期的に収集・集約するシステム（Health and Demographic Surveillance System, HDSS, 人口静態動態調査システム）及びマラリア伝搬蚊を定期的に収集・分析するシステム（Mosquito Surveillance System）を稼働させている。同地域では平成21年1月から3年間実施してきたJICA

草の根技術協力事業に引き続き、新たな学校保健に焦点を当てた草の根技術協力プロジェクトを実施している。海岸地域のクワレでも平成22年から寄生虫学研究と人口静態動態調査システム（HDSS）を稼働させている。

ビタにおけるマラリア媒介蚊とマラリア撲滅研究、ブシアにおける蚊媒介性ウイルス性出血熱の研究並びに下痢症と敗血症の研究をナイロビの研究室とKEMRIHQの生産部門で行っている。クワレにおいてもビルハルツ住血吸虫症の疫学研究などを行っている。平成24年3月、JST-JICAプロジェクト（SATREPS）を開始し、KEMRI 生産部門およびブシア KEMRIの研究室整備を行い、研究を実施している。平成24年4月に開始したNTD（顧みられない熱帯病）を対象とした血清疫学プロジェクト（科学技術戦略推進費）は、拠点の研究室の整備を行い、研究を実施している。長崎大学歯学部はビタで歯科保健研究を継続し、長崎大学水産学部および工学部は8月に正式にカウンターパートファンドとして採択されたビクトリア湖畔の水純化および水産資源開発プロジェクトを2014年2月に開始した。

KEMRIのISO取得に向けたQuality Management Procedureの申請及びP3ラボを含めた拠点研究施設のKMLTTB（Kenya Medical Laboratory Technician & Technologist Board）認証の申請を行い、それぞれ認可を受けた（ISO 9001:2008, KMLTTB Reg. No. G373）。

拠点におけるすべての研究活動はケニア人研究者との共同研究として行われている。KEMRI（ケニア中央医学研究所）、KNH（ケニヤッタ国立病院）のScience Steering Committee（SSC）およびEthical Review Committee（ERC）およびマセノ大学のERCで承認され、平成26年度中に継続中の研究は下記の通りである。

KEMRI関連

No	承認番号	承認年	研究タイトル	日本主任研究者	所属
1	1088	2006	Establishment of demographic surveillance system in Kenya (Suba and Kwale): A platform for development of demographic health information system to support research and control of infectious diseases and health-related problems	金子 聡, N. Wamae	生態疫学
2	1323	2008	The study on the diarrheagenic agents as intestinal and invasive infection in Nairobi and Western Kenya	一瀬休生 S. Kariuki	ケニア拠点
3	1981	2011	The seroprevalence and risk factors for dengue infection in selected facilities in the Kenyan coast	森田公一, M. Mwau	ウイルス
4	1304	2009	The Serosurveillance survey for yellow fever virus exposure in humans at selected facilities in Kenya	森田公一, M. Mwau	ウイルス
5	1698	2009	Novel approaches to the diagnosis, characterization and surveillance of priority infectious diseases	森田公一, M. Mwau	ウイルス
6	2084	2012	Polyparasitism and Other major infectious diseases in rural settings: Prevalence surveys in school children in Kwale and Mbita, Kenya	濱野真二郎, Summy Njenga	寄生虫
7	1775	2010	Monitoring of pyrethroid resistance in malaria vectors in Kenya	川田 均, C. Mwatele	病害動物

8	2016	2011	Detection of gene(s) involved in pyrethroid resistance in the mosquito vector <i>Culex quinquefasciatus</i> in Suba district, Western Kenya	川田 均, C. Mwatele	病害 動物
9	2522	2013	Small scale field trial of new bed-nets containing insect growth regulator, pyriproxyfen , against malaria vectors in western Kenya vector <i>Culex quinquefasciatus</i> in Suba district, western Kenya	川田 均, G. O. Dida	病害 動物
8	2126	2011	Geographical distribution and population genetic structures of <i>Aedes aegypti aegypti</i> and <i>Ae. Aeg. Formosus</i> in Kenya	二見恭子, S. Jenga	病害 動物
9	2131	2011	Effect of two different new mosquito nets on malaria vectors and anemia in children: A randomized field trial in western Kenya	皆川 昇, S. Jenga	病害 動物
10	2012	2012	Epidemiological malaria survey on island in Lake Victoria	金子 明, W. Akwale	大阪 市大
11	1934	2011	Development of a Concurrent Detection method for a wide range of Pathogens of Neglected Tropical Diseases (NTDs) in Africa	金子 聰, M. Mwau	生態 疫学
12	1964	2011	A cohort study on child health in Mbita and Kwale: A study Nested on the established Health and Demographic Surveillance system to determine comorbidity and potential risks for high morbidity and mortality	金子 聰, M. Karama	生態 疫学
13	2680	2014	Utility of Multiplex Technology for Disease Diagnosis in Laboratory and Field Settings	金子 聰, M. Mwau	生態 疫学
14	2483	2013	Detection and molecular Characterization of diarrheal viruses isolated from children admitted to selected health facilities in Kenya	一瀬休生, J. Nyanmgao	ケニア 拠点

KNH関連

1	P328/ 09/ 2010	2010	Oral health Survey in an area with limited access to dental services in Mbita District, Kenya	林 善彦	長崎大 歯学部
---	----------------------	------	---	------	------------

マセノ大学関連

1	000037 /13	2013	The effect of environmental variability on malaria and diarrhea transmission in the Winam bay region lake Victoria	橋爪真弘 E. Ondari	小児感 染症学
---	---------------	------	--	-------------------	------------

【教育活動】

米国ミネソタ大学学生（5名，10月10日）の拠点見学，および長崎大学国際健康開発研究科（3名）のインターンシップおよび研究活動支援を受け入れる一方，ケニア人の学部学生（5名）の実習受け入れや修士学生（12名）博士課程（2名）の研究指導を行った。また長崎大学国際健康開発研究科，熱帯医学研修所熱帯医学研修課程の講義を行った。

【社会貢献】

- ① ビタ地区の小学校28校で、県教育局、保健局およびコミュニティーヘルスワーカーの協力を得て学校保健活動の一環である児童の身長、体重の測定を行い、草の根技協の活動を開始した。なお、現在では事業実施地域の全校の100校にまで広がっている。(5月)
- ② ケニア教育省主催、サイエンスウィーク活動の一環であるロボットコンテストへ工学部喜安千弥教授が参加(5月18日)
- ③ JICA教師海外研修の受け入れ(8月3日～5日)
- ④ 日本人会・ふれあい祭りに参加(かまぼこの披露)(9月20日)

【その他】

運営：

- ① Lavicord Project Operational Agreement 署名取得完了(5月)
- ② 一瀬拠点長, Mr Paul Gondi (Kenbright NBC/Group Chairman) と共にGreat Lake University of Kenya (GLUK)を訪問し, 学長のKaseje 教授と意見交換(5月16日)
- ③ Scientific Symposiumへの参加(7月3日)
- ④ 3rd JICA-JST SATREPS PROJECT Joint Coordinating Committee Meetingの開催(7月8日)
- ⑤ Kisumu Agricultural ShowにてKMFRIのブースでナイルパーチ, テラピアで製造した蒲鉾の試食会を実施(7月31日)
- ⑥ 楽映社, ナイロビ大学との覚書の締結(8月13日)
- ⑦ ナイロビ大学での三池崇史監督講演会(9月10日)
- ⑧ バイオセーフティーワークショップ(P3セミナー)開催(10月7, 8日)
- ⑨ NHK特番のための調整会議(JICA, 道祖神, 楽映社, ナイロビ大)(10月9日)
- ⑩ KEMRIとの学術交流協定更新(Dr Mpoke KEMRI 所長, 長崎大学長表敬)(10月21日)
- ⑪ VHF 小冊子, mSOS Ebolaシステム, WHOのPersonal Protective Equipment(個人用保護具)の引き渡し式(12月9日)
- ⑫ マルチプレックスプロジェクトはエジプト, アレクサンドリアで開催されたJSTの途上国イノベーションプログラム参画機関による合同シンポジウム(文科省主催)に参加(1月10, 11日)
- ⑬ ケースマネジメントシステム構築のための関係者会議の開催(2月26日)
- ⑭ ケニア教育省とのMOU締結に向けた協議(3月3日)
- ⑮ ナクル会開催(3月21日)
- ⑯ JICAとの定例会開催(5月9日, 7月21日, 10月14日, 1月29日)
- ⑰ Lavicord Project Task Force Meetingの開催(4月4日, 6月23日, 10月1日, 1月14日, 5月12日)

- ⑱ Lavicord Project Administrative Meetingの開催（4月2日，6月9日，7月23日，9月16日，1月5日，5月5日）

【主な訪問者】

- * 4月3日 「風に立つライオン」三池崇史監督およびプロデューサー一行の拠点訪問
- * 4月17日 在ケニア寺田達志日本大使のビタリサーチサイトの訪問
- * 5月 Dr. Doris Njomo (ESACIPAC)ビタリサーチサイト訪問（学校保健研究準備）
- * 6月30日 Satreps Project 評価団（金井要団長，北潔教授他）のケニア拠点表敬訪問
- * 7月4日 Africa-ai-Japan Project の角田学チーフアドバイザー，塩見慎次郎岡山理科大教授，田中規明調整員ケニア拠点表敬訪問
- * 8月 琉球大学小林潤教授並びに長野県看護大学秋山剛講師のビタリサーチサイト訪問
- * 9月11日 東京大学工学部北森武彦教授（浜田総長懇談会座長），田端和仁東京大教授，禍副裕，馬渡和真東京大教授，渡慶次学北大教授，永井健治阪大教授一行の拠点訪問
- * 3月 東京学芸大学朝倉隆司教授，信州大学友川幸助教訪問（学校保健クラブ導入）

5. 1. 2 ベトナムプロジェクト拠点

平成22年度から開始された「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム（J-GRID）」も本年度で最終年度に入る。平成17年度から5年間実施されたベトナム拠点形成プログラムの第二期にあたるプログラムであり，第三期へむけての節目の年度となる。フレンドシップ研究室を中心に，中部ベトナムにあるニャチャンフィールド，北部ベトナムにあるナムディン省フィールド，南部ベトナムにあるドンナイ省フィールド等で，下痢症研究グループ，蚊媒介性ウイルス感染症研究グループ，臨床研究グループ，そして人獣共通感染症研究グループが実施する合計16研究課題が順調に進んでいる。本年度で各研究班の論文等の具体的な成果が期待された。

プロジェクトの運営に関する事項

1 長崎拠点スタッフ人事

- 平成26年4月 事務補佐員 グエン・ティエー・トゥイ・チャン 退職
- 平成26年5月 事務補佐員 ブー・トゥー・チャ 復職
- 平成26年9月 研究補助員 ドゥアン・チー・ハン採用
- 平成27年3月 時沢亜佐子助教 長崎大学熱帯医学研究所 退職

平成26年4月 技能補佐員 小川 真由美 長崎大学熱帯医学研究所 採用
平成26年8月 産学官連携研究員 岩下 華子 長崎大学熱帯医学研究所 採用
(平成27年3月 退職)
平成26年8月 技能補佐員 佐野 直美 長崎大学熱帯医学研究所 採用
(平成27年3月 退職)
平成26年12月 技能補佐員 谷山 沙也加 長崎大学熱帯医学研究所 採用
(平成27年3月 退職)
平成26年12月 技能補佐員 金子 美保 長崎大学熱帯医学研究所 採用
(平成27年3月 退職)
平成26年12月 技能補佐員 早坂 智子 長崎大学熱帯医学研究所 採用
(平成27年3月 退職)
平成26年12月 産学官連携研究員 胡 錦萍 長崎大学熱帯医学研究所 採用
(平成27年3月 退職)

2 長崎大学拠点訪問者及び受け入れ

平成26年度は合計104人の研究者及び学生（内訳：長崎大学内より40人，他の国立大学より31人，私立大学より6人，公的研究機関より11人，民間機関より4人，外国機関より1人，その他11人）が長崎大学ベトナム拠点を活用した。いずれも拠点プログラムに関連する研究等を実施し，若手研究者の育成を推進する中で，拠点研究活動全体の包括的な活性化が図られるよう努めた。

3 長崎大学ベトナム拠点で主催した学会・講演会

平成27年1月12日には，プログラムを主催する長崎大学熱研と国立衛生疫学研究所（NIHE）との間でJ-GRIDのベトナム拠点における研究活動評価会を開催し，日越合計で約100人程度の研究者が参加し，合計13の研究演題が発表されて活発な討議がなされた。平成27年2月8日には，ハノイ在留邦人を対象とした市民公開講座を開催し，熱帯医学研究所の砂原俊彦先生，安田二郎先生に，それぞれ「東京のデング熱流行を数理モデルで再現する」，「人類はエボラ出血熱を克服できるか？」という演目でご講演をいただいた。邦人約40人が参加した。

4 プロジェクト運営会議（Steering Committee Meeting, SCM）

本年度は，5月，8月，10月，11月，1月，3月の合計6回SCMを開催し，プロジェクト運営上重要な議事の審議を行った。参加者はプロジェクト代表者，拠点長，個別課題研究代表者，NIHE所長，プロジェクト関係NIHE各部長であった。

5 共同研究

当拠点をはじめとする長崎大学とNIHEとの間で、本年度は合計16研究課題が共同研究として実施されている。詳細は後述する。

研究活動に関する事項（抜粋）

下痢症研究グループ

(1) 急性小児下痢症における臨床介入による下痢症病原体変動に関する研究

ロタウイルスワクチンの導入によって、重症下痢症の疾病負担が減るのか、下痢症の起病病原体にどのような変化が起こるのかを知ることを最終目的とする研究を行い、以下の成果を得た。第一に、ニャチャンコホートでのロタウイルス下痢症罹患率の再評価を行い、罹患率が1000人年あたり33入院であること、第二に、単価ワクチン導入後に増加が予想されるG2ロタウイルス株は、そのVP7遺伝子がIVa-3系統に進化しているほか、動物由来の遺伝子分節を獲得している可能性が示されたこと、第三に、ハノイでの症例対照研究により、単価ワクチンが77%–79%というニャチャンでの5価ワクチンの臨床試験結果を上回る高い有効性を示していること、第四に、ニャチャンでの5価ワクチンの臨床試験で示された低い有効性の原因を探るため、同一地域で流行した優勢野生株について解析を行ったところ、先進国に同一系統に属する株があることが分かり、原因が流行株の違いによるものではないことが分かった。

(2) 環境中におけるコレラ菌等下痢原性細菌の疫学的研究

ベトナム北部ナムディン省から定期的に環境水サンプルを収集し、*Vibrio cholerae*と線状ファージの選択培養法による分離とPCR法による検出を行った。分離されたO1型*V. cholerae*株の全ゲノム解析を、平成26年度に環境水より分離された*V. cholerae* O1型保存株、実験室保存病原株とともに行った。結果、前述のとおりコレラ毒素遺伝子は保有されていなかったが、欠損パターンに多様性がみられた。この欠損パターンはコレラ毒素遺伝子獲得に複数のファージ感染が段階的に起こることが必要であるという説を支持し、環境中にその中間体とも考えられる菌株が循環していることを示唆するものであった。さらに、ベトナム環境由来*V. cholerae* O1株ではtcpA遺伝子が既報の分離株のクラスターとは異なる独特なクラスターを形成することが示され、同地域における病原因子の多様性解明の糸口が得られた。

(3) アジア諸国での急性下痢症の積極的動向調査

ベトナム北部のナムディン省小児病院、南部のドンナイ省小児病院にて急性下痢症で入院した患者から下痢検体及び疫学情報を収集し、下痢原性細菌、胃腸炎ウイルス及び下痢原性原虫を含む25 カテゴリー以上の微生物の広範な検出、同定を実施した。平成27年2月

現在で、北部ベトナムナムディン小児病院より1006検体、南部ベトナムドンナイ小児病院より1254検体、合計2260検体を採取し解析した。病原微生物は南北ともにロタウイルス40～50%、ノロウイルス35～45%、下痢原性大腸菌11～14%、赤痢アメーバ8.3～10.4%という結果であった。コレラ菌の分離は南北ベトナムともに見られなかった。嫌気性菌であるクロストリジウム菌は6～9%の患者から分離された。北部ベトナムではロタウイルス感染症に季節性がみられたものの、南部ベトナムではその傾向はみられなかった。以上より、ベトナムの小児下痢症の特徴としていわゆる先進国と発展途上国の混合型であることが示唆された。

蚊媒介性ウイルス感染症研究グループ

(1) デングウイルス準種のヒト及び媒介蚊での生態と病原性の関連に関する研究

近年にベトナムで分離されたDENV-1株及びDENV-2株の遺伝子配列を基に、DENV-1と-2の全塩基配列をそれぞれ網羅するようにプライマーを設計(増幅領域1500～4000bp)した。RT-PCR診断でウイルス遺伝子陽性が確認されたDENV-1感染患者血漿16検体、DENV-2感染患者血漿15検体からTotal RNAを抽出し、ランダムプライマーを用いてcDNA合成を行った後、各種プライマーの組み合わせで遺伝子領域の増幅を行った。DENV-1患者血漿ではCore, PreM/M, 及びEnvelopeの構造タンパク遺伝子領域(nt 57-2464)とEnvelope遺伝子の後半からNS-1, NS-2A, NS-2B, NS-3の1部非構造タンパク遺伝子の領域(nt 1936-4456)の2つの遺伝子領域(PCR産物)が3人の患者検体から増幅された。一方DENV-2患者血漿からは、Core, PreM/M, 及びEnvelopeの構造タンパク遺伝子領域(nt 83-1861)とNS-5の3'末端から非翻訳領域3'-UTR(nt 8855-10349)とNS-4Aの3'末端からNS-5の3'末端, 3'-UTR(nt 8855-10349)の3つの遺伝子領域が5人の患者検体から増幅された。それぞれのPCR産物を、次世代シーケンサーを用いて網羅的に解析した。これまでの解析結果から、ベトナム中部で2013年に流行したDENV-1, 及び、DENV-2流行株のドミナントなウイルス遺伝子の配列(Genotype及びSub-genotype)が確認された。DENV-2の解析結果からNS-5タンパク遺伝子の3'末端の終止コドンの配列が変化し、NS-5の3'端に更に27アミノ酸が付加される塩基配列が確認された。

(2) ベトナムにおけるアルボウイルス脳炎の研究

不明脳炎患者の血清診断を行い、デングウイルス感染が確認(IgM抗体陽性)された。CSFから分離されたウイルスの全塩基配列決定し系統樹解析した結果、この脳炎の起因となったデングウイルス3型はこれまでベトナムでは確認されていないGenotype IIIに属するウイルスであることが判明した。この症例の臨床所見と血清診断及び分離ウイルスの解析結果を論文にまとめ投稿中である。

平成25年にベトナム北部でウイルス性脳炎疑いの患者から採取された血清（急性期血清155検体，回復期血清58検体）と脳脊髄液（CSF）329検体について日本脳炎に対する抗体検査を行った結果，日本脳炎陽性率は8.9%という結果であった。不明脳炎患者の急性期に採取されたCSF検体に472検体について網羅的なウイルス遺伝子検出，及び，ウイルス分離を行ったところ，Echovirus 6 3株，Echovirus E30 3株，Coxsackievirus B1 1株が分離された。ベトナムにおける不明脳炎患者の起因ウイルスにはエンテロウイルスの占める割合が高いことが示唆された。

日本脳炎ウイルスは特定のゲノム配列・構造に誘導され，リボゾームフレームシフトを起こしNS1' タンパク質を発現する。ハムスターや鳥由来の培養細胞を用いた感染実験により，NS1' タンパク質の機能について解析し，NS1" 発現がトリ細胞におけるウイルス維持とウイルス伝播に貢献する可能性が示唆され論文に発表した（J Gen Virol. 2014 Feb;95:373-83.）。

(3) デング熱流行の発生メカニズムの解明と対策

採集したすべての地域のヒトスジシマカにおいてデングウイルス I 型への感受性個体の割合は II 型に対する感受性個体の割合に比べて高かった。さらに，デング熱患者の多い地域から採集したヒトスジシマカのデングウイルス I 型に対する感受性と患者の少ない地域から採集した系統に感受性に違いはみられなかった。

平成22年～平成25年にわたりベトナム 9～15省で蚊のモニタリング調査を行った。4年間を通して，全国的なデング熱媒介蚊種構成の傾向（南部はネッタイシマカが多く北部ヒトスジシマカが多い）は同じであった。ハノイでネッタイシマカから初めてピレスロイド系殺虫剤に対する抵抗性遺伝子を持つ個体が確認された。

実験室内で殺虫剤抵抗性試験を行った結果，ベトナムの他の地域と同様にニャチャンのネッタイシマカは殺虫剤（パーメトリン）に抵抗性であることが確認されたが，同時に共力剤として piperonyl butoxide を添付することにより殺虫剤の効果が増強されることが示唆された。また，ニャチャン市内で平成24年から2年間実施した野外試験の結果から，殺虫剤抵抗性のネッタイシマカが発生する地域においても共力剤を添付した網戸の使用により媒介蚊密度を低減できる可能性が高いことが示唆された。

(4) 蚊媒介性感染症の地域横断的研究

ベトナムにおけるデングウイルスの調査を継続し平成25年にハイフォン市のデング熱患者から分離したデングウイルス 3 型のスゲノム解析から，この分離株はこれまでベトナムで報告されていない Genotype-III 型に属する亜型のウイルスであることが判明した。この亜型ウイルスによる脳炎患者もみつかっており，この症例の臨床所見と血清診断，及び，分離ウイルスの解析結果を論文にまとめ投稿中である。さらに，アジア・アフリカの各拠点

や協力機関から提供されるサンプルを、次世代シーケンサーを用いて、ウイルス全ゲノム解析、トランスクリプトーム解析を実施しデータベースに登録した。

東南アジアにおいては、一般的に温度や都市化などはデングウイルス媒介蚊の分布に影響を与えており、特に、都市部では、ネッタイシマカが成虫で越冬できる環境が存在することが明らかになった。一方、フィリピンでは、船舶の移動が媒介蚊の移動に影響を与えていること、また、アフリカでは、内陸部と海岸部の集団で遺伝構造が違うことが明らかになった。また、東南アジアにおいては、広い地域においてネッタイシマカがピレスロイド系殺虫剤に対して高い抵抗性を持っていることがわかった。各地から採集したヒトスジシマカにおいては、デングウイルス I 型と II 型ともに一般的に高い増殖力を示し、日本産のヒトスジシマカでも高い感受性を示した。一方、フィリピン産のネッタイシマカでは、II 型よりも I 型に対して高い感受性を示すなど新しい知見が得られた。

臨床研究グループ

(1) 大規模コホートに関する研究

1) 平成21年5月から平成22年5月の約1年間にベトナム中部ニャチャン市の16コミュニティに出生した1999名の新生児を観察集団としてリクルートし、生後48か月間の重症疾患の発症捕捉と48か月齢での健康調査を実施した。1494名(74.7%)の追跡調査に成功し、そのうち1348名から末梢血検体を採取した。この1348名を対象とした分析から①B型肝炎の感染状況とHBV感染児の感染症抵抗性、並びにワクチン応答性を規定するHLA多型、②急性呼吸器感染(ARI)の遺伝要因と環境要因の相互作用、③デングウイルス曝露状況について、以下のような結果を得ることができた。

①HBV抗原抗体を測定可能であった1347名のうち26名(1.9%)が満2歳時にHBs抗原陽性であった。母親の妊娠中のHBV抗原についての情報がある対象児に限ると、母親がHBs抗原陽性であった場合の感染率は13.8%(167名中23例)、母親がHBe抗原陽性であった場合の感染率は30.9%(68名中21例)にのぼった。これらの多くは新生児ワクチン接種プログラムの対象となっていたが、推奨される計4回接種を何らかの事情で完遂できなかった際に感染率が有意に高く、ワクチンは曝露後の持続感染の防止にある程度有効と考えられた。

②生後48か月間に162名(12.0%)に急性下気道感染症(肺炎または細気管支炎)での入院歴があった。重症急性下気道感染症の発症リスクとして家族内受動喫煙が有意に発症を促進していた(50%発症増加, $p=0.017$)。また宿主遺伝要因としてTLR10-TLR1-TLR6遺伝子領域の遺伝子多型に重症急性下気道感染症発症を40%減少($p=0.0016$)させる効果があることが判明した。また、受動喫煙の効果はTLR10-TLR1-TLR6遺伝子

のリスク遺伝子型の集団でより強く顕れる傾向を示した。

③48か月齢でのデングウイルスに対する抗体を抗原捕捉ELISA法により検出し、10.5% (1347名中141名) にIgGクラス抗体を検出した。デングウイルス感染後の発症率は1-10%と推測されているが、今回の調査では、生後2年までにデング熱で入院した患児はこのうちの5例であり、発症率は3.6%と算定された。また、中和抗体価の測定から、流行していた血清型はDenv-1, Denv-2であることが判明した。

2) インフルエンザ桿菌B型 (Hib) ワクチン導入後の急性呼吸器疾患/肺炎に対する効果を調査するため、ニャチャンにあるカンホア総合病院ではARI研究が継続されている。平成26年度に964症例が登録されて平成19年度から平成26年3月までに、6414症例が登録された。このうち5825検体がウイルス病原体について検査され、ライノウイルス (26%), RSV (22%), インフルエンザウイルス (10%) が主要な病原体だと判明した。

(2) ホーチミンでのデング熱重症化の免疫遺伝学解析

1) ベンチェ総合病院でのデング熱重症化早期予測因子解析研究

ショック症候群および対照となるデング熱の患者各4名の発熱初期血漿タンパクの比較プロテオーム解析をiTRAQ (isobaric tags for relative and absolute quantification) 法を用いて行い、その結果アンチトロンビンⅢ, アンジオテンシノーゲンが重症化に関与すると結果を得た。また、約100名のデング熱入院患者の血液サンプルを用いたリンパ球分画動態及び血漿中サイトカイン解析の結果、両者は急性期→ショック前後→慢性期と病期に応じて大きく変化することがわかった。加えて、その過程で重症度によって差が生じる病期も存在した。これらの結果については、現在学術雑誌への投稿を準備中である。

2) HLA遺伝子アレルとデング熱抵抗性との関連に関する分子基盤研究

HLA-A*24:02背景抗原提示細胞による抗原提示のLC-MS解析のための予備実験を行った。本研究には大量のMHCクラスIエピトープが必要になり、通常同様の研究では、末梢血由来樹状細胞にデングウイルスを感染させたものからエピトープの回収を行う。しかし今回はより簡便により均一な樹状細胞を得るために、iPS細胞由来の前駆細胞株から樹状細胞を誘導し使用することとし、始めにこれらがウイルスの標的細胞となり得るかを検討した。その結果、これらの細胞が十分標的細胞となり得ること、及び分化・活性化段階によってウイルスの感染効率が大きく異なることがわかった。今後これらの感染細胞を用いてLC-MS解析を行うが、現在までに得られた結果については、現在学術雑誌への投稿を準備中である。

人獣共通感染症研究グループ

(1) コウモリ伝播ウイルス疫学に関する研究

培養上清中のDNAの塩基配列を網羅的に解読した。その結果、3株ともHerpesvirusに特有のアミノ酸配列モチーフ、UL31 (Pfam:PF02718)、またDNAポリメラーゼ (UL30) をコードするcontigが得られた。これらのcontigの塩基配列から、コウモリの尿に含まれていたウイルスは、Alphaherpesvirinae亜科、Simplexvirus属に属する事が明らかとなった。SimplexvirusはHuman herpesvirus 1, Human herpesvirus 2等、人を含む哺乳類に感染する種を含む、重要な分類群である。DNAポリメラーゼ (UL30) のコーディング領域の塩基配列を比較した結果、今回ベトナムで分離されたSimplexvirusは、平成16年にカンボジアで同じ種のコウモリ、ライルオオコウモリから分離されたウイルスと近縁であった (Razafindratsimandresy et al, 2009)。現在、全ウイルスゲノムの解析を進めている。

(2) 狂犬病中和抗体迅速診断系を用いた狂犬病ウイルス不顕性曝露の可能性調査

(再委託先：国立大学法人大分大学)

ハノイ市内のイヌ肉加工作業場2か所をフィールドとし、イヌ肉の食肉加工する作業者を対象に質問紙法と血清調査を行い、狂犬病ウイルスによる曝露の危険性と、不顕性曝露の可能性を探った。血清中の狂犬病ウイルスに対する抗体価を大量に測定するために、我々がこれまでに開発し、その有用性を国際的に広めてきた迅速狂犬病中和抗体測定法 (RAPINA法) を用いることで検討を行った。ハノイ周辺の187例のイヌ肉食肉加工者を含む214例について血中のウイルス中和抗体価をRAPINA法と国際標準法のウイルス中和試験であるRFFIT法で測定し、その一致率、相関を検討した。RAPINA法は鋭敏度100%、特異度98.34%、偽陰性率0%、偽陽性率1.66%で中和抗体保有の有無を検知することができ、標準法であるRFFIT法との一致率は98.6%であった。またRAPINA法による陽性的中率は91.7%、陰性的中率は100%であり、迅速、簡便に狂犬病ウイルスに対する中和抗体価の測定が可能であった。聞き取り調査と本法を用いることで、イヌ肉の加工作業者中に狂犬病ウイルスへの曝露が作業中に起こっている可能性が明らかになった。

(3) ハンタウイルス感染症に関する研究 (再委託先：国立大学法人北海道大学)

平成26年3月および6月に、ハノイ市内のマーケットおよびバスステーションで合計74匹のげっ歯類を捕獲し、血清を採取した。これまで調査してきたマーケットが閉鎖されたため、類似のマーケットで調査を実施した。イムノクロマト (ICG) 法により、ハンタウイルス抗体保有状況を調査した結果、これまでと同様にマーケットにおいて高い抗体陽性率が認められた。このことから、他のマーケットでもハンタウイルスに感染したげっ歯類が多く存在する可能性が示された。NIHE関連病院であるバックマイ病院にて収集されたリケッチア疑陽性患者の回復期血清274例を、ICG法により調査したが、ハンタウイルス

抗体は検出されなかった。

(4) 野鳥の調査（再委託先：学校法人京都産業大学）

平成26年9月から26年12月にかけて数回に分けて、ベトナム北部のハノイ市、Nha Trang省、Quang Ninh省及びベトナム南部のLong An省において267羽の野鳥を捕獲し、咽頭および総排泄腔から拭い液を採取し、同一鳥1羽から採取したスワブ試料を混合し、ウイルス分離用試料とした。また、抗体調査のための血液試料を採取した。上記267のウイルス分離用試料については、10日齢発育鶏卵に接種しウイルス分離を行った。いずれも、ハノイ市のカルガモから採取した試料からA型インフルエンザウイルスが5株分離され、H3N2亜型が1株、H3N8亜型が2株、H4N6亜型が2株であった。また、鳥類パラミクソウイルス3株も分離されている。しかしながら、H5亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスは、分離されなかった。さらに、野鳥の血清中から抗インフルエンザウイルス抗体は検出されなかった。

文責：山城 哲

熱帯医学研究所 アジア・アフリカ感染症研究施設 教授

感染症研究国際ネットワーク推進プログラム長崎大学ベトナムプロジェクト拠点 拠点長

5. 2 熱帯医学ミュージアム

熱帯医学ミュージアムは1974年に設置された熱帯医学資料室を前身とする。1997年、熱帯医学資料室の廃止・転換に伴い、熱帯病資料情報センターが新設され、その業務の一部として3階の資料室の業務を継承。2001年、熱帯病資料情報センターは熱帯感染症研究センターに改組、同様に資料室も継承される。2008年、熱帯感染症研究センターの廃止・転換に伴い、資料室の機能が独立し、熱帯医学研究所の付属施設として熱帯医学ミュージアムが新設された。この時、展示スペースも3階から1階に移動、パネル等も刷新された。

2014年4月、展示スペースが熱帯医学研究所内から隣接する旧原研2号館1階部分に移転した。エントランスが顕著になり外部からの来訪者に一目でわかるようになった。また、展示面積は従来の1.5倍になり、パネル、展示ケースの数も増え、これに伴い新たな見学動線が考えられた。展示はプロローグ、寄生虫学、細菌学、ウイルス学に大別され、熱帯地域で頻繁に興る疾病について、概説パネル、顕微鏡病原体映像、モニターの動画、媒介動物（昆虫）の標本、模型などを使って、それぞれの疾病について詳細に解説している。また、病原体を安全に取り扱うコーナーでは、高度安全実験（BSL-4）施設の模型やそこで使われる防御服を展示している。

この年、4月30日に行われたリニューアルオープンのセレモニーには多くの人々が来場し、新たに整備・拡張され、一般により開かれた熱帯医学ミュージアムを見学した。

5. 3 共同研究室

5. 3. 1 エコヘルスユニット

当ユニットは、感染症を人間の生活を取り巻く「環境:Eco-system」の問題として捉え、分野横断的に影響要因を明らかにし、人々の健康推進に資するため、1) 河川等の水環境中の多剤耐性菌、2) 大規模災害および紛争時における結核治療の在り方、3) 少数民族を取り巻く急速な環境変化と疾病罹患等に関する研究を行っている。

【研究活動】

2013年10月より、ラオス人民民主共和国中南部のサワナケート県にて少数民族を対象に5歳未満児の健康を阻む危険因子に関する前向きコホート研究を開始し、疾病罹患の有無、症状、治療状況、栄養摂取等につき対象を2週間毎に追跡している（科学研究費補助金基盤研究B:「ラオス中南部における少数民族の健康希求行動は乳児死亡の地域間格差をもたらすか」研究代表 奥村順子 研究期間：平成25年度～29年度）。

5. 3. 2 病理実験ユニット

陰茎癌におけるヒトパピローマウイルス感染と生体内反応因子に関する研究

感染に起因している癌死の比率は、発展途上国では、20%から25%、先進国では、7%から10%であると推測されている。慢性炎症と癌化との関連性は、広く受け入れられている。特に、腫瘍ウイルスとヒト癌との関連性に強い相関性がある。例えば、B型肝炎ウイルス（HBV）およびC型肝炎ウイルス（HCV）感染と肝細胞癌、Epstein-Barrウイルス（EBV）感染とバーキット・リンパ腫およびホジキン・リンパ腫、ヒトT細胞白血病ウイルスタイプ-1（HTLV-1）感染と成人T細胞白血病、カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス感染とカポジ肉腫、ヒトパピローマウイルス感染と子宮頸癌、陰茎癌、肛門癌、口腔癌、皮膚癌などが報告されている。(2) 熱帯地域の発展途上国においては先進諸国と異なり、発癌ウイルス感染が関与した、子宮頸癌、陰茎癌、

悪性リンパ腫、肝細胞癌などの悪性腫瘍の頻度が高い。高温多湿な熱帯地域の自然環境、住民の栄養状態などは、ウイルスがヒトへ感染し、また、ウイルス由来の遺伝子によりヒトの癌抑制遺伝子の変異が発現しやすい条件を与えていると考えられる。HPVによる腫瘍は、社会および衛生状態の劣悪な熱帯地域の発展途上国では重要な疾患である。我々は、タイ国北部における陰茎癌中のHPVのジェノタイプの解析を行い報告した。研究では、南米などの他地域に多いHPV-16と異なり、HPV-18の感染が多く見られた。今後、更に亜熱帯・熱帯地域の国々におけるヒトパピローマウイルスのジェノタイプの解析を続けて行く。

- (1) HPV関連腫瘍は、先進国である日本では、比較的少ない腫瘍である。社会および衛生状態が劣悪な熱帯地域の開発途上国では重要な疾患であり、我々のタイ国北部における研究では、多くの陰茎癌にHPV-18の感染が見られた。今後、更に亜熱帯・熱帯地域の国々における陰茎癌においてHPV感染と転写因子、サイトカインの活性との関連性を検索する。陰茎癌の多い地域および民族では、子宮頸癌の頻度も高く、両腫瘍に対してHPVの持続感染が関与していることが強く推測される。亜熱帯・熱帯地域におけるHPV感染と陰茎癌発生のメカニズムの解明を検索する。
- (2) 慢性炎症と腫瘍の間の原因的関連性は、広く認知されていて、転写因子 NF- κ B が慢性炎症から腫瘍化を起こすことで重要な役割を担っていると確認されている。また、多数の癌細胞で、NF- κ B の活性化は、発癌、進行、転移において重要な役割を果たしている。この転写制御因子は、さまざまな炎症細胞と関連して形質変換細胞を作り悪性進行のための分子に合図するネットワークのために不可欠である。多数のサイトカイン、ケモカイン、成長因子と生存因子の発現と機能は、NF- κ B に依存的である。NF- κ B の活性化は、変換と腫瘍形成に関連した種々のプロセスに関係している。そして、形質変換、脈管形成とアポトーシスの予防を含んでいる。NF- κ B の活性は、癌細胞の成長と侵襲性のための脈管形成方法の調節に関与している。故に、NF- κ B, Toll-like receptor, サイトカイン, ケモカインなどの因子の発現をHPV感染と陰茎癌発生との関連性を検索する。

5. 3. 3 電子顕微鏡ユニット

電子顕微鏡室では、感染症を引き起こすあらゆる病原体自体の微細構造解析のみならず、免疫組織学的手法を含む新しい技法を取り入れて、電子顕微鏡を駆使して病原体と宿主との相互作用を超高倍率までの直接観察で解析を行っている。現在の主な機器は透過および走査電子顕微鏡、超ミクロトーム、高圧急速凍結装置、真空蒸着装置、臨界点乾燥装置、オスミウムプラ

ズマコーター，超音波固定装置などで，広範な電子顕微鏡レベルでの研究を行っている。

I. 電子顕微鏡を用いた主な共同研究

- 精製ウイルスのネガティブ染色法による解析（ウイルス学分野）
- ウイルス感染細胞の超微形態解析（ウイルス学分野）
- ネズミマラリア原虫及び感染赤血球の免疫電顕法による局在解析（原虫学分野）
- サルマラリア原虫及び感染赤血球の免疫電顕法による局在解析（原虫学分野）
- 遺伝子ベクター（ナノ粒子）のネガティブ染色法による解析（長崎大学病院薬剤部）
- バキュロウイルスのネガティブ染色法による解析（金沢大学）
- バキュロウイルスの免疫電顕法による局在解析（金沢大学）
- ヒトマラリア原虫及び感染赤血球の三次元微細構造解析（生理学研究所）

上記のように，透過型電子顕微鏡を用いたネガティブ染色，試料ブロックの薄切の観察や免疫染色による局在解析が主な作業となっている。

II. 電子顕微鏡室での研究

熱帯熱マラリア原虫は宿主赤内期において寄生胞膜に包まれた状態で増殖するが，その際原虫によって感染赤血球内にマウレル裂と呼ばれる膜状構造が形成され，その後赤血球表面にノブと呼ばれる突起構造が出現する。電子顕微鏡室ではこのような感染赤血球の微細構造の変化について，電子顕微鏡を使用した超微形態学的研究を行っている。

熱帯熱マラリア原虫の感染赤血球内での形態変化及び感染赤血球の内部や外部で形成される原虫由来の構造について，Serial block face-scanning electron microscopy (SBF-SEM) を用いて各発育ステージにおける感染赤血球全体の三次元像を再構築し，原虫及び赤血球の微細構造の形態や細胞及びオルガネラの体積の変化について定量解析を行った（生理学研究所との共同研究）。

5. 3. 4 マラリア研究ユニット

The Malaria Unit published a total of 11 peer-reviewed scientific papers in between April 2014 and March 2015, in journals such as the International Journal for Parasitology, Acta Tropica, Parasites & Vectors, Trends in Parasitology and PLoS Pathogens. We published on a wide range of topics, including drug resistance in malaria parasites, Plasmodium knowlesi in travellers, malaria genomics, epidemiology, and the ecology and evolution of malaria.

We were joined by Dr Abdulraheem from Nigeria, who performed an epidemiological study of asymptomatic malaria parasites amongst adolescents in Nigeria; by Dr. Carol Hunja from Kenya, who worked on a novel way to induce immunity against the pre-erythrocytic stages of malaria parasites; and by Abhinay Ramaprasad from the King Abdullah University of Science and Technology in Saudi Arabia, who is working on the genomics of rodent malaria parasites.

Hussein Abkallo published his PhD work in the prestigious journal Plos Pathogens, and will graduate with his PhD this year.

This year has seen the establishment of many exciting collaborative projects with overseas researchers, including scientists from the London School of Tropical medicine and Hygiene in the UK, the University of Melbourne in Australia, and the Jiangsu Institute of Parasitic Diseases in China.

2014年度、当研究室ではマラリア原虫の薬剤耐性から旅行者における *Plasmodium Knowlesi* (サルマラリア)、マラリアゲノミクス、疫学、生態学、マラリアの進化と幅広いトピックにおいて、International Journal for Parasitology, Acta Tropica, Parasites & Vectors, Trends in Parasitology and PLoS Pathogens等の学術誌に11論文を発表。

MTMコースのAbdulraheem (ナイジェリア) が研究に参加、ナイジェリアにおける青年の無症候性マラリアの疫学研究を行った。Carol Hunja (ケニア) はマラリア原虫の前赤内期に対する免疫を誘発するための新しい方法の発見に取り組み、Abhinay Ramaprasad (サウジアラビア) はネズミマラリア原虫のゲノミクスの研究を行った。大学院生のHussein AbkalloはPLOS Pathogensに博士課程のプロジェクトを発表した。

ロンドン大学衛生学熱帯医学大学院やメルボルン大学、江蘇省寄生虫病研究所等の海外研究者との共同研究を複数立ち上げることでできた年となった。

6 特別事業費による事業

6. 1 熱帯医学研修課程

平成26年度（第37回）熱帯医学研修課程は、平成26年4月2日から6月27日まで3ヵ月間にわたり16名の参加者で実施された。

受講者の職種内訳は医師2名、看護師/保健師/助産師9名、薬剤師2名、臨床検査技師1名、検疫所2名（計女性14名、男性2名）であり、昭和53年度の第1回から平成26年度までの修了生の総数は471名となった。

I. カリキュラム

本年度カリキュラムは、前年度同様、分野横断的な理解を促す目的で、熱帯医学分野（総論・各論、実習、臨床医学）と実務的分野（国際保健・国際協力等の専門家による講義）を織り交ぜながら配置した。

今年度のカリキュラムの特徴としては以下の3点があげられる。

1. 安全管理対策講義の実施

昨年度は、海外での安全管理について同業務の経験をもつ研修生を講師に自主学習会を行った。同課題の必要性に鑑み、本年度は新たに「国際活動における安全管理対策」（講師：大阪大学 塚本俊也特任教授）の講義をカリキュラムに加えた。

2. 合同講義

熱帯医学専攻（修士課程）との合同講義は9講義（うち8講義は英語）実施した。合同講義では、8講義中2講義では留学生および日本人学生が国別チームを作り、各国の予防接種スケジュール、肝炎対策を事前にまとめ発表する形式を取った。

3. 開始時間等の変更

全学の時間割との調整から、講義開始時間を10分早めた8時50分とし、講義間の休憩を15分間から10分間、昼休みを90分間から50分間に短縮した。

II. 試験

平成17年度（第28回）より導入した学科試験を今年度も実施した。所内の各分野に4～6問の作成を依頼し、計50問の選択試験問題を出題した。全体の平均得点は68.7点であった。なお問題作成に際しては、過去の試験問題難易度等の学生アンケートを参考にした。

Ⅲ. 研修生による評価

全講義及び試験終了後の6月25日に研修課程研修生による評価をワークショップ形式で行った。

カリキュラム構成、授業及び実習内容、時間数、難易度について多くのコメントが出された。英語講義での国別発表で理解が深まった、シラバスを予習復習に活用できたなど、その多くは良好な評価であった。

Ⅳ. フォロアップ研修「第4回リフレッシュャー講座」開講

同研修課程修了者の再研修を目的に、第4回リフレッシュャー講座を、平成26年12月13日と14日に、東京で開催した（受講61名）。エボラ出血熱の講義及び現場活動報告を含め、熱研及び研修課程外部講師等9名によるそれぞれ1時間の各分野のアップデート講義が行われた。今回も前回と同様、短期間で定員を越す応募があり、熱帯医学学習に対する需要の高いことが伺われた。

（文責：佐藤 光）

7 外部資金による研究

7. 1 文部科学省科学研究費補助金（平成26年度）

研究種目	職名・研究者名	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研究課題	備考
新学術領域 研究	教授・金子 修	14,200	4,260	共生非依存的に進化したオルガネラによるマトリョーシカ化機構	23～27年度
基盤研究(A)	教授・有吉 紅也	4,400	1,320	ベトナム中部に確立した出生コホートの拡充による小児重症疾患の総合的なリスク評価	25～29年度
基盤研究(A)	教授・金子 聡	6,100	1,830	アフリカにおける地域特性を考慮した乳幼児の健康改善モデル構築に関する疫学研究	25～29年度
基盤研究(B)	教授・皆川 昇	2,300	690	南東アフリカへの感染症ウイルスと媒介蚊の侵入と拡散:大地溝帯と気候の影響	23～26年度
基盤研究(B)	教授・濱野 真二郎	4,700	1,410	南アジアにおける赤痢アメーバ症の免疫学的コホート研究	26～28年度
基盤研究(B)	教授・金子 修	4,000	1,200	三日熱マラリア原虫感染赤血球表面分子に対する血清疫学	24～26年度
基盤研究(B)	教授・山本 太郎	3,400	1,020	中国雲南省の静注薬物常用者のHIV感染リスクの評価と対策構築に関する研究	24～26年度
基盤研究(B)	准教授・奥村 順子	3,300	990	ラオス中南部における少数民族の健康希求行動は乳児死亡の地域間格差をもたらすか	25～29年度
基盤研究(B)	助教・早坂 大輔	4,300	1,290	インドシナ地域におけるマダニ媒介性人獣共通感染ウイルスの分布調査	25～27年度
基盤研究(B)	教授・森田 公一	4,400	1,320	熱帯地域に潜む未知の蚊媒介性ウイルスの網羅的探索	25～27年度
基盤研究(B)	教授・安田 二郎	3,800	1,140	ナイジェリア南東部で流行するラッサ熱の分子疫学・病態解析と迅速診断法の開発	25～27年度
基盤研究(B)	教授・山城 哲	4,500	1,350	北部ベトナムにおけるコミュニティを基盤とした網羅的下痢症の疫学的研究	25～27年度
基盤研究(B)	教授・金子 修	3,900	1,170	マラリア原虫の赤血球侵入時におけるシグナル伝達経路の解明	25～27年度
基盤研究(B)	教授・橋爪 真弘	3,400	1,020	衛星観測による環境情報を用いたコレラ流行予測モデルの開発	26～28年度
基盤研究(B)	客員研究員・安波 道郎	4,100	1,230	HLA多型が規定する血液細胞の表現型分析による感染・免疫関連疾患発症リスクの予測	26～29年度
基盤研究(B)	准教授・川田 均	1,900	570	ピレスロイドの空間忌避効果を利用した新しい手法によるマラリア防除試験	26～28年度

研究種目	職名・研究者名	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研究課題	備考
基盤研究(C)	助教・坂口美亜子	1,400	420	熱帯熱マラリア原虫のマウレル裂の構造及び形成過程の解明	24～26年度
基盤研究(C)	助教・矢幡一英	900	270	マラリア原虫の赤血球侵入関連分子の時間・空間的動態解析	24～26年度
基盤研究(C)	助教・鈴木基	1,200	360	ベトナムにおける小児Hibワクチンの臨床的効果と罹患率の推移に関する研究	24～26年度
基盤研究(C)	准教授・森本浩之輔	1,200	360	肺の炎症終息と組織修復における小胞体ストレスのインパクト	24～26年度
基盤研究(C)	講師・上村春樹	1,300	390	トランスシアリダーゼを標的としたシャーガス病治療薬の探索	26～28年度
基盤研究(C)	助教・千馬正敬	1,300	390	陰茎癌におけるヒトパピローマウイルス感染と生体内反応因子に関する研究	24～26年度
基盤研究(C)	客員研究員・久保亨	700	210	リアルタイムPCR法を用いた肺炎迅速鑑別・薬剤耐性診断系の構築と地域医療への応用	25～27年度
基盤研究(C)	客員研究員・駒形朋子	1,100	330	陸前高田市における乳幼児を抱える家族の困難に関するエスノグラフィー研究	26～28年度
研究活動 スタート支援	助教・坂部沙織	900	270	SFTS病態モデルマウスの探索と病態発現メカニズムの解明	25～26年度
挑戦的萌芽 研	助教・早坂大輔	1,500	450	フラビウイルス脳炎重症化機序のin vivo分子イメージング解析	25～26年度
挑戦的萌芽 研	教授・金子修	1,500	450	超加速変異型サルマラリア原虫を用いたヒト赤血球への適応進化の解析	25～26年度
挑戦的萌芽 研	教授・濱野真二郎	1,500	450	多光子顕微鏡ならびにPET/SPECTを用いた住血吸虫症の病態解明	25～26年度
挑戦的萌芽 研	教授・金子聰	2,300	690	開発途上国における静脈認証を用いた地域保健医療情報システム構築に向けての基礎研究	26～26年度
挑戦的萌芽 研	教授・橋爪真弘	1,300	390	気象情報をもとにした小児肺炎患者数予測モデルの検討	26～27年度
挑戦的萌芽 研	助教・和田崇之	1,300	390	古標本から紐解く結核史と結核分子疫学へのフィードバック	26～27年度
若手研究(A)	助教・和田崇之	2,500	750	結核菌臨床分離株における宿主定着・適応因子の究明と遺伝子型別技術の補完	24～26年度
若手研究(B)	助教・浦田秀造	1,600	480	可視化技術を利用した出血熱ウイルスの集合・出芽機構解析	25～26年度
若手研究(B)	客員研究員・森正彦	1,100	330	アジア発の抗HIV免疫情報は既存のアフリカ・欧米情報と相同するか？	25～27年度

研究種目	職名・研究者名	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研究課題	備考
若手研究(B)	助教・鍋島 武	500	150	日本脳炎ウイルスの系統地理学	25~26年度
若手研究(B)	准教授・カレトン リチャード	1,300	390	A genomic approach to the identification of transmission blocking antigens of malaria parasites	25~26年度
若手研究(B)	助教・麻田 正 仁	1,300	390	バベシア原虫赤血球侵入機構の可視化	25~27年度
若手研究(B)	准教授・モイメンリン	1,100	196	Determination of the role of Fcγ receptor in antibody-dependent enhancement of dengue virus infection	26~27年度
若手研究(B)	助教・二見 恭子	319	0	ネッタイシマカにおける亜種特異的産卵場所選好性の崩壊: 同所的分布による行動変化	24~26年度
新学術領域 研 究	教授・金子 修	50	15	マトリョーシカ型進化原理(総括班)	研究分担
基盤研究(A)	教授・金子 修	1,500	450	ビクトリア湖島嶼マラリア撲滅: プリマキン使用による集団治療とヒト・原虫多様性	研究分担
基盤研究(A)	教授・皆川 昇	200	60	ビクトリア湖島嶼マラリア撲滅: プリマキン使用による集団治療とヒト・原虫多様性	研究分担
基盤研究(A)	教授・平山 謙二	200	60	ビクトリア湖島嶼マラリア撲滅: プリマキン使用による集団治療とヒト・原虫多様性	研究分担
基盤研究(A)	准教授・カレトン リチャード	800	240	アジア霊長類と病原体の宿主寄生体関係史の探索	研究分担
基盤研究(A)	客員研究員・安波 道郎	800	240	アジア霊長類と病原体の宿主寄生体関係史の探索	研究分担
基盤研究(A)	客員研究員・久保 亨	300	90	熱帯・災害感染症におけるマトリセルラー蛋白質の臨床的意義に関する研究	研究分担
基盤研究(B)	助教・二見 恭子	300	90	分子情報に基づく熱帯起源生物の移動ルートの解明	研究分担
基盤研究(B)	教授・平山 謙二	200	60	住民負担の少ない尿診断と媒介蚊調査による糸状虫根絶の確認と再燃の早期発見	研究分担
基盤研究(B)	教授・濱野 真二郎	200	60	住民負担の少ない尿診断と媒介蚊調査による糸状虫根絶の確認と再燃の早期発見	研究分担
基盤研究(B)	助教・砂原 俊彦	200	60	住民負担の少ない尿診断と媒介蚊調査による糸状虫根絶の確認と再燃の早期発見	研究分担
基盤研究(B)	客員研究員・安波 道郎	800	240	原発性胆汁性肝硬変の疾患感受性遺伝子による病態の解明と新しい分子標的治療法の開発	研究分担
基盤研究(B)	教授・金子 聰	150	45	デング熱の実態把握と環境負荷のない地域対策の無作為化比較試験による評価	研究分担

研究種目	職名・研究者名	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研究課題	備考
基盤研究(B)	助教・藤井 仁人	850	255	デング熱の実態把握と環境負荷のない地域対策の無作為化比較試験による評価	研究分担
基盤研究(B)	教授・濱野 真二郎	2,350	705	バングラデシュにおけるポスト・カラ・アザール皮膚リーシュマニア症の発症機序の解明	研究分担
基盤研究(B)	助教・市川 智生	720	216	ドイツにおける対日外交文書の収集と利用可能性	研究分担
基盤研究(B)	助教・比嘉 由紀子	900	270	東南アジアにおける吸血節足動物媒介性ウイルスの網羅的探索とリスクマップ作製	研究分担
基盤研究(B)	教授・濱野 真二郎	700	210	潜在性結核の検出と、結核の発症予知技術の確立を目指した、ケニア国における調査研究	研究分担
基盤研究(C)	助教・中澤 秀介	400	120	なぜ特定の集団だけにサルマラリア感染を含めたマラリア感染が集中しているか	研究分担
基盤研究(C)	助教・和田 崇之	100	30	大阪府に蔓延する多剤耐性結核菌を用いた結核菌感染症マーカーの開発	研究分担
合計	59件	113,539	33,832		

7. 2 厚生労働科学研究費補助金（平成26年度）

研究事業名	職名・研究者名	研究課題名	研究経費 (千円)	区分
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	教授・森田公一	SFTSの制圧に向けた総合的研究	5,000	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	教授・安田二郎	防疫上緊急対応を要する一類感染症や新興・再興感染症に対する予防・診断・治療法に関する研究	1,700	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・和田崇之	結核の革新的な診断・治療及び対策の強化に関する研究	2,000	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・浦田秀造	細胞内脂質合成を標的とした抗高病原性ウイルス療法の分子基盤	2,250	代表
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・黒崎陽平	細胞内脂質合成を標的とした抗高病原性ウイルス療法の分子基盤	1,350	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・早坂大輔	細胞内脂質合成を標的とした抗高病原性ウイルス療法の分子基盤	900	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	教授・安田二郎	病原体及び毒素の管理システムおよび評価に関する総括的な研究	750	分担
地球規模保健課題推進研究事業	教授・平山謙二	ポスト国連開発ミレニアム開発目標における熱帯アフリカマラリア根絶可能性に関する研究	400	分担
地球規模保健課題推進研究事業	教授・皆川昇	ポスト国連開発ミレニアム開発目標における熱帯アフリカマラリア根絶可能性に関する研究	400	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・早坂大輔	近隣地域からの侵入が危惧されるわが国にない感染症の発生予防に関する研究	300	分担
合計	10件		15,050	

7. 3 受託研究費等（平成26年度）

7. 3. 1 受託研究

委託者	事業名	職名・氏名	研究課題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備考
University of South Florida		教授・金子 修	Long-term continuous culture of Plasmodium vivax blood stages	16,715 (1,074)	2,727	()内は前年度繰越額
独立行政法人科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム	教授・皆川 昇	南部アフリカにおける気候予測モデルをもとにした感染症流行の早期警戒システムの構築	9,377	3,923	
独立行政法人国際協力機構	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム	教授・皆川 昇	南部アフリカにおける気候予測モデルをもとにした感染症流行の早期警戒システムの構築	13,560	0	
国立大学法人東京大学	環境総合費	教授・山本 太郎	保健・健康・衛生に関する分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示	4,131	1,239	
株式会社東芝	農林水産省・食品産業科学研究推進事業	教授・安田 二郎	普及型オンサイト家畜感染症検査システムの開発	4,153	1,246	
国立大学法人東京大学	農林水産省・食品産業科学研究推進事業	教授・安田 二郎	インターフェロンとその関連因子による妊娠補助剤と抗ウイルス療法の開発	14,461	4,338	
国立大学法人帯広畜産大学	農林水産省・食品産業科学研究推進事業	助教・麻田 正仁	家畜ピロプラズマ病予防・治療法の開発に向けたゲノム改変技術の開発	8,100	2,430	
国立感染症研究所	厚生労働科学研究委託事業	教授・森田 公一	国内侵入・流行が危惧される昆虫媒介性ウイルス感染症に関する研究	1,500	0	
国立大学法人東京大学医科学研究所	厚生労働科学研究委託事業	教授・平山 謙二	アジア地域にまん延している疾病に関する研究	8,900	0	
学校法人聖路加国際大学	厚生労働科学研究委託事業	教授・安田 二郎	エボラ出血熱に対する治療薬、診断薬の開発に関する研究	39,078	0	
文部科学省	科学技術試験研究	教授・森田 公一	ベトナムにおける長崎大学感染症研究プロジェクト	270,849	81,254	
独立行政法人科学技術振興機構 (JST)	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム	教授・森田 公一	ケニアにおける黄熱病およびリフトバレー熱に対する迅速診断法の開発とそのアウトブレイク警戒システムの構築プロジェクト	26,492 (4,861)	7,947	()内は前年度繰越額
独立行政法人国際協力機構 (JICA)	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム	教授・森田 公一	ケニアにおける黄熱病およびリフトバレー熱に対する迅速診断法の開発とそのアウトブレイク警戒システムの構築プロジェクト	16,000 (4,186)	0	()内は前年度繰越額
独立行政法人科学技術振興機構	国際科学技術共同研究推進事業(戦略的国際共同研究) e-ASIA共同研究	教授・長谷部 太	e-asia革新的なデング流行対策と治療法開発に資するデングウイルス準種と血管透過性因子の網羅的解析	8,200 (879)	2,460	()内は前年度繰越額
学校法人聖路加国際大学	厚生労働科学研究委託事業	教授・安田 二郎	バイオセキュリティの向上に資する基盤的研究	800	0	
合計		15件		608,132	161,190	

7. 3. 2 受託事業費

委託者	事業名	職名・氏名	研究課題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備考
独立行政法人 日本学術 振興会	平成26年度 論文博士号取 得希望者に対 する支援事業	教授・有吉紅也	論博事業(有吉) ID No.VAST-11221	1,130	0	
独立行政法人 日本学術 振興会	平成26年度 論文博士号取 得希望者に対 する支援事業	教授・平山謙二	論博事業(平山) ID No.KEN-11202	1,031	0	
独立行政法人 日本学術 振興会	平成26年度 論文博士号取 得希望者に対 する支援事業	教授・金子修	論博事業(金子修) ID No.KEN-11303	1,200	0	
グローバルリンク マネージメント 株式会社		教授・金子聰	スリランカ国 非感染症 疾患対策強化プロジェクト	5,621	1,803	
独立行政法人 国際協力機構 九州国際セ ンター	草の根 技術協力 事業	教授・嶋田雅暁	健康な地域社会をつくる 学童支援プロジェクト	21,529	0	
イデオリンク 株式会社	JICA-イン ドネシア 共和国円 借入事業	教授・山本太郎	JICA-インドネシア共和国円借 入事業 インドネシア大学整備 事業 -医学部附属病院整備と 教育拡充のための技術支援-	150	0	
合計		6件		30,661	1,803	

7. 3. 3 その他の補助金

補助金名	職名・氏名	プログラム名	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備考
研究開発施設 共用等促進費 補助金	教授・平山謙二	病原微生物の収集・保存・提供 体制の整備 (病原性原虫の収集・保存と提供)	4,400	0	
若手研究者 戦略的海外派遣 事業費補助金	教授・濱野真二郎	住血吸虫症の多角的な調査を通 じたフィールド志向型熱帯感染 症専門家の強化育成事業	27,290	0	
外国人招へい 研究者事業 (短期)	教授・橋爪真弘	外国人招へい研究者事業(短期)	50	0	
合計	3件		31,740	0	

7. 3. 4 民間等の共同研究

民間等機関名	職名・氏名	研究題目	民間等 (千円)	大 学 (千円)	備 考
住友化学株式会社	教授・皆川 昇	殺虫剤デリバリー技術の性能評価及び評価系の構築	15,000	0	
アステラス製薬株式会社	教授・平山 謙二	抗寄生虫薬のスクリーニングに関する共同研究	13,650	0	
アステラス製薬株式会社	教授・森田 公一	抗 Dengue ウイルス薬のスクリーニングに関する共同研究	6,000	0	
株式会社 パナソニック	教授・皆川 昇	新型マラリア感染簡易検査装置の実地評価	4,200	0	
株式会社 西日本サービス	教授・皆川 昇	ベトナムの環境に適した害虫防除手法の検討 (Phase II)	1,050	0	
有限会社 T.M.エンタープライズ	准教授・川田 均	蚊幼虫の発生抑制剤およびその方法の開発研究	250	0	
久光製薬株式会社	教授・平山 謙二	マイクロニードルワクチン製剤の可能性評価・検討	1,000	0	
株式会社 ニコンインテック	教授・金子 修	イメージングによる感染症成立メカニズムの理解	525	0	
独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	教授・橋爪 真弘	衛星データの健康保健分野での利用に関する研究	0	0	
独立行政法人 海洋研究開発機構	教授・皆川 昇	南部アフリカにおける気候予測モデルをもとにした感染症流行の早期警戒システムの構築	0	0	
合 計	10件		41,675	0	

8. 海外活動

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	皆 川 昇	新型蚊帳のマラウイにおける現地試験(マラウイ), デング熱を媒介する蚊の採集調査打合せ(モザンビーク)	マラウイ モザンビーク	H26. 4. 1 ～ H26. 4. 13	受託研究費等 収 入
助 教	比 嘉 由紀子	マラウイ及びモザンビークにおいてデング熱を媒介する蚊の採集調査を実施する	マラウイ モザンビーク	H26. 4. 3 ～ H26. 5. 2	受託研究費等 収 入
技 術 員	戸 田 みつる	黄熱病及びリフトバレー熱に係る早期警戒システム構築のため	ケ ニ ア	H26. 4. 4 ～ H26. 7. 16	受託研究等 収 入
講 師	菊 池 三穂子	研究打合せ, 住血吸虫症の調査・診断及びサンプル収集	フィリピン	H26. 4. 5 ～ H26. 4. 12	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	ローサボーン チャントラ	SIDCER-FERCAP打合せ及び調査	中 国	H26. 4. 6 ～ H26. 4. 11	先 方 負 担 (河南中医学院 第一付属病院)
助 教	二 見 恭 子	1.中間宿主貝の分布と感染率の調査研究 2.デング熱を媒介する蚊の採集調査	ケニア,モザンビーク, マラウイ, ザンビア, ジンバブエ, ケニア	H26. 4. 6 ～ H26. 5. 13	受託研究費等 収 入
教 授	橋 爪 真 弘	5th Asia-Pacific Conference on Public Health参加, 発表および情報収集	韓 国	H26. 4. 10 ～ H26. 4. 12	先 方 負 担 (korea Public Health Association)
准教授	吉田 レイミント	研究準備および研究打合せ	ベトナム	H26. 4. 13 ～ H26. 4. 19	寄 附 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ(タイ), マラリアプロジェクト打合せ(イギリス), マラリアワクチン開発打合せ(スイス)	タ イ イ ギ リ ス ス イ ス	H26. 4. 15 ～ H26. 5. 7	自 己 収 入 (交付金対象)
助 教	中 澤 秀 介	ワーゲニンゲン大学にて共同研究打ち合わせ	オ ラ ン ダ	H26. 4. 26 ～ H26. 5. 3	科学研究費 補 助 金
教 授	橋 爪 真 弘	「気象情報をもとにした小児肺炎者数予測モデルの検討」についての打合せ	バングラデシュ	H26. 4. 27 ～ H26. 5. 1	科学研究費 補 助 金
教 授	皆 川 昇	ジンバブエ及びモザンビークにおける新型蚊帳の現地試験	ジンバブエ モザンビーク	H26. 5. 3 ～ H26. 5. 15	受託研究等 収 入
教 授	金 子 聰	スリランカ国非感染症疾患対策強化プロジェクトに関する研究実施	スリランカ	H26. 5. 4 ～ H26. 5. 17	受託研究等 収 入
助 教	都 築 中	デング熱媒介蚊に関する調査研究	モザンビーク	H26. 5. 8 ～ H26. 5. 26	受託研究等 収 入
教 授	橋 爪 真 弘	衛星観測による環境情報を用いたコレラ流行予測モデルの開発のための研究打ち合わせ	ケ ニ ア	H26. 5. 11 ～ H26. 5. 18	科学研究費 補 助 金

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
准教授	吉田 レイミント	NIHE, ニャチャンパスツールにて研究所研究打合せ	ベトナム	H26. 5. 11 ～ H26. 5. 17	受託研究 等収入
教授	有吉 紅也	NIHE, ニャチャンパスツール研究所, マヒドン大学にて研究打合せ	ベトナム タイ	H26. 5. 12 ～ H26. 5. 17	運営費 金 交付
戦略 職員	安波 道郎	NIHE, ニャチャンパスツール研究所, マヒドン大学にて研究打合せ	ベトナム タイ	H26. 5. 12 ～ H26. 5. 16	運営費 金 交付
准教授	森本 浩之輔	2014 annual meeting of American Thoracic Societyへ出席	アメリカ	H26. 5. 17 ～ H26. 5. 23	寄付金
助教	鈴木 基	2014 annual meeting of American Thoracic Societyへ出席	アメリカ	H26. 5. 17 ～ H26. 5. 23	寄付金
技能 補佐員	川島 恵美子	ケニア・ビタ地区フィールド調査と解析, 学会参加 (BEATING MARALIA 2014)	ケニア	H26. 5. 19 ～ H26. 7. 2	運営費 金 交付
准教授	川田 均	ケニア・ビタ地区フィールド調査と解析, 学会参加 (BEATING MARALIA 2014)	ケニア	H26. 5. 19 ～ H26. 7. 2	受託研究 等収入
助教	井上 真吾	黄熱病及びリフトバレー熱の迅速診断キットの製造・品質検定のため	ケニア	H26. 5. 20 ～ H26. 12. 14	受託研究 等収入
助教	藤井 仁人	Multiplexアッセイ法開発に関する研究実施と打合せ	ケニア	H26. 6. 1 ～ H26. 6. 30	先導的創造 科学技術開 発費補助金
教授	平山 謙二	研究集会 (医学研究のための倫理に関する国際セミナー) に関する打合せ	フィリピン	H26. 6. 2 ～ H26. 6. 5	運営費 金 交付
教授	橋爪 真弘	衛生観測による環境情報を用いたコレラ流行予測モデルの開発に関する研究打合せ	ケニア	H26. 6. 2 ～ H26. 6. 11	科学研究 費補助金
教授	ローサボーン チャントラ	フィリピン大学マニラ校との学術交流協定に関する打合せ	フィリピン	H26. 6. 2 ～ H26. 6. 7	先方負担 (フィリピン大学)
教授	ローサボーン チャントラ	FERCAP国際コース出席	中国	H26. 6. 8 ～ H26. 6. 14	先方負担 (中国首都 医科大学)
戦略 職員	齋藤 信夫	熱帯医学グローバルヘルス研究科設置準備打合せ	フィリピン	H26. 6. 9 ～ H26. 6. 16	運営費 金 交付
教授	有吉 紅也	熱帯医学GH研究科設置準備打合せ	フィリピン	H26. 6. 11 ～ H26. 6. 14	運営費 金 交付

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	鈴木 基	サンラザロ病院にて研究打合せ	フィリピン	H26. 6. 11 ～ H26. 6. 14	運 営 費 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	ディプロマーコースの打ち合わせ	タ イ	H26. 6. 15 ～ H26. 6. 16	先 方 負 担 (タマサート大学)
准教授	吉田 レイミント	呼吸器感染症臨床検査及び研究打合せ	ベ ト ナ ム	H26. 6. 15 ～ H26. 6. 21	受託研究費等 収 入
助 教	鈴木 基	khanh Hoan Health Serviceにて感染症 の研究打合せとデータ収集	ベ ト ナ ム	H26. 6. 17 ～ H26. 6. 19	科学研究費 補 助 金
戦 略 職 員	安 波 道 郎	熱帯医学グローバルヘルス校設置準 備打合せ	ベ ト ナ ム	H26. 6. 17 ～ H26. 6. 21	運 営 費 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	FERCAP打合せ	中 国	H26. 6. 20 ～ H26. 6. 25	先 方 負 担 (中国首都 医科大学)
事 務 職 員	夫津木 芳 美	ケニア拠点事務打合せ	ケ ニ ア	H26. 6. 20 ～ H26. 7. 6	運 営 費 交 付 金
教 授	橋 爪 真 弘	衛星観測による環境情報を用いたコ レラ流行予測モデルの開発に関する 打合せ	スウェーデン	H26. 6. 25 ～ H26. 6. 29	科学研究費 補 助 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト討論	タ イ	H26. 6. 26 ～ H26. 6. 30	運営交付金
教 授	山 本 太 郎	中国のHIV感染リスクの評価と対策 構築に関する研究・現地調査	中 国	H26. 6. 27 ～ H26. 7. 10	寄 附 金
助 教	市 川 智 生	中国のHIV感染リスクの評価と対策 構築に関する研究・現地調査	中 国	H26. 6. 27 ～ H26. 7. 11	科学研究費 補 助 金
教 授	森 田 公 一	SATREPS事業打合せ	ケ ニ ア	H26. 6. 28 ～ H26. 7. 10	受託研究等 収 入
助 教	中 澤 秀 介	マラリアに関する現地調査および研 究打合せ	ベ ト ナ ム	H26. 6. 29 ～ H26. 7. 5	先 方 負 担 (琉球大学)
戦 略 職 員	齋 藤 信 夫	熱帯医学グローバルヘルス研究科設 置準備打合せ	フィリピン	H26. 6. 30 ～ H26. 7. 3	運 営 費 交 付 金
助 教	坂 口 美 亜 子	マラリア感染赤血球の三次元再構築 解析に関する研究打合せ	ア メ リ カ	H26. 7. 6 ～ H26. 7. 12	科学研究費 補 助 金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
准教授	吉田 レイミント	研究打合せ, 呼吸器感染症臨床検査, サンプル準備	ベトナム	H26. 7. 6 ～ H26. 7. 12	受託研究費等 収 入
助 教	時 沢 亜佐子	下痢コンソ疫学的分析手法について・急性下痢症の積極的動向調査について研究打合せ	ベトナム	H26. 7. 14 ～ H26. 7. 17	受託研究費等 収 入
助 教	竹 村 太地郎	感染性下痢症（コレラ菌）についての研究打合せ, コレラ菌株に関する情報収集と分与作業	ベトナム	H26. 7. 14 ～ H26. 7. 23	寄 附 金
教 授	ローサボーン チャントラ	FERCAP打合せ及びFERCAP調査	中 国	H26. 7. 14 ～ H26. 7. 20	先方負担（中国：上海交通大学, FERCAP）
助 教	都 築 中	ベトナム南部ホーチミン市都市部におけるデング熱媒介蚊の採集調査	ベトナム	H26. 7. 15 ～ H26. 7. 29	受託研究費等 収 入
助 教	チャバス サナブリア ルイス フェルナンド	疾病媒介蚊の生態学について研究調査打合せ	ベネズエラ	H26. 7. 16 ～ H26. 8. 1	先方負担（ロス・アンデス 大学理学部）
教 授	山 本 太 郎	保健・健康・衛星に関する分野におけるポストミレニアム開発目標と指標の提示（環境省）	ア メ リ カ	H26. 7. 17 ～ H26. 7. 28	受託研究等 収 入
教 授	皆 川 昇	1. デング熱媒介蚊調査打合せ（ベトナム） 2. 新型マalaria感染簡易検査についての調査準備（ケニア） 3. SATREPSキックオフシンポ（南アフリカ）	ベトナム ケ ニ ア 南アフリカ	H26. 7. 17 ～ H26. 8. 25	受託研究費等 収 入
教 授	金 子 聡	スリランカ国非感染症疾患対策強化プロジェクトに関する研究実施	スリランカ	H26. 7. 20 ～ H26. 7. 31	受託研究等 収 入
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト討論, タイ薬用植物打合せ	タ イ	H26. 7. 20 ～ H26. 8. 1	運 営 費 交 付 金
技 術 員	戸 田 みつる	黄熱病およびリフトバレー熱にかかる早期警戒システム構築研究実施	ケ ニ ア	H26. 7. 21 ～ H26. 7. 24	受託研究費等 収 入
教 授	有 吉 紅 也	熱帯医学グローバルヘルス研究科教員採用面接および打合せ	イギリス	H26. 7. 22 ～ H26. 7. 28	運 営 費 交 付 金
技 術 員	柳 哲 雄	アジアにおける新種病原アメーバの分布とゲノム多様性に関する研究のため	タ イ	H26. 7. 23 ～ H26. 8. 1	先方負担 （東海大学）
教 授	濱 野 真二郎	フィールド調査に関する打合せ	ケ ニ ア	H26. 7. 23 ～ H26. 8. 2	戦略的国際 研究交流推進 事業費補助金
教 授	安 田 二 朗	第16回国際ウイルス学会参加	カ ナ ダ	H26. 7. 25 ～ H26. 8. 3	厚生労働 科学研究費 補 助 金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	坂 部 沙 織	第16回国際ウイルス学会参加と発表	カ ナ ダ	H26. 7. 26 ～ H26. 8. 3	科学研究費 補 助 金
産学官 連 携 研究員	高 松 由 基	第16回国際ウイルス学会参加と発表	カ ナ ダ	H26. 7. 26 ～ H26. 8. 3	外 部 資 金 間 接 経 費
助 教	中 澤 秀 介	長期残効型殺虫剤含浸蚊帳と空間忌 避剤を併用したマラリア防除トライ アルの打合せおよび調査	マ ラ ウ イ	H26. 7. 28 ～ H26. 8. 7	科学研究費 補 助 金
准教授	川 田 均	長期残効型殺虫剤含浸蚊帳と空間忌 避剤を併用したマラリア防除トライ アルの打合せおよび調査	マ ラ ウ イ	H26. 7. 28 ～ H26. 8. 7	受託研究等 収 入
助 教	都 築 中	SATREPSキックオフシンポジウムへ の出席および研究打合せ	南アフリカ	H26. 8. 1 ～ H26. 8. 19	受託研究費等 収 入
教 授	橋 爪 真 弘	SATREPSキックオフシンポジウムへ の出席および研究打合せ	南アフリカ	H26. 8. 2 ～ H26. 8. 10	受託研究費等 収 入
教 授	ローサボーン チャントラ	FERCAP打合せ及びFERCAP調査	中 国	H26. 8. 2 ～ H26. 8. 9	先方負担(上 海交通大学, FERCAP)
助 教	藤 井 仁 人	マルチプレックス法での Dengue 熱検 査法開発のための調査及び情報収集	スリランカ	H26. 8. 3 ～ H26. 8. 9	先導的創造 科学技術開 発費補助金
戦 略 職 員	齋 藤 信 夫	熱帯医学グローバルヘルス研究科設 置準備打合せ	フィリピン	H26. 8. 4 ～ H26. 8. 7	運 営 費 交 付 金
教 授	平 山 謙 二	AHRIにて研究打合せのため	エチオピア	H26. 8. 4 ～ H26. 8. 7	先導的創造 科学技術開 発費補助金
助 教	竹 村 太 地 郎	感染性下痢症（コレラ菌）につい ての研究打合せ，第 8 回 細菌学若手 コロッセウム参加	日 本	H26. 8. 4 ～ H26. 8. 9	寄 附 金
産学官 連 携 研究員	岩 下 華 子	ベトナム各地から採集した Dengue 熱 媒介蚊の DNA 解析とウイルス検出の 準備作業	ベ ト ナ ム	H26. 8. 4 ～ H26. 8. 23	受託研究費等 収 入
准教授	吉田 レイミント	研究打合せ（ベトナムプロジェクト， コホート），データ解析，ARI 研究の ための臨床サンプル実験	ベ ト ナ ム	H26. 8. 7 ～ H26. 8. 16	受託研究費等 収 入
教 授	平 山 謙 二	ICOPA2014出席,及び研究の方向性に 関する打合せ	メ キ シ コ	H26. 8. 9 ～ H26. 8. 15	受託研究等 収 入
教 授	金 子 修	熱帯熱マラリア原虫に関する研究打 合せ	ケ ニ ア	H26. 8. 8 ～ H26. 8. 19	受託研究費等 収 入

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	麻 田 正 仁	13th International Congress of Parasitology出席・発表(メキシコ), 研究打合せ及び情報収集(アメリカ)	メキシコ アメリカ	H26. 8. 8 ～ H26. 8. 21	科学研究費 補 助 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト討論, タイ薬用 植物打合せ	タ イ	H26. 8. 10 ～ H26. 8. 14	運 営 費 交 付 金
助 教	鈴 木 基	感染症の研究打合せ及びデータ収集	ベトナム	H26. 8. 12 ～ H26. 8. 14	科学研究費 補 助 金
助 教	市 川 智 生	Quarantine:History, Heritage, Place学会 参加のため	オーストラリア	H26. 8. 12 ～ H26. 8. 16	私 費
産学官 連 携 研究員	レ ニャット ン	小児呼吸器感染症の研究打合せ及び 検体収集	ベトナム	H26. 8. 12 ～ H26. 8. 26	受託研究費等 収 入
教 授	橋 爪 真 弘	SATREPSキックオフシンポジウムへ の出席および研究打合せ	南アフリカ	H26. 8. 16 ～ H26. 8. 23	受託研究費等 収 入
助 教	市 川 智 生	対日外交文書に関する研究打合せ	韓 国	H26. 8. 17 ～ H26. 8. 18	科学研究費 補 助 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ及びタイ 薬用植物研究打合せ	タ イ	H26. 8. 17 ～ H26. 8. 30	運 営 費 交 付 金
教 授	濱 野 真 二 郎	フィールド調査実施のため	バングラデシュ	H26. 8. 18 ～ H26. 8. 23	科学研究費 補 助 金
准教授	奥 村 順 子	WHOから緊急の疫学専門家の派遣 要請をうけ, 本学がWHOのエボラ対 策チームに協力する目的での派遣	ス イ ス	H26. 8. 20 ～ H26. 10. 23	外 部 資 金 間 接 経 費
教 授	橋 爪 真 弘	International Society for Environmental Epidemiology (ISEE)に参加し情報収 集を行う	ア メ リ カ	H26. 8. 23 ～ H26. 8. 29	科学研究費 補 助 金
産学官 連 携 研究員	岩 下 華 子	フィールド調査のため	ラ オ ス	H26. 8. 24 ～ H26. 8. 30	受託研究費等 収 入
戦 略 職 員	齋 藤 信 夫	熱帯医学グローバルヘルス研究科設 置準備打合せ	フィリピン	H26. 8. 25 ～ H26. 8. 30	運 営 費 交 付 金
准教授	川 田 均	アクラ周辺フィールド調査及びウイル ス分離の実施	ガ ー ナ	H26. 8. 30 ～ H26. 9. 18	受託研究費等 収 入
助 教	市 川 智 生	日独軍事・外交史史料調査	ド イ ツ	H26. 8. 30 ～ H26. 9. 11	先 方 負 担 (東京大学)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	比 嘉 由紀子	アクラ周辺フィールド調査及びウイルス分離の実施	ガ ー ナ	H26. 8. 30 ～ H26. 9. 18	受託研究費等収入
教 授	ローサボーン チャントラ	倫理調査委員会研修のため	韓 国	H26. 8. 31 ～ H26. 9. 2	先方負担 (慶熙大学校)
教 授	皆 川 昇	ボロクワネにて現地視察及び意見交換と南アフリカ公衆衛生会議への出席	南アフリカ	H26. 8. 31 ～ H26. 9. 12	受託研究費等収入
産学官 連 携 研究員	岩 下 華 子	ベトナム各地から採集したデング熱媒介蚊のDNA解析とウイルス検出の準備作業(ベトナム)	ベトナム	H26. 8. 31 ～ H26. 9. 9	受託研究費等収入
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ及びタイ薬用植物研究打合せ	タ イ	H26. 9. 3 ～ H26. 9. 4	運 営 費 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	調査委員会出席のため	中 国	H26. 9. 5 ～ H26. 9. 8	先方負担 (上海子供病院)
助 教	坂 口 美亜子	国際顕微鏡学会に参加しポスター発表を行う	チ エ コ	H26. 9. 7 ～ H26. 9. 14	科学研究費 補 助 金
准教授	吉田 レイミント	熱帯医学校開設準備打合せ	イギリス	H26. 9. 8 ～ H26. 9. 12	運 営 費 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ及びタイ薬用植物研究打合せ	タ イ	H26. 9. 9 ～ H26. 9. 13	運 営 費 交 付 金
助 教	矢 幡 一 英	25th Annual Molecular Parasitology Meeting 出席・発表及び研究打合せ・情報収集のため	アメリカ	H26. 9. 11 ～ H26. 9. 22	科学研究費 補 助 金
教 授	ローサボーン チャントラ	調査委員会出席のため	中 国	H26. 9. 14 ～ H26. 9. 17	先方負担 (上海子供病院)
戦 略 職 員	齊 藤 信 夫	熱帯医学校に係る打合せのため	フィリピン	H26. 9. 16 ～ H26. 9. 19	運 営 費 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ及びタイ薬用植物研究打合せのため	タ イ	H26. 9. 18 ～ H26. 9. 20	運 営 費 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	Forum for Ethical Review Committees in Asia and Western Pacific Regionに出席	モンゴル	H26. 9. 21 ～ H26. 9. 23	先方負担 (AFRIMS)
教 授	濱 野 真二郎	英国熱帯医学系共同演者として成果発表ならびに国際的なネットワーク構築	イギリス	H26. 9. 22 ～ H26. 10. 3	戦略的国際 研究交流推進 事業費補助金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	平 山 謙 二	デング出血熱についての研究打合せのため	ベトナム	H26. 9. 23 ～ H26. 9. 25	受託研究費等 収 入
准教授	川 田 均	ベトナムにおける害虫駆除入門講師として参加	ベトナム	H26. 9. 23 ～ H26. 9. 25	受託研究等 収 入
外国人 研究員	テンプルトン トーマス ジェームス	2014 Frontier Forum on Research of Major Parasitic Diseases出席	中 国	H26. 9. 23 ～ H26. 9. 27	先方負担 (中国医科大学)
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ及びタイ 薬用植物研究打合せ	タ イ	H26. 9. 24 ～ H26. 10. 5	運 営 費 交 付 金
プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 員	ラム バ オ ウ オ ッ ク	国際共同研究に関する打合せのため	ケ ニ ア	H26. 9. 24 ～ H26. 10. 31	戦略的国際 研究交流推進 事業費補助金
教 授	橋 爪 真 弘	「気象情報をもとにした小児肺炎患 者数予測モデルの検討」についての 打合せのため	バングラデシュ	H26. 9. 29 ～ H26. 10. 4	科学研究費 補 助 金
准教授	吉田 レイミント	研究打合せ, データ解析, ARI研究の ための臨床サンプル実験	ベトナム	H26. 9. 29 ～ H26. 10. 4	受託研究費等 収 入
助 教	シャー モハマド モ ニ ル	早期海外研修中の指導及び打合せの ため	ケ ニ ア	H26. 9. 29 ～ H26. 10. 10	研 究 拠 点 形 成 費 等 補 助 金
戦 略 職 員	齋 藤 信 夫	熱帯医学校に係る打合せのため	フィリピン	H26. 9. 30 ～ H26. 10. 3	運 営 費 交 付 金
助 教	鈴 木 基	カンホア病院にて感染症の研究打合 せとデータ収集	ベトナム	H26. 9. 30 ～ H26. 10. 4	運 営 費 交 付 金
産学官 連 携 研 究 員	岩 下 華 子	ベトナム各地から採集したデング熱 媒介蚊のDNA解析作業	ベトナム	H26. 9. 30 ～ H26. 11. 28	受託研究費等 収 入
教 授	金 子 聰	アフリカにおける地域特性を考慮し た乳幼児の健康改善モデル構築に関 する疫学研究に関する研究打合せ	ケ ニ ア	H26. 10. 5 ～ H26. 10. 13	科学研究費 補 助 金
助 教	比 嘉 由紀子	蚊タイプ標本の輸送・保管および博 物館所蔵蚊標本視察	アメリカ	H26. 10. 7 ～ H26. 10. 18	私 費
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲プロジェクト打合せ, 薬理学研 修	タ イ	H26. 10. 8 ～ H26. 10. 19	運 営 費 交 付 金
助 教	和 田 崇 之	研究打合せ, AMZWMC会議, 高地 定住者における地域保健及び生活習 慣病研究のための現地調査	ネパール	H26. 10. 9 ～ H26. 10. 25	運 営 費 交 付 金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	安 田 二 朗	第3回国際抗ウイルス学会出席	オ ラ ン ダ	H26. 10. 11 ～ H26. 10. 16	科学研究費 補 助 金
教 授	橋 爪 真 弘	The 2014 water and Health Conference に参加および情報収集	ア メ リ カ	H26. 10. 12 ～ H26. 10. 16	科学研究費 補 助 金
教 授	山 本 太 郎	AMZWMC会議（ベトナム）、高地定 住者における地域保健および生活習慣 病研究のための現地調査（ネパール）	ベ ト ナ ム ネ パ ー ル	H26. 10. 14 ～ H26. 10. 24	運 営 費 交 付 金
教 授	金 子 聰	開発途上国における静脈認証を用い た地域保健医療情報システム構築に 向けての基礎研究に関する研究実施	ラ オ ス	H26. 10. 14 ～ H26. 10. 21	科学研究費 補 助 金
助 教	都 築 中	長期派遣専門家（感染症分析）としてJICA南 アフリカにおける気候予測モデルをもとにした 感染症流行の早期警戒システムの構築への参加	南アフリカ	H26. 10. 17 ～ H30. 10. 16	先 方 負 担 (J I C A)
戦 略 職 員	安 波 道 郎	The 64th Annual Meeting of the American Society of Human Geneticsに 出席, 発表	ア メ リ カ	H26. 10. 18 ～ H26. 10. 23	科学研究費 補 助 金
助 教	シ ェ リ フ モ ハ マ ド サ マ	Wellcome Trust Advanced Course: Working with Parasite Database Resources19-24October2014におい て寄生虫学のデータベースについての講義と研修	イ ギ リ ス	H26. 10. 19 ～ H26. 10. 26	先 方 負 担 (Wellcome Trust)
戦 略 職 員	齋 藤 信 夫	今後の協力関係についての会議	フィリピン	H26. 10. 21 ～ H26. 10. 25	運 営 費 交 付 金
助 教	鈴 木 基	サンラザロ病院にて研究打合せ	フィリピン	H26. 10. 23 ～ H26. 10. 25	運 営 費 交 付 金
助 教	鈴 木 基	国境なき医師団から派遣される疫学専門 家として、リベリアにおいて発生してい るエボラアウトブレイクの制御活動	リベリア	H26. 10. 27 ～ H26. 12. 7	先 方 負 担 (国境なき医師団)
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ	タ イ	H26. 10. 30 ～ H26. 11. 1	運 営 費 交 付 金
教 授	金 子 聰	スリランカ国非感染症疾患対策強化 プロジェクトに関する研究実施と研 究打合せ	スリランカ	H26. 10. 31 ～ H26. 11. 13	受託研究費等 収 入
助 教	チャベス サナブリア ルイス フェルナンド	ASTMH 63rd Annual Meeting参加・発 表	ア メ リ カ	H26. 11. 1 ～ H26. 11. 8	外 部 資 金 間 接 経 費
教 授	皆 川 昇	頭脳循環打合せ, ICIPE理事会出席	ケ ニ ア	H26. 11. 1 ～ H26. 11. 15	戦 略 的 国 際 研 究 交 流 推 進 事 業 費 補 助 金
助 教	藤 井 仁 人	Multiplexアッセイ法開発に関する研 究実施	ケ ニ ア	H26. 11. 3 ～ H26. 11. 30	先 導 的 創 造 科 学 技 術 開 発 費 補 助 金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	ローサボーン チャントラ	Global Fellowship Program参加のため	アメリカ	H26. 11. 7 ～ H26. 11. 12	運 営 費 交 付 金
助 教	二 見 恭 子	中間宿主員の分布と感染率の調査研究	ケ ニ ア	H26. 11. 7 ～ H26. 12. 12	戦 略 的 国 際 研 究 交 流 推 進 事 業 費 補 助 金
教 授	森 田 公 一	デングウイルス研究打合せ	フィリピン	H26. 11. 12 ～ H26. 11. 15	受 託 研 究 費 等 収 入 (e - a s i a)
助 教	黒 崎 陽 平	国立保健医学研究所 (INSERM) と の研究打合せ	フ ラ ンス	H26. 11. 13 ～ H26. 11. 16	先 方 負 担 (INSERM)
技 術 員	柳 哲 雄	シャーガス病病原体クルーズ・トリ パノソーマ原虫南米株の補充と シャーガス病対策の研究打合せ	アメリカ	H26. 11. 15 ～ H26. 12. 1	研 究 開 発 施 設 共 用 等 促 進 費 補 助 金
教 授	平 山 壽 哉	論文作成と今後の研究打合せ	アメリカ	H26. 11. 19 ～ H26. 11. 24	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲プロジェクトの打合せ	タ イ	H26. 11. 20 ～ H26. 11. 21	運 営 費 交 付 金
教 授	平 山 謙 二	FERCAP2014に出席し、次年度のディ プロマコースの打合せ及びアジア参 加者への広報	フィリピン	H26. 11. 21 ～ H26. 11. 27	運 営 費 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	14th FERCAP International Conference and 1stPHREB National Conference出 席	フィリピン	H26. 11. 22 ～ H26. 11. 25	運 営 費 交 付 金
講 師	上 村 春 樹	ケニアのマラリアとトリパノソーマ についての研究打合せ	ケ ニ ア	H26. 11. 23 ～ H26. 12. 5	運 営 費 交 付 金
産学官 連 携 研 究 員	レ ニ ャ ッ ト ン ミ	第15回APCCMIに出席，発表	マレーシア	H26. 11. 24 ～ H26. 11. 30	受 託 研 究 費 等 収 入
教 授	皆 川 昇	SAMEC MEETING出席と研究打合せ	南アフリカ	H26. 11. 24 ～ H26. 12. 6	受 託 研 究 費 等 収 入 (SATREPS-JICA)
准教授	吉田 レイミント	ベトナムにおけるインフルエンザ研 究のため臨床検体準備と検査実験， ベトナムプロジェクト会議	ベ ト ナ ム	H26. 11. 25 ～ H26. 11. 29	受 託 研 究 費 等 収 入
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲プロジェクトの打合せ	タ イ	H26. 11. 26 ～ H26. 11. 29	運 営 費 交 付 金
助 教	チャベス サナブリア ルイス フェルナンド	学会参加発表	台 湾	H26. 11. 28 ～ H26. 12. 1	先 方 負 担 (The 13th Asian-Pacific Congress for Parasitic Zoonoses)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
研究 機 関 研 究 員	キム ユンヒ	2014Conference of International Society for Environmental Epidemiology Asia Chapter参加	中 国	H26. 11. 29 ～ H26. 12. 2	運 営 費 交 付 金
教 授	橋 爪 真 弘	ISEE-ACへ参加し発表, および情報 収集	中 国	H26. 11. 29 ～ H26. 12. 2	運 営 費 交 付 金
教 授	平 山 謙 二	The 17th A-IMBN Annual Conferenceに 出席し, 次年度のディプロマコース の打合せ及びアジア参加者への広報	フィリピン	H26. 11. 30 ～ H26. 12. 3	運 営 費 交 付 金
産学官 連 携 研 究 員	岩 下 華 子	ベトナム各地から採集した Dengue 熱 媒介蚊の DNA 解析作業	ベトナム	H26. 12. 2 ～ H26. 12. 23	受託研究費等 収 入
准教授	川 田 均	長期残効型殺虫剤含浸蚊帳と空間忌 避剤を併用したマラリア防除トライ アルの打合せと調査	マラウイ	H26. 12. 5 ～ H26. 12. 27	科学研究費 補 助 金
助 教	中 澤 秀 介	長期残効型殺虫剤含浸蚊帳と空間忌 避剤を併用したマラリア防除トライ アルの打合せと調査	マラウイ	H26. 12. 5 ～ H26. 12. 27	受託研究等 収 入
教 授	橋 爪 真 弘	ロンドン大学において, 気候変動研 究に関する打合せ	イギリス	H26. 12. 6 ～ H26. 12. 11	先方負担 (ロンドン大学)
研 究 機 関 研 究 員	キム ユンヒ	ロンドン大学において, 気候変動研 究に関する打合せ	イギリス	H26. 12. 6 ～ H26. 12. 11	運 営 費 交 付 金
准教授	奥 村 順 子	乳幼児死亡の少数民族間における格 差に関する現地調査	ラオス	H26. 12. 6 ～ H26. 12. 13	科学研究費 補 助 金
技 能 補 佐 員	小 川 真由美	ゲル解析のための研究室保存コレラ 菌より DNA 抽出作業	ベトナム	H26. 12. 6 ～ H26. 12. 13	受託研究費等 収 入
戦 略 員	齋 藤 信 夫	サンラザロ病院と今後の協力関係に ついての協議	フィリピン	H26. 12. 7 ～ H26. 12. 12	運 営 費 交 付 金
准教授	吉田 レイミント	研究打合せ, データ解析, ARI 研究の ための臨床検体準備と検査実験	ベトナム	H26. 12. 7 ～ H26. 12. 13	受託研究費等 収 入
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ	タイ	H26. 12. 10 ～ H27. 1. 5	運 営 費 交 付 金
技 術 員	戸 田 みつる	黄熱病のリフトバレー熱にかかる早 期警戒システムの構築の研究	ケニア	H26. 12. 23 ～ H26. 12. 25	運 営 費 交 付 金
教 授	金 子 聰	トリパノソーマ血清診断法に関する 研究実施	ケニア	H27. 1. 4 ～ H27. 1. 9	受託研究費等 収 入

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
産学官 連 携 研究員	岩 下 華 子	ベトナム各地から採集したデング熱 媒介蚊のDNA解析作業	ベ ト ナ ム	H27. 1. 6 ～ H27. 2. 13	受託研究費等 収 入
教 授	皆 川 昇	NIHEとの第三期プロジェクトに向 けてのインターナルセミナー出席	ベ ト ナ ム	H27. 1. 8 ～ H27. 1. 14	受託研究費等 収 入
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ	タ イ	H27. 1. 8 ～ H27. 1. 18	運 営 費 交 付 金
教 授	金 子 聰	「途上国におけるイノベーションを 促進する国際協力の戦略的推進」プ ログラムの合同シンポジウム参加	エ ジ プ ト	H27. 1. 9 ～ H27. 1. 13	先導的創造 科学技術開 発費補助金
教 授	森 田 公 一	NIHE-NUセミナー出席並びにミー ティング	ベ ト ナ ム	H27. 1. 10 ～ H27. 1. 15	受託研究費等 収 入
産学官 連 携 研究員	レ ニヤットン ミ	小児呼吸器感染症の研究打合せおよ び検体収集, インターナルセミナー 出席	ベ ト ナ ム	H27. 1. 10 ～ H27. 1. 16	受託研究費等 収 入
准教授	グエン フィン テイエン	NIHEとのインターナルセミナー参 加およびパスツール・ホーチミンシ ティでのデング熱研究打合せ	ベ ト ナ ム	H27. 1. 10 ～ H27. 1. 16	受託研究費等 収 入
教 授	橋 爪 真 弘	新興再興感染症についての共同研究 セミナー参加	ベ ト ナ ム	H27. 1. 11 ～ H27. 1. 14	運 営 費 交 付 金
准教授	吉田 レイミント	論文博士研究者の「中部ベトナムに おけるHIVウイルスの分子疫学」論 文作成に伴う研究指導	ベ ト ナ ム	H27. 1. 11 ～ H27. 1. 17	受託研究費等 収 入
助 教	水 上 修 作	パスツール・ホーチミンシティでの デング熱研究打合せ	ベ ト ナ ム	H27. 1. 13 ～ H27. 1. 16	受託研究費等 収 入
助 教	井 上 真 吾	黄熱病及びリフトバレー熱の迅速診 断キットの製造・品質検定にかかる 研究実施	ケ ニ ア	H27. 1. 17 ～ H27. 4. 25	受託研究費等 収 入
准教授	川 田 均	昆虫学的調査を主体としたメトフル トリンデバイスの用法容量設定のた めのフィールド試験実施	マ ラ ウ イ	H27. 1. 19 ～ H27. 3. 2	受託研究費等 収 入
助 教	二 見 恭 子	中間宿主貝の分布と感染率の調査研 究	ケ ニ ア	H27. 1. 19 ～ H27. 2. 7	戦 略 的 国 際 研究交流推進 事業費補助金
教 授	ローサボーン チャントラ	Phramongkutklao HpsitalにてEthics参 加	タ イ	H27. 1. 20 ～ H27. 1. 25	運 営 費 交 付 金
教 授	森 田 公 一	台湾EID・日米パネルミーティング 参加	台 湾	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 30	先 方 負 担 (日米医学協 力 研 究 会)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	平 山 謙 二	シャーガス病の薬剤治療反応性を規定する原虫および宿主の遺伝要因解析についての共同研究のため	ボ リ ビ ア	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 31	科学研究費 補 助 金
助 教	砂 原 俊 彦	ミャンマー主要感染症プロジェクトフェーズ2のJICA短期専門家として、JICAミャンマー事務所棟の訪問、及び研究協力をを行うため"	ミャンマー	H27. 1. 25 ～ H27. 2. 6	先 方 負 担 (J I C A)
戦 略 員	齋 藤 信 夫	サンラザロ病院と、今後の協力関係についての協議	フィリピン	H27. 1. 26 ～ H27. 1. 30	運 営 費 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクトデータ解析、紫雲プロジェクトミーティング出席	タ イ	H27. 1. 29 ～ H27. 2. 22	運 営 費 交 付 金
助 教	浦 田 秀 造	リーディング大学院生のBSL-4病原体取扱いの指導及びトレーニングについての打ち合わせ	南アフリカ	H27. 1. 31 ～ H27. 2. 22	研究拠点形成 費等補助金
准教授	吉田 レイミント	研究打合せ、ARIサンプル処理及び試験	ベ ト ナ ム	H27. 2. 2 ～ H27. 2. 7	受託研究費等 収 入
教 授	森 田 公 一	SATREPS事業打合せ、蚊媒介性ウイルスに関する研究打合せ	ケ ニ ア	H27. 2. 2 ～ H27. 2. 7	受託研究費等 収 入, 科学 研究費補助金
教 授	濱 野 真二郎	Meeting on Diagnostic Tools Schistosomiasis Control出席	ス イ ス	H27. 2. 3 ～ H27. 2. 8	先 方 負 担 (W H O)
教 授	橋 爪 真 弘	BK21 Plus International Symposium for Environmental Health-Challenges and Perspectives in Environmenに参加し、発表および情報収集を行うため	韓 国	H27. 2. 4 ～ H27. 2. 6	先 方 負 担 (ソウル大学)
助 教	砂 原 俊 彦	第7回長崎大学ハノイ公開講座出席、公開講座打合せ	ベ ト ナ ム	H27. 2. 6 ～ H27. 2. 9	受託研究費等 収 入
教 授	安 田 二 朗	第7回長崎大学ハノイ公開講座参加	ベ ト ナ ム	H27. 2. 6 ～ H27. 2. 9	受託研究費等 収 入
教 授	皆 川 昇	Pousada de juventude parque das nacoesにて新しいデータ解析の手法の情報収集	ポルトガル	H27. 2. 7 ～ H27. 2. 15	受託研究費等 収 入
教 授	平 山 謙 二	臨床開発学の漢方薬プロジェクトの研究打合せ	タ イ	H27. 2. 7 ～ H27. 2. 11	運 営 費 交 付 金
助 教	二 見 恭 子	Pousada de juventude parque das nacoesにて統計セミナー参加	ポルトガル	H27. 2. 8 ～ H27. 2. 14	学術研究助成 基金助成金
助 教	藤 井 仁 人	デング熱患者を同定するためのRNA抽出法とRT-PCR法の指導	スリランカ	H27. 2. 8 ～ H27. 2. 19	先導的創造 科学技術開 発費補助金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	余 福 勲	KEMRIにてELISA診断キットの評価	ケ ニ ア	H27. 2. 11 ～ H27. 2. 27	受託研究費等 収 入
助 教	二 見 恭 子	アリモドキノウムシの採集調査	ケ ニ ア	H27. 2. 15 ～ H27. 3. 12	科学研究費 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	日本学術会議G7アカデミー会合に出席し学術講演をおこなう	ド イ ツ	H27. 2. 21 ～ H27. 2. 26	先方負担 (German National Academy of Sciences Leopoldina)
教 授	金 子 聰	スリランカ国非感染症対策強化プロジェクトに関する研究実施	スリランカ	H27. 2. 22 ～ H27. 2. 27	受託研究費等 収 入
教 授	平 山 壽 哉	パリ第7大学 Diderot校 Epigenetics and Cell Fate専門部にて共同研究打合せ	フ ラ ンス	H27. 2. 23 ～ H27. 3. 2	運 営 費 金 交 付 金
助 教	ラーソン ピーター シ ョ ー ン	長崎大学とロンドン衛生熱帯医学大学院との教育研究ネットワーク構築の準備	ガ ン ビ ア	H27. 2. 24 ～ H27. 3. 7	運 営 費 金 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ	タ イ	H27. 2. 26 ～ H27. 3. 15	運 営 費 金 交 付 金
助 教	チャベス サナプリア ルイス フェルナンド	毒蛇咬傷についての研究打合せ	コスタリカ	H27. 2. 27 ～ H27. 3. 8	運 営 費 金 交 付 金
助 教	早 坂 大 輔	毒蛇咬傷についての研究打合せ	ケ ニ ア	H27. 2. 28 ～ H27. 3. 8	運 営 費 金 交 付 金
助 教	市 川 智 生	Postgraduate Forum of Medical History for East Asia2015参加	韓 国	H27. 3. 4 ～ H27. 3. 7	科学研究費 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	ベンズニダゾールによるシャーガス病治療の問題点に関する協議	ス イ ス	H27. 3. 5 ～ H27. 3. 7	科学研究費 補 助 金
助 教	佐 藤 光	熱帯医学臨床コース運営補助, ハグマイ病院職員との打合せ, 会議出席	ベ ト ナ ム	H27. 3. 9 ～ H27. 3. 12	運 営 費 金 交 付 金
准教授	吉田 レイミント	論文博士研究者の「中部ベトナムにおけるHIVウイルスの分子疫学」論文作成に伴う研究指導	ベ ト ナ ム	H27. 3. 9 ～ H27. 3. 14	運 営 費 金 交 付 金
技 能 補佐員	小 川 真由美	コレラ菌のDNA抽出作業	ベ ト ナ ム	H27. 3. 12 ～ H27. 3. 15	受託研究費等 収 入
教 授	皆 川 昇	国立感染症研究所との Dengue 熱連携研究	ベ ト ナ ム	H27. 3. 12 ～ H27. 3. 13	受託研究費等 収 入

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	二 見 恭 子	長崎大採集サンプル回収作業	ザンビア	H27. 3. 13 ～ H27. 3. 14	受託研究 等 収 入
教 授	皆 川 昇	国立感染症研究所とのデング熱連携 研究	ケニア	H27. 3. 13 ～ H27. 3. 22	受託研究 等 収 入
教 授	安 田 二 朗	ギニア共和国コナクリ国立病院におい て、エボラウイルスに関する指導およ び現地研究者と共同で研究をおこなう	ギニア	H27. 3. 15 ～ H27. 3. 26	受託研究等 収 入
助 教	黒 崎 陽 平	コナクリ国立病院において、エボラ ウイルスに関する指導および現地 研究者と共同で研究をおこなう	ギニア	H27. 3. 15 ～ H27. 3. 24	受託研究等 収 入
助 教	比 嘉 由紀子	フィリピンにおける病原体媒介性ダ ニ調査に関する打合せと予備調査	フィリピン	H27. 3. 17 ～ H27. 3. 21	科学研究費 補 助 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ	タイ	H27. 3. 19 ～ H27. 3. 21	運 営 費 交 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	Ethics Project打合せ	スイス	H27. 3. 21 ～ H27. 3. 24	運 営 費 交 付 金
教 授	橋 爪 真 弘	Impact of Environmental Changes on Infectious Diseases2015にて研究発表 および情報収集	スペイン	H27. 3. 21 ～ H27. 3. 27	科学研究費 補 助 金
産学官 連 携 研究員	レ ニヤットン ミ	肺炎球菌研究における臨床検体の DNA収集実験を行う	ベトナム	H27. 3. 21 ～ H27. 3. 30	受託研究費等 収 入
助 教	黒 崎 陽 平	第7回フィロウイルス国際シンポジ ウム出席	アメリカ	H27. 3. 24 ～ H27. 4. 1	自己 収 入 (交付金対象)
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ	タイ	H27. 3. 24 ～ H27. 3. 29	運 営 費 交 付 金
教 授	平 山 謙 二	シャーガス病の薬剤治療反応性を規 定する原虫および宿主の遺伝要因解 析の最終打合せ	ボリビア	H27. 3. 24 ～ H27. 3. 31	科学研究費 補 助 金

9. 外国人研究者の受け入れ

9. 1 平成26年度に受け入れた外国人研究者

分野等	氏名	国籍	受入期間	経費	備考
ウイルス学	Thi Nam Lien Nguyen ティナム リエン グエン	ベトナム	H26. 5. 7 ～ H26. 5. 11	受託研究費等 収入	
	Ngoc Quang Nguyen ンゴ クァン グエン	ベトナム	H26. 5. 7 ～ H26. 5. 11	受託研究費等 収入	
	Le Thi Quynh Mai レ ティ クイ マイ	ベトナム	H26. 5. 7 ～ H26. 5. 11	受託研究費等 収入	
	Nguyen Thi Thu Thuy グエン ティ トウ サイ	ベトナム	H26. 5. 7 ～ H26. 5. 11	受託研究費等 収入	
	Bui Thu Thuy ブイ トウ ツアイ	ベトナム	H26. 7. 11 ～ H26. 7. 19	受託研究費等 収入	
	Somboom Pradya ソンブーン プラダ	タイ	H27. 2. 17 ～ H27. 2. 21	受託研究費等 収入	
	Isra Wahid イスラ ワヒド	インドネシア	H27. 2. 17 ～ H27. 2. 21	受託研究費等 収入	
	Muthugala Arachchige Vishvernath Muthugala	スリランカ	H27. 2. 23 ～ H28. 2. 20	先方負担 (コロナ医学研究所)	
	Arlene Garcia Bertuso アーリン ガルシア ベルツソ	フィリピン	H27. 2. 25 ～ H27. 2. 28	受託研究費等 収入	
	Basu Dev Pandey バス デヴ パンディ	ネパール	H27. 3. 2 ～ H27. 3. 22	科学研究費 補助金	
新興感染症学	UNIGWE UCHECHUKWU SONNY ウニグエ ウチェチュク ソニー	ナイジェリア	H26. 9. 1 ～ H26. 10. 17	科学研究費 補助金	
原虫学	Gitaka Jesse Njihisa ギタカ ジェッセ ジヒア	ケニア	H27. 1. 6 ～ H27. 2. 20	受託研究費等 収入	
寄生虫学	Musa Md Abu ムサ モハマッド アブ	バングラデシュ	H27. 1. 18 ～ H27. 1. 21	科学研究費 補助金	
	Chadeka Evans Asena チャデカ エヴァンス アセナ	ケニア	H27. 1. 19 ～ H27. 1. 21	運営費交付金	
免疫遺伝学	Chitr SITTHI-AMORN チッ シッチアモン	タイ	H26. 5. 6 ～ H26. 5. 11	運営費交付金	
	Cristina Trres クリスティーナ トレス	フィリピン	H26. 5. 7 ～ H26. 5. 11	運営費交付金	
	KYUNGSUK SUH キュンスク スー	韓国	H26. 9. 12 ～ H26. 9. 15	運営費交付金	
	JAMES MCCLUSKEY ジェームス マクラスキー	オーストラリア	H26. 9. 13 ～ H26. 9. 16	運営費交付金	
	Kesara Na Bangchang ケセラ ナ バンチャン	タイ	H27. 3. 29 ～ H27. 4. 2	運営費交付金	
生態疫学	Nzou Samson Muuo ンゾウ サムソン ムウオ	ケニア	H26. 7. 7 ～ H26. 7. 27	受託研究等 収入	
	WANJIHIA VIOLET WANJIKU ワンジャ バイオレット ワンジク	ケニア	H26. 9. 22 ～ H26. 10. 2	科学研究費 補助金	
	WANGUI JOAN JOSEPHINE ワングイ ジョアン ジョセフィン	ケニア	H26. 9. 22 ～ H26. 10. 25	先導的創造科学 技術開発費補助金	

分野等	氏名	国籍	受入期間	経費	備考
	Nzou Samson Muuo ンゾウ サムソン ムウオ	ケニア	H27. 3. 18 ～ H27. 3. 28	受託研究等 収 入	
国際保健学	Tu Raoping トゥ ラオピン	中国	H27. 1. 19 ～ H27. 1. 26	運営費交付金	
病害動物学	Neville Sweijd ネビル スウェイジ	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)	
	Angela Mathee アンジェラ マシュー	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)	
	Rajendra Maharaj ラジェンドラ マハラ	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)	
	Francois Engelbrecht フランソワ エンゲル	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)	
	Peter Witbooi ピーター J. ウイトP	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)	
	Gcino Mlaba チーノ ムラバ	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)	
	Morwamphaga Nkadimeng モーワンファガ カデ	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)	
	Brilliant Petja ブリリアント ペジャ	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)	
	Modiegi Selematsela モディエジ セレマセラ	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)	
Philippus Kruger フィリップ S. クルP	南アフリカ	H27. 1. 25 ～ H27. 1. 28	先方負担 (JICA SATREPS)		
臨床感染症学	Justin Francis Doherty ジャスティン フランシス ドヘルティ	イギリス	H26. 5. 31 ～ H26. 6. 14	運営費交付金	
	Do Thai Hung ドゥ ハイ フン	ベトナム	H26. 6. 14 ～ H26. 7. 31	受託研究費等 収 入	
	Seung Hyun Yoo スン フン ヨー	韓国	H26. 6. 15 ～ H26. 6. 21	運営費交付金	
	Quazi Monirul Islam クアジ モニールイ イスラム	オランダ	H26. 6. 22 ～ H26. 6. 27	運営費交付金	
	Sharon Elizabeth Cox シャロン エリザベス コックス	イギリス	H26. 8. 4 ～ H26. 8. 11	運営費交付金	
	Koen Peeters コーエン पीターズ	ベルギー	H26. 9. 27 ～ H26. 10. 25	運営費交付金	
	Sharon Elizabeth Cox シャロン エリザベス コックス	イギリス	H26. 10. 1 ～ H26. 10. 20	運営費交付金	
	Christopher Parry クリストファー パリー	イギリス	H26. 10. 6 ～ H26. 12. 20	運営費交付金	
	John Edmunds ジョン エドモンズ	イギリス	H26. 10. 24 ～ H26. 10. 30	運営費交付金	
John Cairns ジョン ケインズ	イギリス	H26. 10. 26 ～ H26. 11. 3	運営費交付金		

分野等	氏名	国籍	受入期間	経費	備考
	Simon Croft サイモン クロフト	イギリス	H26. 10. 27 ～ H26. 10. 30	運営費交付金	
	Nick Mascie Taylor ニック マーシー ティラー	イギリス	H26. 11. 1 ～ H26. 11. 8	運営費交付金	
	Melissa Parker メリッサ パーカー	イギリス	H26. 11. 5 ～ H26. 11. 10	運営費交付金	
	Saul Helfenbein Joseph ソウル ヘルフェンベイン ジョセフ	アメリカ	H26. 11. 15 ～ H26. 12. 1	運営費交付金	
	Shaila Nazneen シャイラ ナニーン	バングラデシュ	H26. 12. 14 ～ H26. 12. 20	運営費交付金	
	Marabika Sarker マラビカ サーカー	バングラデシュ	H26. 12. 14 ～ H26. 12. 20	運営費交付金	
	Ly Na TRAN リナ チャン	ベトナム	H26. 12. 16 ～ H26. 12. 20	受託研究費等 収入	
	Christpher Parry クリストファー パリー	イギリス	H27. 1. 17 ～ H27. 1. 18	運営費交付金	
	Ann Priscilla Muthoni Gichu アン プリスシラ ムトニ ギチュ	ケニア	H27. 2. 21 ～ H27. 2. 25	運営費交付金	
	Anne Jane Mills アンジェーン ミルス	イギリス	H27. 3. 4 ～ H27. 3. 8	運営費交付金	
	Changoma Mwatasa Salim チャンゴマ ムワタサ サリム	ケニア	H27. 3. 15 ～ H27. 3. 19	運営費交付金	
	Megan Kill メーガン キル	イギリス	H27. 3. 17 ～ H27. 5. 31	運営費交付金	
	Jitra Waikagul ジトラ ウェイカグル	タイ	H27. 3. 26 ～ H27. 3. 31	運営費交付金	
	Do Trung Dung ドー チェンズン	ベトナム	H27. 3. 26 ～ H27. 3. 31	運営費交付金	
	Paron Dekumyoy パロン デクミョイ	タイ	H27. 3. 27 ～ H27. 3. 31	運営費交付金	
	Don Watthanakulpanich ドーン ワタナクニパニチ	タイ	H27. 3. 27 ～ H27. 3. 31	運営費交付金	
	Nguyen Thi Hop グエン ティ ホップ	ベトナム	H27. 3. 27 ～ H27. 3. 31	運営費交付金	
ベトナム拠点	NGUYEN Co Thach グエン コ タック	ベトナム	H26. 9. 30 ～ H26. 10. 4	受託研究費等 収入	
	LE THI THANH レ ティ タン	ベトナム	H26. 9. 30 ～ H26. 10. 4	受託研究費等 収入	
	Nguyen Dong Tu グエン ドントウ	ベトナム	H26. 10. 6 ～ H26. 11. 6	受託研究費等 収入	
	Do Phuong Loan ドゥ フォンロン	ベトナム	H27. 1. 6 ～ H27. 2. 3	受託研究費等 収入	
共同研究室	Carol Wangui Hunja キャロル ワングイ フンジャ	ケニア	H26. 7. 14 ～ H27. 3. 12	寄附金	

10 研究成果の発表状況

10. 1 研究業績

ウイルス学分野

- 1) **Yuki Takamatsu, Kenta Okamoto, Duc Tuan Dinh, Fuxun Yu, Daisuke Hayasaka, Leo Uchida, Takeshi Nabeshima, Corazon C. Buerano and Kouichi Morita** : NS1' protein expression facilitates production of Japanese encephalitis virus in avian cells and embryonated chicken eggs. *Journal of General Virology*, 95, 373-383. 2014
- 2) **Muhareva Raekiansyah, Lyre Anni Espada-Murao, Kenta Okamoto, Toru Kubo, Kouichi Morita** : Dengue virus neither directly mediates hyperpermeability nor enhances TNF- α -induced permeability in vitro. *Japanese Journal of Infectious Diseases*, Vol.67:86-94, 2014
- 3) **Fumihiko Yasui, Michinori Kohara, Masahiro Kitabatake, Tetsu Nishiwaki, Hideki Fujii, Chise Tateno, Misako Yoneda, Kouichi Morita** : Kouji Matsushima, Shigeo Koyasu, Chieko Kai. Phagocytic cells contribute to the antibody-mediated elimination of pulmonary-infected SARS coronavirus. *Virology* 454-455: 157-168. 2014
- 4) **Le Xuan Luat, Mya Myat Ngwe Tun, Corazon C. Buerano, Kotaro Aoki, Kouichi Morita and Daisuke Hayasaka** : Pathologic potential of variant clones of the Oshima strain of Far Eastern subtype tick-borne encephalitis virus. *Tropical Medicine and Health*. Vol. 42:15-23, 2014
- 5) **Tomoko Abe, Ayumi Sando, Fumiteru Teraoka, Tadamune Otsubo, Kouichi Morita, Hiroaki Tokiwa, Kiyoshi Ikeda, Takashi Suzuki, Kazuya I.P.J. Hidari** : Computational design of a sulfoglucuronide derivative fitting into a hydrophobic pocket of dengue virus E protein. *Biochemical and Biophysical Research Communications*. Vol449:32-37, 2014
- 6) **Ngwe Tun MM, Thant KZ, Inoue S, Nabeshima T, Aoki K, Kyaw AK, Myint T, Tar T, Maung KTT, Hayasaka D, Morita K** : Detection of East Central South African Genotype of Chikungunya Virus in Myanmar, 2010. *Emerg Infect Dis*. 20:1378-1381, 2014
- 7) **Ngwe Tun MM, Aoki K, Senba M, Buerano CC, Shirai K, Suzuki R, Morita K, Hayasaka D** : Protective role of TNF- α , IL-10 and IL-2 in mice infected with the Oshima strain of Tick-borne encephalitis virus. *Scientific Reports*. 4:5344
- 8) **Aoki K, Shimada S, Simantini DS, Ngwe Tun MM, Buerano CC, Morita K, Hayasaka D** : Type-I interferon response affects an inoculation dose-independent mortality in mice following Japanese encephalitis virus infection. *Virol J*. 11; 105, 2014
- 9) **Takeshi Nabeshima, Shingo Inoue, Kenta Okamoto, Guillermo Posadas-Herrera, Fuxun Yu, Leo Uchida, Akitoyo Ichinose, Miako Sakaguchi, Toshihiko Sunahara, Corazon C. Buerano, Florencio P. Tadena, Ildefonso B. Orbita, Filipinas F. Natividad, Kouichi Morita** : Tanay virus, a new species of virus isolated from mosquitoes in the Philippines. *Journal of General Virology*, Vol.95:1390-5. 2014
- 10) **C Murch, J Lindenmayer, K Pandey, G. Kaufman, DD Joshi, K Morita, BD. Pandey** : Evaluating the use of Equine Rabies immunoglobulin (EQUIRAB) for Post Exposure Prophylaxis in Kathmandu, Nepal, *Nepalese Vet. J*. 31: 88-95, 2014

- 11) **Bijaya Gaire, Komal Raj Rijal, Biswas Neupane, Pravin Paudyal, Ishan Gautam, Megha Raj Banjara, Kouichi Morita and Basu Dev Pandey** : Prevalence of dengue vector in relation to dengue virus infection in central region of Nepal. *Dengue Bulletin*. Vol.38:96-107, 2014
- 12) **Leo Uchida, Lyre Anni Espada-Murao, Yuki Takamatsu, Kenta Okamoto, Daisuke Hayasaka, Fuxun Yu, Takeshi Nabeshima, Corazon C. Buerano, and Kouichi Morita** : The dengue virus conceals double-stranded RNA in the intracellular membrane to escape from an interferon response. *Scientific Reports*. 4:7395. doi: 10.1038/srep07395. 2014
- 13) **Watanabe Y, Ito T, Ibrahim MS, Arai Y, Hotta K, Phuong HV, Hang NL, Mai LQ, Soda K, Yamaoka M, Poetranto ED, Wulandari L, Hiramatsu H, Daidoji T, Kubota-Koketsu R, Sriwilaijaroen N, Nakaya T, Okuno Y, Takahashi T, Suzuki T, Ito T, Hotta H, Yamashiro T, Hayashi T, Morita K, Ikuta K, Suzuki Y** : A novel immunochromatographic system for easy-to-use detection of group 1 avian influenza viruses with acquired human-type receptor binding specificity. *Biosensors Bioelectronics*. Vol.65C:211-219. 2014

新興感染症学分野

- 14) **Abe M, Fukuma A, Yoshikawa R, Miyazawa T, and Yasuda J** : Inhibition of budding/release of porcine endogenous retrovirus. *Microbiology and Immunology*, 58(8), 432-438, 2014
- 15) **Iwasaki M, Urata S, Cho Y, Ngo N, de la Torre JC** : Cell entry of lymphocytic choriomeningitis virus is restricted in myotubes. *Virology* 458-459: 22-32, 2014
- 16) **Imakawa K, Kusama K, and Yasuda J** : Early placentation and local immune regulation. In: *Reproduction in Domestic Ruminants VIII* (Juengel J L, Miyamoto A., Price C, Reynolds L P, Smith M F, and Webb R eds.), Context, 375-386, 2014

細菌学分野

- 17) **八尋錦之助, 中野政之, 野田公俊, 平山壽哉** : ピロリ菌の空胞化毒素VacAによるオートファジーとアポトーシスはLRP1を介して誘導される。日本ヘリコバクター学会誌vol. 15 (2), p. 16-20, 2014

原虫学分野

- 18) **Pandey K, Pandey BD, Mallik AK, Acharya J, Kato K, Kaneko O, Ferreira PE.** : A new molecular surveillance system for leishmaniasis. *Am J Trop Med Hyg* 90 (6): 1082-1086, 2014
- 19) **Masatani T, Asada M, Ichikawa-Seki M, Usui M, Terkawi MA, Hayashi K, Kawazu S, Xuan X** : Cloning and Characterization of a 2-Cys Peroxiredoxin from *Babesia gibsoni*. *J Vet Med Sci* 76(1): 139-143, 2014
- 20) **Pattaradilokrat S, Li J, Wu J, Qi Y, Eastman RT, Zilversmit M, Nair SC, Huaman MC, Quinones M, Jiang H, Li N, Zhu J, Zhao K, Kaneko O, Long CA, Su XZ.** : *Plasmodium* genetic loci linked to host cytokine and chemokine responses. *Genes Immun* 15(3): 145-152, 2014
- 21) **Abkallo HM, Liu W, Hokama S, Ferreira PE, Nakazawa S, Maeno Y, Quang NT, Kobayashi N, Kaneko O, Huffman MA, Kawai S, Marchand RP, Carter R, Hahn**

- BH, Culleton R.** : DNA from pre-erythrocytic stage malaria parasites is detectable by PCR in the faeces and blood of hosts. 44(7): 467-73, 2014
- 22) **Basuki S, Fitriah, Riyanto S, Budiono, Dachlan YP, Uemura H.** : Two novel mutations of pfdhps K540T and I588F, affecting sulphadoxine-pyrimethamine-resistant response in uncomplicated falciparum malaria at Banjar district, South Kalimantan Province, Indonesia. *Malaria J* 13: 135, 2014
- 23) **Mutungi JK, Yahata K, Sakaguchi M, Kaneko O.** : Expression and localisation of rhoptry neck protein 5 in merozoites and sporozoites of *Plasmodium yoelii*. *Parasitol Int* 63(6): 794-801, 2014
- 24) **矢幡一英, 坂口美亜子, 金子 修** : 細胞進化の証人たち : 細胞進化モデル生物図鑑 第8回 細胞に入って改造して連絡するシェイプチェンジャーたちの物語 宿主細胞支配モデル : マラリア原虫など *細胞工学* 33(6):670-672, 2014
- 25) **宮崎真也, 加賀谷渉, 金子 修** : 熱帯熱マラリア原虫から寄生赤血球へのタンパク質輸送化学療法の領域 30(8):110-116, 2014
- 26) **Kawai S, Sato M, Kato-Hayashi N, Kishi H, Huffman MA, Maeno Y, Culleton R, Nakazawa S** : Detection of *Plasmodium knowlesi* DNA in the urine and faeces of a Japanese macaque (*Macaca fuscata*) over the course of an experimentally induced infection. *Malaria J* 13: 373, 2014
- 27) **Hakimi H, Suganuma K, Usui M, Masuda-Suganuma H, Angeles JM, Asada M, Kawai S, Inoue N, Kawazu S** : *Plasmodium knowlesi* thioredoxin peroxidase 1 binds to nucleic acids and has RNA chaperone activity. *Parasitol Res* 113: 3957-3962, 2014

寄生虫学分野

- 28) **Adachi K, Nakamura R, Osada Y, Senba M, Tamada K, Hamano S** : Involvement of IL-18 in the Expansion of Unique Hepatic T Cells with Unconventional Cytokine Profiles during *Schistosoma mansoni* Infection. *PLoS One* ; 9(5): e96042. doi: 10.1371/journal.pone.0096042, 2014
- 29) **Nagi S, Chadeka E, Sunahara T, Mutungi F, Kalenda Y, Kaneko S, Ichinose Y, Matsumoto S, Njenga S, Hashizume M, Shimada M, *Hamano S** : Risk factors and spatial distribution of *Schistosoma mansoni* infection among primary school children in Mbita district, western Kenya. *PLoS Negl. Trop. Dis.* 2014; 8(7): e2991, 2014
- 30) **Fujii Y, Kaneko S, Nzou SM, Mwau M, Njenga SM, Tanigawa C, Kimotho J, Mwangi AW, Kiche I, Matsumoto S, Niki M, Osada-Oka M, Ichinose Y, Inoue M, Itoh M, Tachibana H, Ishii K, Tsuboi T, Yoshida LM, Mondal D, Haque R, Hamano S, Changoma M, Hoshi T, Kamo K, Karama M, Miura M, Hirayama K** : Serological surveillance development for tropical infectious diseases using simultaneous microsphere-based multiplex assays and finite mixture models. *PLoS Negl Trop Dis* ; 8(7): e3040, 2014
- 31) **Miyake K, Adachi K, Watanabe M, Sasatomi Y, Abe Y, Ito K, Kalenda DJY, Saito T, Nakashima H, Hamano S** : Parasites alter the pathological phenotype of lupus nephritis. *Autoimmunity* ; 24:1-10, 2014
- 32) **Khan MG, Bhaskar KR, Salam MA, Akther T, Kikuchi M, Haque R, Mondal D, Hamano S** : Comparison of PCR-based diagnosis for visceral leishmaniasis in Bangladesh. *Parasitol*

Int, 63(2): 327-331, 2014

- 33) **Pandey K, Pandey BD, Mallik AK, Acharya J, Kato K, Kaneko O, Ferreira PE** : A new molecular surveillance system for leishmaniasis. *Am J Trop Med Hyg* 2014; 90(6): 1082-1086, 2014
- 34) **Mitsui Y** : Comparison of the in vitro effects of one-day exposure to amodiaquine and praziquantel on *Schistosoma mansoni* adult worm pairs. *Trop Med Health* 42(2): 87-92, 2014
- 35) **Muhoho N, Kaburi J, Kihara JH, Mwobobia J, Mitsui Y, Mwandawiro C, Amano T, Wamae CN** : Patterns of *Schistosoma mansoni* and soil-transmitted helminths infections among school children and the related transmission risk factors in the rice irrigation area and the adjoining regions in Mwea, Central Kenya. *East and Central Africa Medical Journal* 2014; 1(1):11-17. 2014
- 36) **Muhoho N, Mitsui Y, Mwandawiro C** : Impact of sanitation improved school latrine on latrine-related practices, perceptions attitude and occurrence of diarrhoea in children in Mwea Division, Kirinyaga District, Central Kenya. *East and Central Africa Medical Journal* 2014; 1(1):22-27. 2014
- 37) **Arimori Y, Nakamura R, Yamada H, Shibata K, Maeda N, Kase T, Yoshikai Y** : Type I interferon plays opposing roles in cytotoxicity and interferon- γ production by natural killer and CD8 T cells after influenza A virus infection in mice. *J Innate Immun* 6 (4):456-66, 2014
- 38) **Mondal D, Hamano S, Hasnain MG, Satoskar AR** : Challenges for management of post kala-azar dermal leishmaniasis and future directions. *Research and Reports in Tropical Medicine* 2014; 5, 105-111.

免疫遺伝学分野

- 39) **藤田紘一郎, 平山謙二**著：医動物学. 臨床検査学講座 第2版, pp1-142, 2014年1月10日発行, 医歯薬学出版株式会社
- 40) **山西紘一, 清野 宏, 平山謙二**：座談会 次世代感染症ワクチンに期待するもの。特集 次世代型感染症ワクチン. 最新医学, 第69巻・4月号, pp768-779, 2014年
- 41) **Mbanefo EC, Kikuchi M, Huy NT, Shuaibu MN, Cherif MS, Yu C, Wakao M, Suda Y, Hirayama K** : Characterization of a gene family encoding SEA (sea-urchin sperm protein, enterokinase and agrin)-domain proteins with lectin-like and heme-binding properties from *Schistosoma japonicum*. *PLoS Negl Trop Dis*. 8(1):e2644. 2014 doi: 10.1371/journal.pntd.0002644. eCollection 2014.
- 42) **Eikawa S, Mizukami S, Uono H** : Monitoring multifunctionality of immune-exhausted CD8 T cells in cancer patients. *Methods Mol Biol* 1142:11-7, 2014 doi: 10.1007/978-1-4939-0404-4_2.
- 43) **Cherif MS, Shuaibu MN, Kodama Y, Helegbe GK, Kikuchi M, Ichinose A, Yanagi T, Sasaki H, Yui K, Tien NH, Karbwang J, Hirayama K** : Nanoparticle formulation enhanced protective immunity provoked by PYGPI8p-transamidase related protein (PyTAM) DNA vaccine in *Plasmodium yoelii* malaria model. *Vaccine* 32 (17):1998-2006, 2014. doi: 10.1016/j.vaccine.2014.01.005.
- 44) **Khan MG, Bhaskar KR, Kikuchi M, Salam MA, Akther T, Haque R, Mondal D, Hamano S** : Comparison of PCR-based diagnoses for visceral leishmaniasis in Bangladesh. *Parasitol Int*. 63(2):327-31, 2014 doi: 10.1016/j.parint.2013.12.001.

- 45) **Huong VT, Ha N, Huy NT, Horby P, Nghia HD, Thiem VD, Zhu X, Hoa NT, Hien TT, Zamora J, Schultsz C, Wertheim HF, Hirayama K** : Epidemiology, clinical manifestations, and outcomes of *Streptococcus suis* infection in humans. *Emerg Infect Dis* 20(7):1105-14, 2014. doi: 10.3201/eid2007.131594.
- 46) **Saijuntha W, Jarilla B, Leonardo AK, Sunico LS, Leonardo LR, Andrews RH, Sithithaworn P, Petney TN, Kirinoki M, Kato-Hayashi N, Kikuchi M, Chigusa Y, Agatsuma T** : Genetic structure inferred from mitochondrial 12S ribosomal RNA sequence of *Oncomelania quadrasi*, the intermediate snail host of *Schistosoma japonicum* in the Philippines. *Am J Trop Med Hyg.* 90(6):1140-5, 2014 doi: 10.4269/ajtmh.13-0260.
- 47) **Fujii Y, Kaneko S, Nzou SM, Mwau M, Njenga SM, Tanigawa C, Kimotho J, Mwangi AW, Kiche I, Matsumoto S, Niki M, Osada-Oka M, Ichinose Y, Inoue M, Itoh M, Tachibana H, Ishii K, Tsuboi T, Yoshida LM, Mondal D, Haque R, Hamano S, Changoma M, Hoshi T, Kamo K, Karama M, Miura M, Hirayama K** : Serological surveillance development for tropical infectious diseases using simultaneous microsphere-based multiplex assays and finite mixture models. *PLoS Negl Trop Dis.* 8(7):e3040, 2014 doi: 10.1371/journal.pntd.0003040.
- 48) **Mangione JN, Huy NT, Lan NT, Mbanefo EC, Ha TT, Bao LQ, Nga CT, Tuong VV, Dat TV, Thuy TT, Tuan HM, Huong VT, Hirayama K** : The association of cytokines with severe dengue in children. *Trop Med Health.* 42(4):137-44, 2014. doi: 10.2149/tmh.2014-09.
- 49) **Long NP, Huy NT, Trang NT, Luan NT, Anh NH, Nghi TD, Hieu MV, Hirayama K, Karbwang J** : Scientific Productivity on Research in Ethical Issues over the Past Half Century: A JoinPoint Regression Analysis. *Trop Med Health.* 42(3):121-6, 2014 doi: 10.2149/tmh.2014-12. Epub 2014 Jul 17.
- 50) **Abdel-Hafeez EH, Watanabe K, Kamei K, Kikuchi M, Chen H, Daniel B, Yu C, Hirayama K** : Pilot Study on Interferon- γ -producing T Cell Subsets after the Protective Vaccination with Radiation-attenuated *Cercaria* of *Schistosoma japonicum* in the Miniature Pig Model. *Trop Med Health.* 42(4):155-62, 2014. doi: 10.2149/tmh.2014-11.
- 51) **Mbanefo EC, Huy NT, Wadagni AA, Eneanya CI, Nwaorgu O, Hirayama K.** : Host determinants of reinfection with schistosomes in humans: a systematic review and meta-analysis. *PLoS Negl Trop Dis* 8(9):e3164, 2014. doi: 10.1371/journal.pntd.0003164. eCollection 2014.
- 52) **平山謙二** : 糸状虫症 (フィラリア症). *Today's Therapy* 2014, 今日の治療指針2014版 (Volume 56) ー私はこう治療している. Pp265-266, 医学書院, 監修; 山口 徹, 北原光夫, 2014
- 53) **井村裕夫, 高久史魔, 大磯ユタカ, 門脇 孝, 金倉 譲, 工藤正俊, 倉林正彦, 住田孝之, 畠 清彦, 平山謙二, 間野博行, 三嶋理晃, 水澤英洋** : 高血圧をめぐる最新の話題. *最新医学*, 第69巻/11月増刊号 (通巻第887号), 2014年11月25日発刊
- 54) **平山謙二** : シャーガス病への備え, エボラ出血熱で進む国内発生対策, 疑い男性は陰性, 週刊日本医事新法, No.4723, 2014/11/1, 11月1週号
- 55) **森田公一, 平山謙二** : 熱帯感染症に関する豊富な知識と経験をもとに, 日本初のNTDs治療薬の創出に挑む. *明日の医療を考える*, *Astellas square*, Vol.10 (No.3), pp40-41. 2014年 アステ

ラス製薬株式会社

- 56) 木村彰方, 石川義英, 一戸辰夫, 大田正穂, 田中秀則, 徳永勝士, 成瀬妙子, 西村泰治, 平山謙二, 湯沢賢治, 下嶋典子: 平成26年度HLA検査技術者認定試験に関する報告. MHC 21(3):165-180, 2014 2014年12月発刊

病理学分野

- 57) Adachi K, Nakamura R, Osada Y, Senba M, Tamada K, Hamano S. : Involvement of IL-18 in the Expansion of Unique Hepatic T Cells with Unconventional Cytokine Profiles during *Schistosoma mansoni* Infection. PLoS One, 2014 May 13;9 (5): e96042. doi: 10.1371/journal.pone.0096042. eCollection 2014.
- 58) Tun MM, Aoki K, Senba M, Buerano CC, Shirai K, Suzuki R, Morita K, Hayasaka D : Protective role of TNF- α , IL-10 and IL-2 in mice infected with the Oshima strain of Tick-borne encephalitis virus. Sci Rep, 2014 Jun 18;4:5344. doi: 10.1038/srep05344.

生態疫学分野

- 59) Sachiyo Nagi, Evans A Chadeka, Toshihiko Sunahara, Faith Mutungi, Yombo K. Dan Justin, Satoshi Kaneko, Yoshio Ichinose, Sohkiichi Matsumoto, Sammy M. Njenga, Masahiro Hashizume, Masaaki Shimada, Shinjiro Hamano. : Risk factors and spatial distribution of *Schistosoma mansoni* infection among primary school children in Mbita District, Western Kenya. PLoS neglected tropical diseases 2014;8(7):e2991. doi: 10.1371/journal.pntd.0002991.
- 60) 西本 太, 金子 聡, 蔣 宏偉, 門司和彦: ラオスの保健人口サーベイランスシステムからみたラオスの人口転換. 民族衛生 2014;80(1):54-9.
- 61) 金子 聡, 上繁義史: 発展途上国の保健医療分野における個人認証システムの開発: 身体的, 行動的認証からシステム開発, 事例, 国際標準化まで. Edtion ed. 高精度化する個人認証技術. 東京: エヌ・ティー・エス, 2014:295-302.
- 62) 金子 聡: 開発途上国における動向. 月刊自動認識 2014.
- 63) 金子 聡: 疫学から見たエコヘルスー開発途上国における地域住民登録追跡システムと最新技術. 医学のあゆみ 2014; 249(6):557-63.
- 64) Yoshito Fujii, Satoshi Kaneko, Samson Muuo Nzou, Matilu Mwau, Sammy M Njenga, Chihiro Tanigawa, James Kimotho, Anne Wanjiru Mwangi, Ibrahim Kiche, Sohkiichi Matsumoto, Mamiko Niki, Mayuko Osada-Oka, Yoshio Ichinose, Manabu Inoue, Makoto Itoh, Hiroshi Tachibana, Kazunari Ishii, Takafumi Tsuboi, Lay Myint Yoshida, Dinesh Mondal, Rashidul Haque, Shinjiro Hamano, Mwatasa Changoma, Tomonori Hoshi, Ken-ichi Kamo, Mohamed Karama, Masashi Miura, Kenji Hirayama. : Serological surveillance development for tropical infectious diseases using simultaneous microsphere-based multiplex assays and finite mixture models. PLoS neglected tropical diseases 2014;8(7):e3040. doi: 10.1371/journal.pntd.0003040.

国際保健学分野

- 65) Masumoto S, Yamamoto T, Ohkado A, Yoshimatsu S, Querri A G, Kamiya Y : Prevalence and associated factors of depressive state among pulmonary tuberculosis patients in Manila, the Philippines. *Int J Tuberc Lung Dis* 18(2):174-9, 2014
- 66) Vu H H, Okumura J, Hashizume M, Tran DN, Yamamoto T : Regional differences in the growing incidence of dengue fever in Vietnam explained by weather variability. *Trop Med Health* 42(1):25-33, 2014
- 67) Umeda K, Hatakeyama R, Abe T, Takakura K, Wada T, Ogasawara J, Sanada S and Hase A : Distribution of *Capnocytophaga canimorsus* in dogs and cats with genetic characterization of isolates. *Veterinary Microbiology* 171(1-2):153-9, 2014
- 68) Kanie N, Abe N, Iguchi M Iemail, Jue Yang, Ngeta Kabiri, Kitamura Y, Mangagi S, Miyazawa I, Simon Olsen, Tasaki T, Yamamoto T, Yoshida T Hayakawa Y : Integration and diffusion in Sustainable Development Goals: learning from the past, looking into the future. *Journal:Sustainability* 6(4), 1761-1775, 2014
- 69) 市川智生, 東城文柄 : 日本の湖岸地域における環境変化と住民の健康問題—琵琶湖彦根マラリア (1920-1950) — 川端善一郎ほか編, 湖の現状と未来可能性 41-53. 松香堂書店, 2014
- 70) Zhang J, Zhang Z, Yamamoto T and Cai G : Social Support and depression among people living with HIV in Yunnan Province, China. *Journal: Information, An international Interdisciplinary Journal*. 17(4)1619-1626, 2014
- 71) Mizumoto K, Ejima K, Yamamoto T, Nishiura H : On the risk of severe dengue during secondary infection : A systematic review coupled with mathematical modeling. *Vector Borne Dis* 51(3):153-64, 2014
- 72) Hatagishi E, Okamoto M, Ohmiya S, Yano H, Hori T, Saito W, Miki H, Suzuki Y, Saito R, Yamamoto T, Shoji M, Morisaki Y, Sakata S, Nishimura H : Establishment and clinical applications of a portable system for capturing influenza viruses released through coughing. *PLos One* 9(8):e103560, 2014
- 73) Yamamoto T : Post-2015 Contemporary Issues: -The example of obesity-. *Japan Med Assoc J* 57(1):28-31, 2014
- 74) Haridy M, Tachikawa Y, Yoshida S, Tsuyuguchi K, Tomita M, Maeda S, Wada T, Ibi K, Sakai H, Yanai T : *Mycobacterium marinum* infection in Japanese forest green tree frogs (*Rhacophorus arboreus*). *J Comp Pathol* 151(2-3):277-89, 2014
- 75) 山本太郎 : ポスト2015—現代的課題 肥満を例に. 日本医師会特別号 49-53, 2014
- 76) 山本太郎, 和田崇之, 市川智生 : 進化とエコヘルス 医学の歩み 250(3), 2014
- 77) De Beer JL, Ködmön C, Van Ingen J, Supply P, Van Soolingen D, Jamieson FB, Bidovec-Stojkovic U, Brown T, Cirillo, DM, Cruz L, Miranda A, Dou HY, Fauville-Dufaux M, Fitzgibbon MM, García De Viedma D, Groenheit R, Haanperä-Heikkinen M, Indra A, Kam KM, Kramer R, Jiang GL, Niemann S, Obrovac M, Rasmussen EM, Refrégier G, Realpe T, Samper S, Sharma MK, Sougakoff W, Stakenas P, Stavrum R, Trenkler J, Wada T, Siame KK, Tafaj S, Cowan L, Sng LH, Seagar AL, Basu I, Rastogi N, Ferro BE, De Matos, F, Kipnis A, Van Soolingen

D, Supply P : Second worldwide proficiency study on variable number of tandem repeats typing of *Mycobacterium tuberculosis* complex. Int J Tuberc Lung Dis. 18(5):594-600, 2014

- 78) **Wada T, Iwamoto T, Tamaru A, Seto J, Ahiko T, Yamamoto K, Hase A, Maeda S, Yamamoto T** : Clonality and micro-diversity of a nationwide spreading genotype of *Mycobacterium tuberculosis* in Japan. PLoS ONE. 10(3): e0118495, 2015

病害動物学分野

- 79) **Iwashita H, Dida GO, Sonye GO, Sunahara T, Futami K, Njenga SM, Chaves LF, Minakawa N** : Push by a net, pull by a cow: can zooprophyllaxis enhance the impact of insecticide treated bed nets on malaria control? Parasites & Vectors, 7,52, 2014
- 80) **Futami K, Dida GO, Sonye GO, Lutiali PA, Mwanja MS, Wagalla S, Lumumba J, Kongere JO, Njenga SM, Minakawa N** : Impacts of insecticide treated bed nets on *Anopheles gambiae* s.l. populations in Mbita District and Suba District, western Kenya. Parasites & Vectors, 7, 63, 2014
- 81) **Smith DL, Perkins TA, Reiner RC Jr, Barker CM, Niu T, Chaves LF, Ellis AM, George DB, Le Menach A, Pulliam JR, Bisanzio D, Buckee C, Chiyaka C, Cummings DA, Garcia AJ, Gatton ML, Gething PW, Hartley DM, Johnston G, Klein EY, Michael E, Lloyd AL, Pigott DM, Reisen WK, Ruktanonchai N, Singh BK, Stoller J, Tatem AJ, Kitron U, Godfray HC, Cohen JM, Hay SI, & Scott TW** : Recasting the theory of mosquito-borne pathogen transmission dynamics and control. Transactions of the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene 108, 185-197, 2014
- 82) **Hurtado LA, Cáceres L, Chaves LF. & Calzada JE** : When climate change couples social neglect : malaria dynamics in Panama. Emerging Microbes and Infections, 3, (4) e27, 2014
- 83) **Onozuka D & Chaves LF** : Climate Variability and Nonstationary Dynamics of *Mycoplasma pneumoniae* Pneumonia in Japan. Plos one, 9, (4), e95447, 2014
- 84) **Tsunoda T** : Detachment of hard ticks (Acari: Ixodidae) from hunted sika deer (*Cervus nippon*). Experimental and Applied Acarology, 22 March 2014
- 85) **Tsunoda T, Cuong TC, Dong TD, Yen NT, Le NH, Phong TV. & Minakawa N** : Winter refuge for *Aedes aegypti* and *Ae. Albopictus* mosquitoes in Hanoi during winter. Plos One, 9, 4, 2014
- 86) **Fung HL, Calzada J, Saldaña A, Santamaria AM, Pineda V, Gonzalez K, Chaves L.F, Garner B, Gottdenker N** : Domestic dog health worsens with socio-economic deprivation of their home communities. Acta Tropica, 135, 67-74, 2014
- 87) **Kawada H, Ohashi K, Dida G.O, Sonye G, Njenga S.M, Mwandawiro C & Minakawa N** : Insecticidal and repellent activities of pyrethroids to the three major pyrethroid-resistant malaria vectors in western Kenya, Parasites & Vectors, 7, 208, 2014
- 88) **Ohashi K, Tsuda Y, Kasai S, Kawada H & Takagi M** : Hybridization between sympatric populations of *Culex pipiens pallens* and *Culex pipiens f. molestus* (Diptera: Culicidae) in Nagasaki, Japan. Medical Entomology and Zoology. 65(2) 67-72, 2014
- 89) **川田 均** : 殺虫剤抵抗性疾病媒介蚊に対する新しい防除法の試み. 衛生動物, 65巻 2号, 45-59, 2014

- 90) **Kawada H, Oo SZ, Thaung S, Kawashima E, Maung YN, Thu HM, Thant KZ, Minakawa N** : Co-occurrence of Point Mutations in the Voltage-Gated Sodium Channel of Pyrethroid-Resistant *Aedes aegypti* Populations in Myanmar. PLOS Neglected Tropical Diseases, 8(7), e3032, 2014
- 91) **Rueda LM, Pagac B, Iwakami M, Spring AR, Motoki MT, Pecor JE, Higa Y, Futami K, Imanishi N, Long LS, Debboun M** : Mosquito biosurveillance on kyushu island, Japan, with emphasis on *anopheles hyrcanus* group and related species (Diptera: culicidae). The United States Army Medical Department Journal,
- 92) **Kawada H, Ohashi K, Dida GO, Sonye G, Njenga SM, Mwandawiro C, Minakawa N** : Preventive effect of permethrin-impregnated long-lasting insecticidal nets on the blood feeding of three major pyrethroid-resistant malaria vectors in western Kenya. Parasites & Vectors, 7, 383, 2014
- 93) **鶴川千秋, 川田 均** : 人工吸血装置による蚊の吸血実験. 衛生動物 65 (3) 1-5, 2014
- 94) **Kawada H, Dida GO, Ohashi K, Kawashima E, Sonye G, Njenga SM, Mwandawiro C, Minakawa N** : A small-scale field trial of pyriproxyfen-impregnated bed nets against pyrethroid-resistant *Anopheles gambiae* s.s. in western Kenya. Plos One, 9 (10) e111195, 2014.
- 95) **Chaves LF, Calzada JE, Valderrama A, Saldaña A** : Cutaneous Leishmaniasis and Sand Fly Fluctuations Are Associated with El Niño in Panama. Plos Neglected Tropical Diseases, 8(10), e3210, 2014
- 96) **Hoshi T, Imanishi N, Higa Y & Chaves LF** : Mosquito biodiversity patterns around urban environments in south-central Okinawa Island, Japan. Journal of the American Mosquito Control Association, 30 (4), 260-267, 2014
- 97) **Larson PS, Minakawa N, Dida GO, Njenga SM, Ionides EL. & Wilson ML** : Insecticide-treated net use before and after mass distribution in a fishing community along Lake Victoria, Kenya: successes and unavoidable pitfalls. Malaria Journal, 13, 466, 2014

臨床感染症学分野

- 98) **Migita K, Abiru S, Sasaki O, Miyashita T, Izumi Y, Nishino A, Jiuchi Y, Kawakami A, Yasunami M** : Coexistence of familial Mediterranean fever and rheumatoid arthritis. Mod Rheumatol. 24:212-216 (2014)
- 99) **Dhoubhadel BG, Yasunami M, Yoshida LM, Nguyen Thi HA, Vu Thi TH, Nguyen Thi TA, Watanabe K, Suzuki M, Morimoto K, Dang DA, Ariyoshi K.** : A novel high-throughput method for molecular serotyping and serotype-specific quantification of *Streptococcus pneumoniae* using a nanofluidic real time PCR system. J Med Microbiol. 2014 Jan 25
- 100) **Suzuki M, Dhoubhadel BG, Yoshida LM, Ariyoshi K** : Nasopharyngeal bacterial interactions in children. Emerg Infect Dis. 2014 Feb ; 20(2):323-4.
- 101) **Takeshi Tanaka, Jenna M Doe, Sarah A Horstmann, Shama Ahmad, Aftab Ahmad, Sung-Joon Min, Paul R Reynolds, Saritha Suram, Jeanette Gaydos, Ellen L Burnham and R William Vandivier** : Neuroendocrine Signaling Via the Serotonin Transporter Regulates Clearance of Apoptotic Cells. J Biol Chem, published online, Feb 25 2014
- 102) **N Tsuchiya, P Pathipvanich, N Wichukchinda, A Rojanawiwat, W Auwanit, K**

- Ariyoshi, P Sawanpanyalert** : Incidence and predictors of regimen-modification from first-line antiretroviral therapy in Thailand: A cohort study. *BMC Infect Dis.* 2014 Oct 30;14(1):565
- 103) **Dhoubhadel BG, Yasunami M, Nguyen HA, Suzuki M, Vu TH, Thi Thuy Nguyen A, Dang DA, Yoshida LM, Ariyoshi K** : Bacterial load of pneumococcal serotypes correlates with their prevalence and multiple serotypes is associated with acute respiratory infections among children less than 5 years of age. *PLoS One.* 2014 Oct 31;9(10):e110777
- 104) **Flasche S, Takahashi K, Vu DT, Suzuki M, Nguyen TH, Le H, Hashizume M, Dang DA, Edmond K, Ariyoshi K, Mulholland EK, Edmunds WJ, Yoshida LM** : Early indication for a reduced burden of radiologically confirmed pneumonia in children following the introduction of routine vaccination against *Haemophilus Influenzae* type b in Nha Trang, Vietnam. *Vaccine.* 2014 Dec 5;32(51):6963-70.
- 105) **Toizumi M, Motomura H, Vo HM, Takahashi K, Pham E, Nguyen HA, Le TH, Hashizume M, Ariyoshi K, Dang DA, Moriuchi H, Yoshida LM** : Mortality Associated With Pulmonary Hypertension in Congenital Rubella Syndrome. *Pediatrics.* 2014 Aug ;134(2) : e519-26.
- 106) **Yoshida LM, Suzuki M, Thiem VD, Smith WP, Tsuzuki A, Huong VT, Takahashi K, Miyakawa M, Anh NT, Watanabe K, Ai NT, Tho le H, Kilgore P, Yoshino H, Toizumi M, Yasunami M, Moriuchi H, Anh DD, Ariyoshi K** : Population based cohort study for pediatric infectious diseases research in Vietnam. *Trop Med Health.* 2014 Jun;42(2 Suppl):47-58.
- 107) **M Suzuki, A Camacho, K Ariyoshi** : Potential effect of virus interference on influenza vaccine effectiveness estimates in test-negative designs. *Epidemiology and Infection* 2014 Dec;142(12):2642-6.
- 108) **Takaki M, Nakama T, Ishida M, Morimoto H, Nagasaki Y, Shiramizu R, Hamashige N, Chikamori M, Yoshida L, Ariyoshi K, Suzuki M, Morimoto K** : High incidence of community-acquired pneumonia among rapidly aging population in Japan: a prospective hospital-based surveillance. *Jpn J Infect Dis.* 2014; 67(4): 269-75.
- 109) **Kuroki T, Ishida M, Suzuki M, Furukawa I, Ohya H, Watanabe Y, Konnai M, Aihara Y, Chang B, Ariyoshi K, Oishi K, Ohnishi M, Morimoto K** : Outbreak of streptococcus pneumoniae serotype 3 pneumonia in extremely elderly people in a nursing home unit in kanagawa, Japan, 2013. *J Am Geriatr Soc.* 2014 Jun; 62(6): 1197-8.
- 110) **Suzuki M, Minh le N, Yoshimine H, Inoue K, Yoshida LM, Morimoto K, Ariyoshi K** : Vaccine Effectiveness against Medically Attended Laboratory-Confirmed Influenza in Japan, 2011-2012 Season. *PLoS One.* 2014 Feb 13; 9(2):e88813.
- 111) **Bhim Gopal Dhoubhadel, Michio Yasunami, Lay-Myint Yoshida, Hien Anh Nguyen Thi, Thu Huong Vu Thi, Thuy Ai Nguyen Thi, Kiwao Watanabe, Motoi Suzuki, Konosuke Morimoto, Duc Anh Dang, Koya Ariyoshi** : A novel high-throughput method for molecular serotyping and serotype-specific quantification of *Streptococcus pneumoniae* using a nanofluidic real time PCR system. *J Med Microbiol.* 2014 Apr;63(Pt 4):528-39.
- 112) **Minh Nhat Le, Lay Myint Yoshida, Motoi Suzuki, Hien Anh Nguyen, Huu Tho Le, Hiroyuki Moriuchi, Duc Anh Dang, Koya Ariyoshi** : Impact of 2009 pandemic influenza

- among Vietnamese children based on a population-based prospective surveillance from 2007 to 2011. *Influenza Other Respir Viruses*. 2014 Jul;8(4):389-96.
- 113) **Mori M, Wichukchinda N, Miyahara R, Rojanawiwat A, Pathipvanich T, Maekawa T, Miura P, Goulder M, Yasunami K, Ariyoshi P, Sawanpanyalert :** HLA-B*35:05 is a protective allele with a unique structure amongst HIV-1 CRF01_AE-infected Thais, where the B*57 frequency is low. *AIDS*. 2014 Apr 24; 28(7): 959-67.
- 114) **Suzuki M, Dhoubhadel BG, Yoshida LM, Ariyoshi K :** Nasopharyngeal bacterial interactions in children. *Emerg Infect Dis*. 2014 Feb;20(2):323-4.
- 115) **Miyakawa M, Yoshino H, Yoshida LM, Vynnycky E, Motomura H, Tho LH, Thiem VD, Ariyoshi K, Anh DD, Moriuchi H :** Seroprevalence of rubella in the cord blood of pregnant women and congenital rubella incidence in Nha Trang, Vietnam. *Vaccine*. 2014 Feb 26;32(10):1192-8.
- 116) **Tazawa R, Inoue Y, Arai T, Takada T, Kasahara Y, Hojo M, Ohkouchi S, Tsuchihashi Y, Yokoba M, Eda R, Nakayama H, Ishii H, Nei T, Morimoto K, Nasuhara Y, Ebina M, Akira M, Ichiwata T, Tatsumi K, Yamaguchi E, Nakata K. :** Duration of benefit in patients with autoimmune pulmonary alveolar proteinosis after inhaled ranolocyte-macrophage colony-stimulating factor therapy. *Chest*. 2014;145(4):729-37.
- 117) **Qin L, Kida Y, Ishiwada N, Ohkusu K, Kaji C, Sakai Y, Watanabe K, Furumoto A, Ichinose A, Watanabe H :** The relationship between biofilm formations and capsule in *Haemophilus influenzae*. *J Infect Chemother*. 2014 Mar;20(3):151-6
- 118) **Miura T, Hamawaki M, Hazama S, Hashizume K, Ariyoshi T, Sumi M, Furumoto A, Saito N, Tsuneto A, Eishi K :** Outcome of surgical management for active mitral native valve infective endocarditis: a collective review of 57 patients. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 2014 Aug;62(8):488-98
- 119) **Takeshi Tanaka, Jenna M Doe, Sarah A. Horstmann, Shama Ahmad, Aftab Ahmad, Sung-Joon Min, Paul R Reynolds, Saritha Suram, Jeanette Gaydos, Ellen L Burnham and R William Vandivier :** Neuroendocrine Signaling Via the Serotonin Transporter Regulates Clearance of Apoptotic Cells. *J Biol Chem*, 2014 Apr 11;289(15):10466-75.
- 120) **Migita K, Agematsu K, Yazaki M, Nonaka F, Nakamura A, Toma T, Kishida D, Uehara R, Nakamura Y, Jiuchi Y, Masumoto J, Furukawa H, Ida H, Terai C, Nakashima Y, Kawakami A, Nakamura T, Eguchi K, Yasunami M, Yachie A :** Familial Mediterranean fever: genotype-phenotype correlations in Japanese patients. *Medicine* 2014; 93:158-164.
- 121) **Migita K, Izumi Y, Jiuchi Y, Kozuru H, Kawahara C, Nakamura M, Nakamura T, Agematsu K, Masumoto J, Yasunami M, Kawakami A, Eguchi K. :** Serum amyloid A induces NLRP-3-mediated IL-1 β secretion in neutrophils. *PLoS One* 2014 May 20;9(5):e96703.
- 122) **Fujikawa K, Migita K, Shigemitsu Y, Umeda M, Nonaka F, Tamai M, Nakamura H, Mizokami A, Tsukada T, Origuchi T, Yonemitsu N, Yasunami M, Kawakami A, Eguchi K. :** MEFV gene polymorphisms and TNFRSF1A mutation in patients with inflammatory myopathy with abundant macrophages. *Clin Exp Immunol*. 2014 Nov; 178:224-228.

- 123) **Migita K, Izumi Y, Fujikawa K, Agematsu K, Masumoto J, Jiuchi Y, Kozuru H, Nonaka F, Shimizu T, Nakamura T, Iwanaga N, Furukawa H, Yasunami M, Kawakami A, Eguchi K.** : Dysregulated mature IL-1 β production in familial Mediterranean fever. *Rheumatology (Oxford)*, 2014 Sep 19 pii: keu359. [Epub ahead of print]

小児感染症学分野

- 124) **Miyakawa M, Yoshino H, Yoshida LM, Vynnycky E, Motomura H, Tho le H, Thiem VD, Ariyoshi K, Anh DD, Moriuchi H** : Seroprevalence of rubella in the cord blood of pregnant women and congenital rubella incidence in Nha Trang, Vietnam. *Vaccine*. 2014;26;32(10):1192-8. doi:10.1016/j.vaccine.2013.08.076.
- 125) **Dhoubhadel BG, Yasunami M, Yoshida LM, Thi HA, Thi TH, Thi TA, Watanabe K, Suzuki M, Morimoto K, Dang DA, Ariyoshi K** : A novel high-throughput method for molecular serotyping and serotype-specific quantification of *Streptococcus pneumoniae* using a nanofluidic real-time PCR system. *J Med Microbiol*. 2014 Apr;63(Pt 4):528-39.
- 126) **Suzuki M, Dhoubhadel BG, Yoshida LM, Ariyoshi K** : Nasopharyngeal bacterial interactions in children. *Emerg Infect Dis*. 2014 Feb;20(2):323-4. doi:10.3201/eid2002.121724
- 127) **Suzuki M, Le MN, Yoshimine H, Inoue K, Yoshida LM, Morimoto K, Ariyoshi K** : Vaccine effectiveness against medically attended laboratory-confirmed influenza in Japan, 2011-2012 season. *PLoS One*. 2014 Feb 13;9(2): e88813. doi:10.1371/journal.pone.0088813
- 128) **Le MN, Yoshida LM, Suzuki M, Nguyen HA, Le HT, Moriuchi H, Dang DA, Ariyoshi K** : Impact of 2009 pandemic influenza among Vietnamese children based on a population-based prospective surveillance from 2007 to 2011. *Influenza Other Respir Viruses*. 2014 Jul;8(4):389-96.
- 129) **Takahashi N, Hashizume M** : A systematic review of the influence of occupational organophosphate pesticides exposure on neurologic impairment. *BMJ Open* 2014;4:e004798 doi:10.1136/bmjopen-2014-004798
- 130) **Toizumi M, Motomura H, Vo HM, Takahashi K, Pham E, Nguyen HAT, Le TH, Hashizume M, Ariyoshi K, Dang DA, Moriuchi H, and Yoshida LM** : Mortality associated with pulmonary hypertension in congenital rubella syndrome. *Pediatrics* 2014;134(2)
- 131) **Imai C, Brooks WA, Chung Y, Goswami D, Anjali BA, Dewan A, Kim H, Hashizume M** : Tropical influenza and weather variability among children in an urban low-income population in Bangladesh. *Glob Health Action* 2014;7:24413
- 132) **Vu HH, Okumura J, Hashizume M, Tran DN, Yamamoto T** : Regional differences in the growing incidence of dengue fever in Vietnam explained by weather variability. *Trop Med Health* 2014;42:25-33
- 133) **Lee H, Honda Y, Lim YH, Guo YL, Hashizume M, Kim H** : Effect of Asian dust storms on mortality in three Asian cities. : *Atmospheric Environment* 2014;89:309-317.
- 134) **Takaki M, Nakama T, Ishida M, Morimoto H, Nagasaki Y, Shiramizu R, Hamashige N, Chikamori M, Yoshida LM, Ariyoshi K, Suzuki M, Morimoto K** : High Incidence of Community-Acquired Pneumonia among Rapidly Aging Population in Japan: A Prospective Hospital-

Based Surveillance. Jpn J Infect Dis. 2014; 67(4):269-75.

- 135) **Fujii Y, Kaneko S, Nzou SM, Mwau M, Njenga SM, Tanigawa C, Kimotho J, Mwangi AW, Kiche I, Matsumoto S, Niki M, Osada-Oka M, Ichinose Y, Inoue M, Itoh M, Tachibana H, Ishii K, Tsuboi T, Yoshida LM, Mondal D, Haque R, Hamano S, Changoma M, Hoshi T, Kamo K, Karama M, Miura M, Hirayama K** : Serological surveillance development for tropical infectious diseases using simultaneous microsphere-based multiplex assays and finite mixture models. PLoS Negl Trop Dis. 2014;8(7):e3040. doi:10.1371/journal.pntd.0003040.
- 136) **Nagi S, Chadeka EA, Sunahara T, Mutungi F, Justin YK, Kaneko S, Ichinose Y, Matsumoto S, Njenga SM, Hashizume M, Shimada M, Hamano S** : Risk factors and spatial distribution of *Schistosoma mansoni* infection among primary school children in Mbita District, Western Kenya. PLoS Negl Trop Dis. 2014 Jul 24;8(7):e2991. doi: 10.1371/journal.pntd.0002991.
- 137) **Guo Y, Gasparrini A, Armstrong B, Li S, Tawatsupa B, Tobias A, Lavigne E, de Sousa Zanotti Stagliorio Coelho M, Leone M, Pan X, Tong S, Tian L, Kim H, Hashizume M, Honda Y, Guo YL, Wu CF, Punnasiri K, Yi SM, Michelozzi P, Saldiva PH, Williams G** : Global Variation in the Effects of Ambient Temperature on Mortality: A Systematic Evaluation. Epidemiology. 2014 Nov;25(6):781-789.
- 138) **Flasche S, Takahashi K, Vu DT, Suzuki M, Nguyen THA, Le HT, Hashizume M, Dang DA, Edmond K, Ariyoshi K, Mulholland E. K, Edmunds W. J, Yoshida LM** : Early indication for a reduced burden of radiologically confirmed pneumonia in children following the introduction of routine vaccination against *Haemophilus influenzae* type b in Nha Trang, Vietnam. Vaccine 2014 Nov 1;32(51):6963-6970. doi: 10.1016/j.
- 139) **橋爪真弘** : 地球温暖化と熱帯感染症 小児感染免疫26巻1号54-58頁 2014年
- 140) **橋爪真弘, 西脇祐司, 道川武紘, 上田佳代, 横田賢一, 三根真理子, 森 淳子, 清水 厚, 杉本伸夫** : 黄砂曝露と死亡者数との疫学的関連. エアロゾル研究 2014;29(S1) 225-229
- 141) **樋泉道子, 本村秀樹, 吉田レイミント, 橋爪真弘, 森内浩幸** : 先天性風疹症候群—日本と世界での撲滅に向けて— 小児科 2014年02月号 金原出版 231-239頁 2014年
- 142) **橋爪真弘** : 東アフリカの高地マラリアとインド洋ダイポールモード現象 化学療法の領域 30巻3号113-120頁 2014年
- 143) **橋爪真弘** : デング熱, デング出血熱. 山口 徹・北原光夫 (監修) : 今日の治療指針2014年版 医学書院 208-209頁 2014年

臨床開発学分野

- 144) **Cherif MS, Shuaibu MN, Kodama Y, Helegbe GK, Kikuchi M, Ichinose A, Yanagi T, Sasaki H, Yui K, Tien NH, Karbwang J, Hirayama K** : Nanoparticle formulation enhanced protective immunity provoked by PYGPI8p-transamidase related protein (PyTAM) DNA vaccine in *Plasmodium yoelii* malaria model. Vaccine 32(17):1998-2006, 2014
- 145) **Mbanefo EC, Kikuchi M, Huy NT, Shuaibu MN, Cherif MS, Yu C, Wakao M, Suda Y, Hirayama K** : Characterization of a Gene Family Encoding SEA (Sea-urchin Sperm Protein, Enterokinase and Agrin)-Domain Proteins with Lectin-Like an Heme-Binding Properties from

Schistosoma japonicum. PLoS Negl Trop Dis 8(1):e2644, 2014

- 146) **Nut Koonrungsesomboon, Kesara Na-Bangchang, Juntra Karbwang** : Therapeutic potential and pharmacological activities of *Atractylodes lancea* (Thunb.) DC. Asian Pacific Journal of Tropical Medicine 7(6):421-428, 2014
- 147) **Kesara Na-Bangchang, Etienne Anagalou Guirou, Anurak Cheomung and Juntra Karbwang** : Determination of Primaquine in Whole Blood and Finger-Pricked Capillary Blood Dried on Filter Paper Using HPLC and LCMS/MS. Chromatographia 77:561-569, 2014
- 148) **Wiriyaoporn Sumsakul, Tullayakorn Plengsuriyakarn, Wanna Chaijaroenkul, Vithoon Viyanant, Juntra Karbwang and Kesara Na-Bangchang** : Antimalarial activity of plumbagin in vitro and in animal models, 14:15, 2014
- 149) **Huong VTL, Ha N, Huy NT#, Horby P, Nghia HDT, Thiem VD, Zhu X, Hoa NT, Hien TT, Zamora J, Schultsz C, Wertheim H, and Hirayama K.** : Epidemiology, clinical manifestations, and outcomes of *Streptococcus suis* infection in humans. Emerging infectious diseases. 20(7):1105-14, 2014
- 150) **Long NP, Huy NT, Trang NTH, Luan NT, Anh NH, Nghi TD, Hieu MV, Hirayama K, Karbwang J** : Scientific productivity on research in ethical issues over the past half century: A JoinPoint regression analysis. Tropical Medicine and Health. 42(3):121-6, 2014
- 151) **Mangione JNA, Huy NT, Lan NTP, Mbanefo EC, Ha TTN, Bao LQ, Nga CTP, Tuong VV, Dat TV, Thuy TT, Tuan HM, Huong VTQ, Hirayama K** : The Association of Cytokines with Severe Dengue in Children. Tropical Medicine and Health. Trop Med Health. 42(4):137-44, 2014
- 152) **Cherif MS, Shuaibu MN, Kodama Y, Helegbe GK, Kikuchi M, Ichinose A, Yanagi T, Sasaki H, Yui K, Tien NH, Karbwang J, Hirayama K** : Nanoparticle formulation enhanced protective immunity provoked by PYGPI8p-transamidase related protein (PyTAM) DNA vaccine in *Plasmodium yoelii* malaria model. Vaccine.32(17):1998-2006, 2014
- 153) **Mbanefo EC, Kikuchi M, Huy NT, Shuaibu MN, Cherif MS, Yu C, Wakao M, Suda Y, Hirayama K** : Characterization of a Gene Family Encoding SEA (Sea-urchin Sperm Protein, Enterokinase and Agrin)-Domain Proteins with Lectin-Like an Heme-Binding Properties from *Schistosoma japonicum*. PLoS Negl Trop Dis.8(1):e2644, 2014

ケニア拠点

- 154) **Iwashita H, Dida GO, Sonye GO, Sunahara T, Futami K, Njenga SM, Chaves LF, Minakawa N** : Push by a net, pull by a cow: can zooprophylaxis enhance the impact of insecticide treated bed nets on malaria control? Parasit Vectors 7:52, 2014
- 155) **Futami K, Dida GO, Sonye GO, Lutiali PA, Mwanja MS, Wagalla S, Lumumba J, Kongere JO, Njenga SM, Minakawa N** : Impacts of insecticide treated bed nets on *Anopheles gambiae* s.l. populations in Mbita District and Suba District, western Kenya. Parasit Vectors 7:63, 2014
- 156) **Kawada H, Ohashi K, Dida GO, Sonye G, Njenga SM, Mwandawiro C & Minakawa N** : Insecticidal and repellent activities of pyrethroids to the three major pyrethroid-resistant malaria vectors in western Kenya. Parasit Vectors 7:208, 2014

- 157) **Bundi M, Miring' u G, Inoue S, Muriithi B, Ashur S, Wandera E, Kathiiko C, Odoyo E, Narita C, Kwalla A, Galata A, Makumi A, Huka S, Shah M, Karama M, Shimada M, Bii C, Kariuki S, Horio M, Ichinose Y** : BSL-3 laboratory user training program at NUITM-KEMRI. *Trop Med Health* 2014 Dec 3;42(4):171-6. Epub 2014 Oct 3
- 158) **Sachiyo Nagi, Evans A. Chadeka, Toshihiko Sunahara, Faith Mutungi, Yombo K. Dan Justin, Satoshi Kaneko, Yoshio Ichinose, Sohkiichi Matsumoto, Sammy M. Njenga, Masahiro Hashizume, Masaaki Shimada, Shinjiro Hamano** : Risk Factors and Spatial Distribution of *Schistosoma mansoni* Infection among Primary School Children in Mbita District, Western Kenya. *PLoS Negl Trop Dis* July 2014
- 159) **Fujii Y, Kaneko S, Nzou SM, Mwau M, Njenga SM, Tanigawa C, Kimotho J, Mwangi AW, Kiche I, Matsumoto S, Niki M, Osada-Oka M, Ichinose Y, Inoue M, Itoh M, Tachibana H, Ishii K, Tsuboi T, Yoshida LM, Mondal D, Haque R, Hamano S, Changoma M, Hoshi T, Kamo K, Karama M, Miura M, Hirayama K** : Serological Surveillance Development for Tropical Infectious Diseases Using Simultaneous Microsphere-Based Multiplex Assays and Finite Mixture Models. *PLoS Negl Trop Dis* 2014; 8(7):e3040. doi: 10.1371/journal.pntd.0003040.
- 160) **Satoshi Komoto, Ernest Wandera Apondi, Mohammad Shah, Erick Odoyo, James Nyangao, Mayuko Tomita, Mitsutaka Wakuda, Yoshimasa Maeno, Haruko Shirato, Takao Tsuji, Yoshio Ichinose, and Koki Taniguchi** : Whole genomic analysis of human G12P[6] and G12P[8] rotavirus strains emerged in Kenya : identification of porcine-like NSP4 genes. *Infect Genet Evol* 2014 Oct;27:277-93
- 161) **Mohamed MS, Idriss MT, Khedr AIM, AlGadir HA, Takeshita S, Shah M M, Ichinose Y, and Maki T** : Activity of *Aristolochia bracteolata* against *Moraxella catarrhalis*. *International Journal of Bacteriology*, vol. 2014, Article ID 481686, 6 pages, 2014. doi:10.1155/2014/481686
- 162) **Yoshio Ichinose** : Kenya Research Station and its research activity. *Journal of Disaster Research* Vol. 9, No.5 p807-812, 2014
- 163) **Ichinose Y, Inoue S, Shimada M, Miring' u G, Muriithi B, Makumi A, Wandera E, Bundi M, Narita C, Ashur S, Kwalla A, Galata A, Abubakar M, Huqa S, Shah M, Karama M and Horio M** : Operations at Biosafety Level III: The P3 Laboratory Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Nairobi. iConcept Press, March 2014
- 164) **Kawada H, Ohashi K, Dida GO, Sonye G, Njenga SM, Mwandawiro C, Minakawa N** : Preventive effect of permethrin-impregnated long-lasting insecticidal nets on the blood feeding of three major pyrethroid-resistant malaria vectors in western Kenya. *Parasites & Vectors*,3.251/2013,Vol. 7,No.383,doi: 10.1186/1756-3305-7-383 ,2014
- 165) **Kawada H, Dida GO, Ohashi K, Kawashima E, Sonye G, Njengal SM, Mwandawiro C, Minakawa N** : A small-scale field trial of pyriproxyfen-impregnated bed nets against pyrethroid-resistant *Anopheles gambiae* s.s. in western Kenya, *Plos One*,3.534/2013, Vol.9,No.10,e111195,2014
- 166) **Peter S Larson, Noboru Minakawa, Gabriel O Dida, Sammy M Njenga, Edward L Ionides, Mark L Wilson** : Insecticide-treated net use before and after mass distribution in a

fishing community along Lake Victoria, Kenya: successes and unavoidable pitfalls, *Malaria Journal*, 3.4
89/2013, Vol.13No.466, 2014

ベトナム拠点

- 167) **Yamashiro T** : The outline of the “Collaborative Study on Emerging and Re-Emerging Infectious Diseases in Vietnam, Enhancement of Research Capacity” *Journal of Disaster Research* Vol.9 No. 5: 801-806, Oct. 2014
- 168) **Yohei Watanabe, Tetsuo Ito, Madiha S. Ibrahim, Yasuha Arai, Kozue Hotta, Hoang Vu Mai Phuong, Nguyen Le Khanh Hang, Le Quynh Mai, Kosuke Soda, Masaoki Yamaoka, Emmanuel Djoko Poetranto, Laksmi Wulandari, Hiroaki Hiramatsu, Tomo Daidoji, Ritsuko Kubota-Koketsu, Nongluk Sriwilaijaroen, Takaaki Nakaya, Yoshinobu Okuno, Tadanobu Takahashi, Takashi Suzuki, Toshihiro Ito, Hak Hotta, Tetsu Yamashiro, Tsukasa Hayashi, Kouichi Morita, Kazuyoshi Ikuta, Yasuo Suzuki** : A novel immunochromatographic system for easy-to-use detection of group 1 avian influenza viruses with acquired human-type receptor binding specificity. *Biosensors and Bioelectronics*. 65: 211-219, 2015
- 169) **山城 哲** : 長崎大学ーベトナム拠点 Nagasaki University - Vietnam research Station. 化学療法の領域. Vol30, No.6: 51-59(1207-1215), June. 2014

共同研究室

- 170) **Vu HH, Okumura J, Hashizume M, Tran DN, Yamamoto T** : Regional differences in the growing incidence of dengue Fever in Vietnam explained by weather variability. *Trop Med Health* 42(1):25-33. 2014 doi: 10.2149/tmh.2013-24. Epub 2013 Dec 18. PMID: 24808744 [PubMed]
- 171) **Mutungi JK, Yahata K, Sakaguchi M, Kaneko O** : Expression and localisation of rhoptry neck protein 5 in merozoites and sporozoites of *Plasmodium yoelii*. *Parasitol Int* 63: 794-801, 2014
- 172) **Nabeshima T, Inoue S, Okamoto K, Posadas-Herrera G, Yu F, Uchida L, Ichinose A, Sakaguchi M, Sunahara T, Buerano CC, Tadena FP, Orbita IB, Natividad FF, Morita K** : Tanay virus, a new species of virus isolated from mosquitoes in the Philippines. *J Gen Virol* 95: 1390-1395, 2014
- 173) **奥村順子** : エコヘルスという視点 : エコヘルスの視点から見た母子保健ーラオスの事例から. *医学のあゆみ* 2014年 (5月24日) ; 248 (8): 706-11.
- 174) **奥村順子** : エコヘルスの視点から見た母子保健. 門司和彦, 安本晋也, 渡辺知保編 *エコヘルスー21世紀における新たな健康概念*. 別冊・医学のあゆみ 2014年 (12月29日) ; pp. 91-96

マラリア研究室

- 175) **Liu W, Li Y, Shaw K, Learn G, Plenderleith L, Malenke J, Sundararaman S, Ramirez M, Crystal P, Smith A, Bibollet-Ruche F, Ayoub A, Locatelli S, Esteban A, Mouacha F, Guichet E, Butel C, Ahuka-Mundeye S, Inogwabini B, Ndjanga J, Speede S, Sanz C, Morgan D, Gonder M, Kranzusch P, Walsh P, Georgiev A, Muller M, Piel A, Stewart F, Wilson M, Pusey A, Cui L, Wang Z, Farnert A,**

- Sutherland C, Nolder D, Hart J, Hart T, Bertolani P, Gillis A, LeBreton M, Tafon B, Kiyang J, Djoko C, Schneider B, Wolfe N, Mpoudi-Ngole E, Delaporte E, Carter R, Culleton R, Shaw G, Rayner J, Peeters M, Hahn B, Sharp P** : African origin of the malaria parasite *Plasmodium vivax*. : Nature Communications 5:3346, 2014
- 176) **Abkallo HM, Liu W, Hokama S, Ferreira PE, Nakazawa S, Maeno Y, Quang NT, Kaneko O, Huffman MA, Kawai S, Marchand RP, Carter R, B.H. H, Culleton R** : DNA from Pre-Erythrocytic Stage Malaria Parasites is Detectable by PCR in the Faeces and Blood of Hosts. International Journal for Parasitology 44(7):467-473, 2014
- 177) **Tao Z, Fang Q, Liu X, Culleton R, Xia H, Gao Q** : Congenital Malaria in China. PLOS Neglected Tropical Diseases 8(3):e2622, 2014
- 178) **Cordina C, Culleton R, Jones BL, Smith C, McConnachie A, Coyne M, Alexander CL** : *Plasmodium knowlesi* : Clinical Presentation and Laboratory Diagnosis of the First Human Case in a Scottish Traveller. Journal of Travel Medicine 21(5):357-360, 2014
- 179) **Kawai S, Sato M, Kato-Hayashi S, Kishi H, Huffman M, Maeno Y, Culleton R, Nakazawa S** : Detection of *Plasmodium knowlesi* DNA in the urine and faeces of a Japanese macaque (*Macaca fuscata*) over the course of an experimentally induced infection. Malaria Journal 13:373, 2014
- 180) **Kenji Murai, Richard Culleton, Teruhiko Hisaoka, Hiroyoshi Endo, Toshihiro Mita** : Global distribution of polymorphisms associated with delayed *Plasmodium falciparum* parasite clearance following artemisinin treatment: genotyping of archive blood samples. Parasitology International 64(3):267-273, 2014
- 181) **Prajapati SK, Culleton R, Singh OP** : Protein trafficking in *Plasmodium falciparum* infected red cells and impact of the expansion of exported protein families, Parasitology, 30: 1-11, 2014

10. 2 学会発表演題

- 1) 浦田秀造：S1P/SKI-1阻害によるアレナウイルス・ブニヤウイルス複製への影響. 3rd Negative Strand Virus-Japan, 沖縄, 2014年1月13日～1月15日.
- 2) 和田崇之：Retrospective analysis of genetic population structure of *M. tuberculosis* clinical isolates several decades ago in Japan. 結核研究所研究会 “Japan-Korea-China-Taiwan Molecular Epidemiology in Tuberculosis at Tokyo”, 結核研究所, 2014年1月14日～1月16日.
- 3) 和田崇之：Two targets of NGS analysis of *M. tuberculosis*: traceability and genetic diversity. 「新興・再興感染症に関するアジア・アフリカリサーチフォーラム 2014」のWorking Group Meeting for Tuberculosis (Day 0), 仙台国際センター, 2014年1月20日～1月22日.
- 4) Furuoya N, Hashizume M : A systematic review of the influence of occupational organophosphate pesticides exposure on neurologic impairment. 第24回日本疫学会学術総会, 仙台市, 仙台市青年文化センター, 2014年1月23日～1月25日, 第24回日本疫学会学術総会講演集, 94項
- 5) 凧 幸世：ケニア西部の小学生における寄生虫感染率とリスク要因の解析. 第23回日本疫学会学術総会講演集, 大阪府吹田市, 2014年1月24日～1月26日. 第23回日本疫学会学術総会講演集P.35
- 6) 和田崇之：結核分子疫学の実際と今後の課題. 平成25年度九州地区結核菌分子疫学調査 (VNTR解析) 連絡会議, 大分衛生研究所, 2014年1月27日～1月28日.
- 7) 山本太郎：感染症と人類—文明以前と文明以後. 『熱帯の「狩猟採集民」に関する環境史学的研究—アジア・アフリカ・南アメリカの比較から』のシンポジウム, 国立民族学博物館, 2014年2月1日～2月2日.
- 8) Cherif MS, Shuaibu MN, Kodama Y, Kurosaki T, Helegbe GK, Kikuchi M, Ichinose A, Yanagi T, Sasaki H, Yui K, Tien NH, Karbwang J, Hirayama K : Nanoparticle formulation enhanced protective immunity provoked by PYGPI8p-transamidase related protein (PyTAM) DNA vaccine in *Plasmodium yoelii* malaria model. 第3回感染症若手フォーラム, やすらぎ伊王島, 長崎, 2014年2月13日～2月15日, 2014年2月13日—15日, (第3回感染症若手フォーラム プログラム・講演要旨集 P.18)
- 9) Kalenda Yombo Dan J, Kentaro Kato, Yasuyuki Goto, Yoshito Fujii, Shinjiro Hamano : Application of tandem repeat recombinant proteins as potential antigens for the sero-diagnostic test of *Schistosoma mansoni* infection. 第3回 感染症若手フォーラム, 長崎県長崎市, 2014年2月13日～2月15日.
- 10) Masahito Asada, Yasuyuki Goto, Kazuhide Yahata, Naoaki Yokoyama, Noboru Inoue, Osamu Kaneko, Shin-ichiro Kawazu : Gliding motility of *Babesia bovis* merozoites visualized by time-lapse video microscopy. 第3回感染症若手フォーラム, やすらぎ伊王島, 長崎市, 2014年2月13日～2月15日.
- 11) Kishor Pandey, Pedro E. Ferreira, Kazuhide Yahata, Osamu Kaneko : Differential response of malaria parasite against the inhibitors of mammalian sarco-endoplasmic reticulum Ca^{2+} -ATPase. 第3回感染症若手フォーラム, やすらぎ伊王島, 長崎市, 2014年2月13日～2月15日.
- 12) Joe K. Mutungi, Kazuhide Yahata, Miako Sakaguchi, Richard Culleton, Osamu

- Kaneko** : Characterization of PyRON5, a Plasmodium yoelii rhoptry neck protein. 第3回感染症若手フォーラム, やすらぎ伊王島, 長崎市, 2014年2月13日～2月15日.
- 13) **Mbanefo EC, Kumagai T, Kodama Y, Ohta N, Sasaki H, Hirayama K** : Immunogenicity and anti-fecundity effect of nanoparticle-coated glutathione S-transferase (SjGST) DNA vaccine against murine *Schistosoma japonicum* infection. 第3回感染症若手フォーラム, やすらぎ伊王島, 長崎, 2014年2月13日～2月15日. (第3回感染症若手フォーラム プログラム・講演要旨集 P.18)
 - 14) **早坂大輔, 余 福勲, 吉川 亮, Guillermo Posadas Herrera, Mya Myat Ngwe Tun, 吾郷昌信, 森田公一** : 長崎県における重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の動物血清疫学および媒介マダニ調査. 第38回長崎感染症研究会, 長崎市 (長崎大学医学部 良順会館), 2014年3月1日.
 - 15) **Pandey K, Kaneko O** : Calcium signaling in the malaria parasites for the drug development. 東京生化学研究会平成25年度研究発表会, 八重洲富士屋ホテル, 東京都, 2014年3月7日.
 - 16) **木村有希, 奥村順子, Elizeus Rutebemberwa, 山本太郎** : ウガンダ東部地域における小児のArtemisinin-based combination therapy (ACT)のアクセスに影響を与える要因に関する研究. 日本国際保健医療学会第32回西日本地方会, 愛知医科大学, 2014年3月8日.
 - 17) **川田 均, Endang Pujiyati, 砂原俊彦, 葛西真治, 皆川 昇** : 長崎市内で採集したヒトスジシマカの殺虫剤抵抗性に関する考察. 第66回日本衛生動物学会大会, 岐阜市, 岐阜大学, 2014年3月21日～3月23日. Medical Entomology and Zoology Vol.65 Supplement March 2014, P.50
 - 18) **川島恵美子, Gabriel O. Dida, 二見恭子, 川田 均, 皆川 昇** : 西ケニア地区における *Anopheles gambiae s.s.* のkdr遺伝子に関する調査. 第66回日本衛生動物学会大会, 岐阜市, 岐阜大学, 2014年3月21日～3月23日. Medical Entomology and Zoology Vol.65 Supplement March 2014 P.42
 - 19) **岩下華子, 比嘉由紀子, 二見恭子, Gabriel O Dida, Sammy M Njenga, 森田公一, 皆川 昇** : ケニアにおける *Culex pipiens* complex (Diptera: Culicidae) のアルボウイルス保有状況. 第66回日本衛生動物学会大会, 岐阜市, 岐阜大学, 2014年3月21日～3月23日. Medical Entomology and Zoology Vol.65 Supplement March 2014, P.47
 - 20) **川島恵美子, 川田 均, Sai Zaw Min Oo, Sein Thaung, Yan Naung Maung Maung, Hlaing Myat Thu, Kyaw Zin Thant, 皆川 昇** : ミャンマー連邦共和国ヤンゴンで最終されたネッタシマカの殺虫剤抵抗性. 第66回日本衛生動物学会大会, 岐阜市, 岐阜大学, 2014年3月21日～3月23日. Medical Entomology and Zoology Vol.65 Supplement March 2014, P.49
 - 21) **川田 均, 川島恵美子, Gabriel O. Dida, George Sonye, Charles Mwandawiro, Sammy M. Njenga, 皆川 昇** : ケニア西部におけるマラリア媒介蚊の新しいコントロール技術の開発(3)ピリプロキシフェン含有蚊帳のピレスロイド抵抗性蚊個体群に対する小規模フィールド試験. 第66回日本衛生動物学会大会, 岐阜市, 岐阜大学, 2014年3月21日～3月23日. Medical Entomology and Zoology Vol.65 Supplement March 2014, P.52
 - 22) **川田 均, Gabriel O. Dida, George Sonye, Charles Mwandawiro, Sammy M. Njenga, 皆川 昇** : ケニア西部におけるマラリア媒介蚊の新しいコントロール技術の開

- 発(4)ピリプロキシフェン含有蚊帳のピレスロイド抵抗性蚊個体群に対する小規模フィールド試験. 第66回日本衛生動物学会大会, 岐阜市, 岐阜大学, 2014年3月21日~3月23日. Medical Entomology and Zoology Vol.65 Supplement March 2014, pp52
- 23) 砂原俊彦: 待ち伏せ型の吸血行動をとるかの吸血呂津と生存率の簡易的推定法. 第66回日本衛生動物学会大会, 岐阜市, 岐阜大学, 2014年3月21日~3月23日. Medical Entomology and Zoology Vol.65 Supplement March 2014, P.54
- 24) 坂口美亜子, 宮崎直幸, 藤岡 壽, 金子 修, 和田和義: SBF-SEMによるマラリア感染赤血球の三次元観察. 医学生物学電子顕微鏡技術学会第30回学術講演会, 大阪大学吹田キャンパス, 吹田市, 2014年3月23日~3月25日.
- 25) Mohammad Shah, Erick Odoyo, Amina Galata, Cyrus Kathiiko, Gabriel Miringu, Yoshio Ichinose: Providencia alcalifaciens, a food-borne pathogen causes diarrhea among children in Kiambu, Kenya. 87th Annual Meeting of Japanese Society for Bacteriology, 東京, 2014年3月26日~3月28日.
- 26) 和田崇之, 岩本朋忠, 前田伸司, 長谷 篤, 山本太郎: 結核菌における遺伝型別一致株の比較ゲノム解析. 第87回日本細菌学会, タワーホール舟堀, 2014年3月26日~3月28日.
- 27) 中野政之, 八尋錦之助, 久恒順三, 赤田純子, 野田公俊, 平山壽哉: ピロリ菌が産生するVacAはRPTP α を介してc-*Src*を活性化する. 第87回日本細菌学会総会, 東京都, 2014年3月26日~3月28日.
- 28) 津川 仁, 鈴木秀和, 佐藤 聡, 三好佐和子, 森 英毅, 正岡建洋, 金井隆典, 水島 徹, 井本正哉, 平山壽哉: ピロリ菌がん蛋白質CagAを分解するオートファージを誘導するLRP1シグナル. 第87回日本細菌学会総会, 東京都, 2014年3月26日~3月28日.
- 29) Nagi S, Hamano S: Risk factors and spatial distributions of *Schistosoma mansoni* infection among primary school children in Mbita district. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日~3月28日.
- 30) Richard Culleton, Abkallo Hussein, Liu Weimin, 外間沙里菜, フェレイラ ペドロ, 中澤秀介, 前野芳正, Quang Nguyen T, 金子 修, ハフマン マイケル, 川合 覚, マーチャンド ロン, カーター リチャード, ハーン ビートライス: DNA from Pre-Erythrocytic Stage Malaria Parasites is Detectable by PCR in the Faeces and Blood of Hosts. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日~3月28日.
- 31) 麻田正仁, Carlos Uarez, 横山直明, 五十嵐郁男, 矢幡一英, 金子 修, 河津信一郎: パベシア原虫におけるダブルトランスフェクション法の確立. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日~3月28日.
- 32) アブカロ フセイン, Liu Weimin, 外間沙里菜, フェレイラ ペドロ, 中澤秀介, 前野芳正, Quang Nguyen T, 金子 修, ハフマン マイケル, 川合 覚, マーチャンド ロン, カーター リチャード, ハーン ビートライス, カレトン リチャード: DNA from Pre-Erythrocytic Stage Malaria Parasites is Detectable by PCR in the Faeces and Blood of Hosts. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日~3月28日.
- 33) 前野芳正, Culleton Richard, Quang Ngueyen Tuyen, 川合 覚, 伊藤 誠, Marchand Ron P, 中澤秀介: ベトナム南部におけるスポロゾイトからみた森林マラリア

- 伝播の分子疫学的研究. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日～3月28日.
- 34) 上村春樹, Basuki Sukmawati, Fitriah, Risamasu Petronella M, Kasmijati, Ariami Pancawati, Riyanto Sugeng, Hidayat Ari, Susilowati Dewi, Iskandar, Armika Budi, Budiono, 神原廣二: インドネシアの熱帯熱マラリア原虫薬剤耐性関連遺伝子の多型. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日～3月28日.
- 35) Mutungi Joe K, Yahata Kazuhide, Sakaguchi Miako, Culleton Richard, Kaneko Osamu: Characterization of PyRON5, a *Plasmodium yoelii* rhoptry neck protein. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日～3月28日.
- 36) 大槻 均, 入子英幸, 石野智子, 金子 修, 福本宗嗣, 坪井敬文, 鳥居本美: ネズミマラリア原虫赤血球侵入リガンドEBL領域3-5の機能解析. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日～3月28日.
- 37) 井上雅広, 安田幸一, 上村春樹: AKB1 (associated kinase of Tb14-3-3-1)のin vitro酵素活性. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日～3月28日.
- 38) Mossad Ehab, 麻田正仁, 中谷大地, 井上 昇, 金子 修, 河津信一郎: Calcium ions are involved in the egress of Babesia bovis merozoites from bovine red blood cells. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日～3月28日.
- 39) Pandey Kishor, Ferreira Pedro E, Yahata Kazuhide, Kaneko Osamu: Differential response of malaria parasite against the inhibitors of mammalian sacro-endoplasmic reticulum Ca²⁺-ATPase. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日～3月28日.
- 40) 薄井美帆, 増田-菅沼裕乃, 麻田正仁, 福本晋也, 井上 昇, 河津信一郎: チオレドキシンペルオキシダーゼ-1遺伝子欠損がPlasmodium berghei肝臓型の発育に及ぼす影響の解析. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日～3月28日.
- 41) 矢幡一英, Mutungi Joe K, 坪井敬文, 金子 修: ネズミマラリア原虫Plasmodium yoeliiのAMA1はメロゾイトの形態変化にともない放出される. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 愛媛県松山市, 2014年3月27日～3月28日.
- 42) Nguyen Tien Huy, Pham Lan Chi, Jun Nagai, Kaeko Kamei, Juntra Karbwang, Hiroshi Ueda, and Kenji Hirayama: High-throughput screening of small-molecule chemical library for novel antimalarials. 第83回日本寄生虫学会大会, 愛媛大学城北キャンパス, 2014年3月27日～3月28日. (第83回日本寄生虫学会大会 プログラム・抄録集 pp86).
- 43) 浦田秀造, 黒崎陽平, 安田二郎: 高病原性出血熱ウイルスに対する抗ウイルス療法確立の試み. 日本薬学会第134年会, 熊本, 2014年3月27日～3月30日.
- 44) 山本太郎: 食料SDGについて. 環境研究総合推進費(S-11)「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究, Project on Sustainability Transformation beyond 2015(POST2015)」拡大テーマ・リーダー会合, 東京工業大学, 2014年4月11日.
- 45) 森本浩之輔: APSG-JAPAN: 日本における成人肺炎の疫学研究. 第111回日本内科学会講演会, 東京, 2014年4月11日～4月13日.

- 46) 山下嘉郎, 黒木麗喜, 高木理博, 田中健之, 天野秀明, 千馬正敬, 有吉紅也, 森本浩之輔: 糖尿病ではERストレスにより肺の炎症後組織修復が障害されている. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25日~4月27日.
- 47) 高木理博, 中岡大士, 荒川 悠, 石田正之, 鈴木 基, 有吉紅也, 森本浩之輔: 市中肺炎及び医療関連肺炎死亡症例の検討による肺炎死亡率評価日の検討. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25日~4月27日.
- 48) 吉田志緒美, 露口一成, 鈴木克洋, 富田元久, 岡田全司, 林 清二, 有川健太郎, 岩本朋忠: Mycobacterium abscessus及びその近縁菌におけるVariable number of tandem DNA repeat (VNTR)法の有用性. 第89回日本結核病学会総会, 長良川国際会議場, 2014年5月9日~5月10日.
- 49) 露口一成, 吉田志緒美, 富田元久, 鈴木克洋, 岡田全司, 林 清二: 近畿中央胸部疾患センターにおける多剤耐性結核症例の検討. 第89回日本結核病学会総会, 長良川国際会議場, 2014年5月9日~5月10日.
- 50) 大原直也, 趙 娜, 和田崇之, 藤原永年, 前田伸司, 瀧井猛将, 前山順一, 山本三郎: BCG Tokyo172-1に存在するサブポピュレーションの比率変化に関する検討. 第89回日本結核病学会総会, 長良川国際会議場, 2014年5月9日~5月10日.
- 51) 吉田志緒美, 露口一成, 鈴木克洋, 岡田全司, 山本太郎, 和田崇之, 林 清二: 1960~70年代における結核菌の薬剤耐性状況の推察—抗結核薬の変遷とその影響について. 第89回日本結核病学会総会, 長良川国際会議場, 2014年5月9日~5月10日.
- 52) 藤原永年, 前田伸司, 和田崇之: 超高分解能MALDI SpiralTOFMSによるミコール酸の簡易迅速分析. 第89回日本結核病学会総会, 長良川国際会議場, 2014年5月9日~5月10日.
- 53) 和田崇之, 岩本朋忠, 瀬戸順次, 阿彦忠之, 田丸亜貴, 長谷 篤, 前田伸司, 山本太郎: M株の広域的分離の原因究明—比較ゲノム解析に基づく「結核ゲノム疫学」の導入. 第89回日本結核病学会総会, 長良川国際会議場, 2014年5月9日~5月10日.
- 54) 吉田志緒美: 抗酸菌, 特に非結核抗酸菌 (NTM) の分離と同一—最近のトピックス. 第89回日本結核病学会総会 (2014.5.9-10. 岐阜), 長良川国際会議場, 2014年5月9日~5月10日.
- 55) 坂口美亜子, 宮崎直幸, 藤岡 壽, 金子 修, 村田和義: SBF-SEMによるマラリア感染赤血球の三次元観察. 第70回日本顕微鏡学会学術講演会, 千葉市, 2014年5月11日~5月13日.
- 56) 高松由基, 岡本健太, Dinh Tuan Duc, 余福 勲, 早坂大輔, 内田玲麻, 鍋島武, Corazon C Buerano, 森田公一: NS1' タンパク質はトリ細胞で日本脳炎ウイルスの増殖及び適応に機能する. 第49回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 山口市, 2014年5月16日~5月17日.
- 57) 小林大介, 伊澤晴彦, 江尻寛子, 佐々木年則, 前川芳秀, 吉川 亮, 松本文昭, 吾郷昌信, 津田良夫, 鎌田龍星, 田島 茂, 小林睦生, 太田伸生, 沢辺京子: 2012年および2013年に長崎県で捕集されたコガタアカイエカ *Culex tritaeniorhynchus* のアルボウイルス保有状況調査. 第49回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 山口市, 2014年5月16日~5月17日.
- 58) 下田 宙, 米満研三, 早坂大輔, 好井健太郎, 寺田 豊, 野口慧多, 鎌田龍星, 高野 愛, 前田 健: 山口県の野生動物およびダニからフラビウイルスの検出. 第49回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 山口市, 2014年5月16日~5月17日.
- 59) 鍋島 武, 二見恭子, 今西 望, 吉川 亮, 松本文昭, 高松由基, 内田玲麻, 森田公一:

- 長崎県対馬と五島列島における蚊の採集とJEVの分離. 第49回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 山口市, 2014年5月16日～5月17日.
- 60) 内田玲麻, Espada-Murao Lyre Anni, 早坂大輔, 森田公一: Double stranded-RNA concealingによるデングウイルスのI型IFN誘導回避機構. 第49回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 山口市, 2014年5月16日～5月17日.
- 61) Mya Myat Ngwe Tun, 青木康太郎, 千馬正敬, 森田公一, 早坂大輔: ダニ媒介性脳炎ウイルス感染におけるTNF- α , IL-10およびIL-2応答の役割. 第49回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 山口市, 2014年5月16日～5月17日.
- 62) 井上真吾, Allan ole Kwallah, Salame Ashur, Mulati Omuyundo, Missiani Ochwoto, Samson Muuo, Lucy Okubi, Matilu Mwau, 森田公一: ケニアインド洋沿岸におけるデング熱の発生報告. 第49回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 山口市, 2014年5月16日～5月17日.
- 63) 坂口美亜子, 宮崎直幸, 藤岡 壽, 金子 修, 村田和義: SBF-SEMを用いたマラリア感染赤血球の三次元構造解析. 第30回日本医学生物学電子顕微鏡技術学会学術講演会, 吹田市, 2014年5月23日～5月25日.
- 64) 吾郷昌信, 陣内久美子, 高柳俊光, 森内浩幸, 清水博之: コクサッキーウイルス B2型垂直感染による新生児重症感染例. 第55回日本臨床ウイルス学会, 札幌市, 2014年6月14日～6月15日.
- 65) 渡辺貴和雄, 一瀬休生, 縄田康郎, 黒木麗喜, 力富直人, 有吉紅也: MIsに高度体制を示した病原性の明確な*Morawella catarrhalis* の一例について—耐性化の遺伝学的解析の検討を含めて—. 第88回日本感染症学会学術講演会・第62回日本化学療法学会総会, 福岡市, 2014年6月17日～6月19日.
- 66) 久保 亨, 松竹豊司, 江原尚美, 森田公一, 河野 茂, 福島喜代康: 分子生物学的手法を用いたインフルエンザの院内感染制御に関する研究. 第88回日本感染症学会学術講演会, 第62回日本科学療法学会総会合同学会, 福岡市, 2014年6月18日～6月19日.
- 67) 久保 亨, 松竹豊司, 江原尚美, 森田公一, 河野 茂, 福島喜代康: 遺伝子シーケンシング法を用いた結核菌の薬剤耐性の迅速判定の日常診察への応用に関する研究. 第88回日本感染症学会学術講演会. 第62回日本科学療法学会総会合同学会, 福岡市, 2014年6月18日～6月20日.
- 68) 中野政之, 八尋錦之助, 平山壽哉: VacA依存的なc-SrcおよびCagAのリン酸化について. 第20回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京, 2014年6月28日～6月29日.
- 69) 八尋錦之助, 中野政之, 平山壽哉: ピロリ菌の空胞化毒素VacAによるConnexin 43の発現亢進はERKとAtg16L依存性経路を介して誘導される (*Helicobacter pylori* VacA-induced Connexin 43 expression is mediated by ERK- and Atg16L-dependent pathway). 第20回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京, 2014年6月28日～6月29日.
- 70) 早坂大輔: SFTSウイルスについてこれまでわかったこと. 第22回Seminar on Acari-Disease Interface, 太宰府, 2014年7月4日～7月6日.
- 71) 金子 修: マラリア原虫による赤血球マトリョーシカ化機構. 第3回マトリョーシカ型生物学研究会, 神戸大学, 神戸市, 2014年7月11日～7月13日.
- 72) 宮崎真也, Zhu Xiaotong, 加賀谷 渉, 矢幡一英, 金子 修: 熱帯熱マラリア原虫の輸送

- タンパク質SURFINの輸送機構の解明. 第3回マトリョーシカ型生物学研究会, 神戸大学, 神戸市, 2014年7月11日~7月13日.
- 73) 森本浩之輔, 高木理博, 石藤智子, 神白麻衣子, 黒木麗喜, 中山敏幸, 有吉紅也: 気管支内に多発隆起性病変を呈したMALTリンパ種の一例. 第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2014年7月13日~7月16日.
- 74) 森本浩之輔, 青島正大, 有吉紅也, 麻生憲史, GDoubhadel Bhim, 濱口杉大, 八重樫牧人, 石田正之, 金子教宏, 石藤智子, 鈴木 基, 細川直人, 大塚善人, 田中研三, 山藤栄一郎: 日本における成人肺炎の疫学. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2014年7月25日~7月27日.
- 75) 加藤健太郎, Dhoubhadel Bhim G, 藤井仁人, 橘 裕司: 赤痢アマーバレクチンのレクチン領域解析. 第33回日本糖質学会年会, 名古屋市 (名古屋大学豊田講堂), 2014年8月10日~8月12日. 第33回日本糖質学会年会 148
- 76) 江端由穂, 星 友矩, 後藤健介, 早田みどり, 金子 聰: 長崎県における成人T細胞白血病の空間疫学. 第1回日本HTLV-1学会学術集会, 東京大学医科学研究所1号館講堂, 2014年8月23日~8月24日.
- 77) 麻田正仁, 矢幡一英, Hakimi H, 横山直明, 五十嵐郁男, 金子 修, Suarez C, 河津信一郎: バベシア原虫における遺伝子改変技術の開発. 第22回分子寄生虫学ワークショップ/第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム 合同大会, 帯広畜産大学原虫病研究センター PKホール, 北海道, 2014年8月31日~9月3日.
- 78) 外川裕人, 麻田正仁, 矢幡一英, 金子 修: ネズミマラリア原虫*P. yoelii*でのテトラサイクリン発現誘導システムの確立. 第22回分子寄生虫学ワークショップ/第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム合同大会, 帯広畜産大学原虫病研究センター PKホール, 北海道, 2014年8月31日~9月3日.
- 79) 金子 修, 研究室の仲間たち: マラリア原虫による赤血球侵入と改変. 第22回分子寄生虫学ワークショップ/第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム合同大会, 帯広畜産大学原虫病研究センター PKホール, 北海道, 2014年8月31日~9月3日.
- 80) 矢幡一英, Mutungi JK, 坪井敬文, 金子 修: ネズミマラリア原虫*Plasmodium yoelii*のAMA1はメロゾイトの形態変化にともない放出される. 第22回分子寄生虫学ワークショップ/第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム合同大会, 帯広畜産大学原虫病研究センター PKホール, 北海道, 2014年8月31日~9月3日.
- 81) 加賀谷 渉, 宮崎真也, 矢幡一英, 太田伸生, 金子 修: 熱帯熱マラリア原虫SURFINのマウレル裂から赤血球表面への輸送機構. 第22回分子寄生虫学ワークショップ/第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム合同大会, 帯広畜産大学原虫病研究センター PKホール, 北海道, 2014年8月31日~9月3日.
- 82) 宮崎真也, Zhu X, 加賀谷 渉, 矢幡一英, 金子 修: 熱帯熱マラリア原虫の輸送タンパク質SURFINが形成する複合体の性状解析. 第22回分子寄生虫学ワークショップ/第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム合同大会, 帯広畜産大学原虫病研究センター PKホール, 北海道, 2014年8月31日~9月3日.
- 83) 薄井美帆, 増田-菅沼裕乃, 麻田正仁, 福本晋也, 井上 昇, 川合 覚, Kanzok SM, 河津信一郎: チオレドキシンペルオキシダーゼ欠損がマラリア原虫肝臓型の発育に及ぼす影響の

- 解析. 第22回分子寄生虫学ワークショップ/第12回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム合同大会, 帯広畜産大学原虫病研究センター PKホール, 北海道, 2014年8月31日～9月3日.
- 84) **Mohammad Shah, Yoshio Ichinose** : Food poisoning caused by *Bacillus pumilus* in adult. 67th Japanese bacteriology association Kyushu branch general meeting and the 51st Japanese virology association Kyushu branch general meeting, 鹿児島, 2014年9月5日～9月6日.
- 85) **黒崎陽平, 中前早百合, 早坂大輔, 安田二郎** : 新規ナイロウイルス遺伝子検出法の開発. 第51回日本ウイルス学会九州支部総会 第67回日本細菌学会九州支部総会, 鹿児島, 2014年9月5日～9月6日.
- 86) **坂部沙織, 安田二郎** : 重症熱性血小板減少症候群 (STFS) マウスモデルの探索. 第51回日本ウイルス学会九州支部総会 第67回日本細菌学会九州支部総会, 鹿児島市, 2014年9月5日～9月6日.
- 87) **宮崎幸子, 浦田秀造, Unigwe Sonny Uche, 安田二郎** : ナイジェリアのラッサ熱疑い患者血清に対する次世代シーケンサーを用いた病原体解析. 第51回日本ウイルス学会九州支部総会 第67回日本細菌学会九州支部総会, 鹿児島市, 2014年9月5日～9月6日.
- 88) **早坂大輔, 嶋田 聡, Guillermo Posadas Herrera, 森田公一** : 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス感染マウスモデルを用いた抗血清および薬剤効果の検討. 第51回日本ウイルス学会九州支部総会 第67回日本細菌学会九州支部総会, 鹿児島市, 2014年9月5日～9月6日.
- 89) **中野政之, 八尋錦之助, 平山壽哉** : ピロリ菌の空胞化毒素VacAのRPTP α を介する新たな作用について. 第67回日本細菌学会九州支部総会, 鹿児島市, 2014年9月5日～9月6日.
- 90) **内田玲麻, Espada-murao Lyre Anni, 高松由基, 岡本健太, 早坂大輔, 余 福勲, 鍋島武, 森田公一** : Double stranded-RNA concealingによるデングウイルスのI方IFN誘導回避機構. 第157回日本獣医学会学術集会, 札幌市 (北海道大学 高等教育推進機構), 2014年9月9日～9月12日.
- 91) **早坂大輔, 嶋田 聡, 青木康太郎, 森田公一** : 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス遺伝子検出法の確立と長崎県における媒介マダニ調査. 第157回日本獣医学会学術集会, 札幌市 (北海道大学 高等教育推進機構), 2014年9月9日～9月12日.
- 92) **麻田正仁, Suarez C, Hakimi H, 横山直明, 五十嵐郁男, 矢幡一英, 金子 修, 河津信一郎** : *Babesia bovis*におけるダブルトランスフェクション法の確立. 第157回日本獣医学会学術集会, 北海道大学高等教育推進機構, 北海道札幌市, 2014年9月9日～9月12日.
- 93) **坂部沙織, 安田二郎** : 重症熱性血小板減少症候群 (STFS) マウスモデルの探索. 第157回日本獣医学会学術集会, 札幌市, 2014年9月9日～9月12日.
- 94) **安田二郎, 岡田沙弥香, 今川和彦, 宇野有紀子** : ウシインターフェロントウ1およびタウc1の抗ウイルス活性. 第157回日本獣医学会学術集会, 札幌市, 2014年9月9日～9月12日.
- 95) **山本太郎** : 『ポスト2015年開発アジェンダにおける食料関連目標に関する一考察』. 環境経済・政策学会2014年大会, 法政大学 多摩キャンパス, 2014年9月13日～9月14日.
- 96) **水上修作, Dao Huy Manh, 千住 覚, 西村泰治, 森田公一, 平山謙二** : ワクチン開発を目指したデングウイルス抗原エピトープ予測モデル構築の基礎実験. 第23回日本組織適合性学会大会, 長崎大学医学部キャンパス, 長崎, 2014年9月13日～9月15日. プログラム抄録集 官民連携時代における人材育成, pp 106

- 97) 平山謙二, Thuong VN, Lan NTP, Thanh LC, Nhon CTM, Nhung CTH, Mai TN, Truong QN, Ngu VTT, Quoc KD, Ha TTN, Huy TN, Ton T, Quang CL, An VT, Huong VTG, 水上修作: 末梢血のT細胞サブセット動態とデング熱重症化との関連. 第23回日本組織適合性学会大会, 長崎大学医学部キャンパス, 長崎, 2014年9月13日~9月15日. プログラム抄録集 官民連携時代における人材育成, p.106
- 98) Yohei Kurosaki, Jiro Yasuda: mTOR signaling regulates Severe fever with thrombocytopenia virus replication. 第13回あわじ感染症・免疫フォーラム, 奈良, 2014年9月23日~9月26日.
- 99) Evaristus C. MbanefoMbanefo, Takashi Kumagai, Yukinobu Kodama, Reiko-Furushima-Shinogawara, Sama M. Cherif, Tien-Huy Nguyen, Nobu Ohta, Hiroshi Sasaki, Kenji Hirayama: Immunogenicity and anti-fecundity effect of nanoparticle coated SjGST DNA vaccine against murine *Schistosoma japonicum* infection. 第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会, 官民連携時代における人材育成, 東京女子医科大学弥生記念講堂・国立国際医療研究センター, 東京, 2014年10月1日~10月3日. プログラム抄録集 官民連携時代における人材育成, p.268
- 100) 山本優美, 古本朗嗣, 岩田知真, 田中健之, 高木理博, 神白麻衣子, 安倍邦子, 泉川公一, 森本浩之輔, 有吉紅也: NSIPを伴ったシェーグレン症候群加療中に生じたRhodotorula mucilaginosaによる肺感染症の一例. 第73回日本呼吸器学会・日本結核病学会・九州支部秋季学術講演会, 鹿児島, 2014年10月10日~10月11日.
- 101) 池田恵理子, 古本朗嗣, 石藤智子, 山梨啓友, 森本浩之輔, 有吉紅也: M.avium肺感染症に心サルコイドーシスの合併が明らかになった一例. 第73回日本呼吸器学会・日本結核病学会・九州支部秋季学術講演会, 鹿児島, 2014年10月10日~10月11日.
- 102) 星 友矩, 今西 望, 岩下華子, Luis Ferenado Chaves: Mosquito biodiversity patterns in Mt. Konpira: an example of efficient environmental data collection and management using Open Data Kit. 日本昆虫学会第74回大会ー広島大会ー, 広島大学 教育学部 (東広島キャンパス), 2014年10月16日~10月17日.
- 103) 吉原圭亮, Le Nhat Minh, 樋泉道子, 岡本道子, 押谷 仁, 鈴木 基, 森内浩幸, 橋爪真弘, Dang Duc Anh, 有吉紅也, 吉田レイミント: 中部ベトナムにおけるRSV-A ON1遺伝子型の発生と小児呼吸疾患の重症化の関連性. 第46回日本小児感染症学会総会・学術集会, 東京, 2014年10月18日~10月19日.
- 104) 樋泉道子, 本村秀樹, Nguyen Huu Thanh, Pham Enga, 金子賢一, 上松聖典, Nguyen Thi Huong Giang, 橋爪真弘, Le Huu Tho, Dang Duc Anh, 有吉紅也, 吉田レイミント, 森内浩幸: ベトナム・カンホア省で発生した先天性風疹症候群の神経・感覚器合併症の追跡調査. 第46回日本小児感染症学会総会・学術集会, 東京, 2014年10月18日~10月19日.
- 105) 島崎貴治, 望月恒太, 石藤智子, 高木理博, 古本朗嗣, 森本浩之輔, 有吉紅也: アナフィラトイド紫斑病を合併したマイコプラズマ肺炎の一例. 第84回日本感染症学会西日本地方学術集会, 岡山, 2014年10月23日~10月25日.
- 106) 岩田知真, 望月恒太, 古本朗嗣, 島崎貴治, 藤井 宏, 森本浩之輔, 有吉紅也: 重症偽膜性腸炎の治療中にサイトメガロウイルス (CMV) 腸炎を合併した1例. 第84回日本感染症学会西日本地方学術集会, 岡山, 2014年10月23日~10月25日.
- 107) Hidenori Sakanashi, Hirokazu Nosato, Eichi Takahashi, Masahiro Murakawa, Koji

- Furukawa, Kazuhiko Yamasaki, Tomomi Kubota, Tesuo Yanagi, Kenji Hirayama** : Pattern recognition approach to high-speed counting of live tripomastigotes. 第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会, 東京女子医科大学弥生記念講堂・国立国際医療研究センター, 東京, 2014年11月1日～11月3日. プログラム抄録集 官民連携時代における人材育成, p.325
- 108) **Kenji Hirayama, Nguyen Thi Phuong Lan, Van Nguyen Thuong, Thanh Le Chi, Thang Minh Cao, Nhon Cao Thi Thi My, Quoc Kien Do, Tran Thi Ngoc Ha, Tien Nguyen Huy, Tran Ton, Quang Chan Luong, Van Tran An, Vu Thi Que Huong, Shusaku Mizukami, Dao Huy Manh** : Peripheral T cell dynamics correlate to disease severity in Dengue fever. 第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会, 東京女子医科大学弥生記念講堂・国立国際医療研究センター, 東京, 2014年11月1日～11月3日. プログラム抄録集 官民連携時代における人材育成, p.288
- 109) **Evaristus C. Mbanefo, Takashi Kumagai, Yukinobu Kodama, Reiko-Furushima-Shinogawara, Sama M. Cherif, Tien-Huy Nguyen, Nobu Ohta, Hiroshi Sasaki, Kenji Hirayama** : Immunogenicity and anti-fecundity effect of nanoparticle coated SjGST DNA vaccine against murine *Schistosoma japonicum* infection. 第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会, 東京女子医科大学弥生記念講堂・国立国際医療研究センター, 東京, 2014年10月1日～10月3日. プログラム抄録集 官民連携時代における人材育成, p.268
- 110) **Mahamoud Sama Cherif, Mohammed Nasir Shuaibu, Yukinobu Kodama, Evaristus Chibunna Mbanefo, Shusaku Mizukami, Akbari Massoud, Mihoko Kikuschi, Tetuo Yanagi, Hitoshi Sasaki, Eduardo Jose Kawasaki, Nguyen Tien Huy, Juntra Karbwang, Kenji Hirayama** : The new safe NP formulated DNA vaccine encoding PYGP18 Transamidase related protein induce protection by increasing DCs but not B cell population. 第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会, 東京女子医科大学弥生記念講堂・国立国際医療研究センター, 東京, 2014年11月1日～11月3日. プログラム抄録集 官民連携時代における人材育成, p.262
- 111) **Aki Takai, B. Kumarendran, Takeshi Kudo, Kensuke Goto, Satoshi Kaneko** : Key factors influencing nursing retention and job satisfaction in a rural and an urban area, Sri Lanka. 第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会, 国立国際医療センター・東京, 2014年11月2日～11月4日.
- 112) **余福 勲, Adungo Ferdinard, 早坂大輔, 森田公一** : Development of monoclonal antibodies against SFTS virus nucleocapsid protein and application in sero-diagnosis. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 横浜市, 2014年11月10日～11月12日.
- 113) **内田玲麻, 浦田秀造, 高松由基, 森田公一, 早坂大輔** : 脂質合成阻害薬によるヒト培養細胞におけるデングウイルス感染抑制. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 横浜市, 2014年11月10日～11月12日.
- 114) **黒崎陽平, 安田二郎** : mTORシグナル阻害による重症熱性血小板減少症候群ウイルスの細胞内増殖への影響. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 横浜市, 2014年11月10日～11月12日.
- 115) **浦田秀造, 安田二郎** : ルジヨウイルスZ及びGPCによる粒子形成・出芽解析. 第62回日本ウ

- イルス学会学術集会, 横浜市, 2014年11月10日～11月12日.
- 116)坂部沙織, 安田二郎: 重症熱性血小板減少症候群 (STFS) マウスモデルの探索. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 横浜市, 2014年11月10日～11月12日.
- 117)宇野有紀子, 曾田公輔, 笛吹達史, 伊藤啓史, 尾崎弘一, 村瀬敏之, 山口剛士, 安田二郎, 伊藤壽啓: H5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスのチョウゲンボウにおける感染病態. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 横浜市, 2014年11月10日～11月12日.
- 118)早坂大輔, 余 福勲, 吉川 亮, 嶋田 聡, Guillermo Posadas Herrera, Mya Myat NgweTun, 吾郷昌信, 森田公一: 長崎県における野生動物およびマダニのSFTSウイルス感染状況の調査. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 横浜市, 2014年11月10日～11月12日.
- 119)吾郷昌信, 北川由美香, 松本文昭, 吉川 亮, 陣内久美子, 森内浩幸, 永田典代, 清水博之, 森田公一: 新生児重症感染症を惹起したコサッキーウイルスB2型の性状解析. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 横浜市, 2014年11月10日～11月12日.
- 120)坂口美亜子, 宮崎直幸, 藤岡 壽, 金子 修, 村田和義: SBF-SEMを用いたマラリア感染赤血球の三次元観察とストラクチャー解析. 2014年度生理研研究会, 岡崎市, 2014年11月12日～11月13日.
- 121)橋爪真弘: バングラデシュにおける水系感染症. 第79回日本民族衛生学会総会, 茨城県, つくば市, 筑波大学, 2014年11月21日.
- 122)比嘉由紀子, Ana Paula Abilio, 二見恭子, Manuel Alberto Felix Lazaro, 皆川 昇, Eduardo Samo Gudo: モザンビークのデング熱流行地におけるネッタイシマカの亜種構成について. 第67回日本寄生虫学会南日本支部大会・第64回日本衛生動物学会南日本支部大会, 那覇市, てんぶす那覇, 2014年11月23日～11月24日. プログラム講演要旨 p.5 衛生動物 5 講演要旨 p.25 衛生動物 4
- 123)今西 望, 比嘉由紀子, 砂原俊彦, 皆川 昇: An. sineroides エセシナハマダラカの疾病媒介能力に関する考察. 第67回日本寄生虫学会南日本支部大会・第64回日本衛生動物学会南日本支部大会, 那覇市, てんぶす那覇, 2014年11月23日～11月24日. プログラム講演要旨 p.5 衛生動物 5 講演要旨 p.26 衛生動物 4
- 124)砂原俊彦: ヒトスジシマカの宿主と遭遇するまでの待ち時間の推定法 (続報). 第67回日本寄生虫学会南日本支部大会・第64回日本衛生動物学会南日本支部大会, 那覇市, てんぶす那覇, 2014年11月23日～11月24日. プログラム講演要旨 p.5 衛生動物 5 講演要旨 p.27 衛生動物 4
- 125)加藤健太郎, Bhim G. Dhouhadel, 藤井仁人, 橘 裕司: 赤痢アマーバレクチン(Ig1)のレクチン領域解析. 第37回日本分子生物学会年会, 横浜市, 2014年11月25日～11月27日. 第37回日本分子生物学会年会 117
- 126)川田 均, 比嘉由紀子, 二見恭子, 皆川 昇: RAPD-PCRによる熱帯シマカsubspecies同定の試み. 第26回日本環境動物昆虫学会, 長崎市, 長崎大学教育学部, 2014年11月29日～11月30日.
- 127)角田 隆, Vu Trong Duoc, Tran vu Phong, 皆川 昇: ベトナム国ハノイにおけるデング熱媒介蚊対策について. 第26回日本環境動物昆虫学会, 長崎市, 長崎大学教育学部, 2014年11月29日～11月30日.
- 128)Martha T Lemma,, Eduardo Kawasaki, Nguyen Tien Huy, Juntra Laothavon,

- Hirayama Kenji** : Medical plants with promising in vitro antiplasmodial activity for further experimenting: A systematic review. NEKKEN/WAKANKEN JOINT SEMINAR, 第4回交流セミナー, 熱帯医学と和漢薬研究の新展開—新しい医療体系の構築をめざして—, 富山大学和漢医薬学総合研究所, 民族薬物資料館3階会議室, 2014年12月8日. 共同利用・共同研究拠点「和漢薬の化学基盤形成拠点」, p.31
- 129) **平山謙二, Oumer Ahmed, Jemal Hussein, Kesara Na-Bangchang, Panida Kongiam, Abraham Asseffa and Juntra Karbwang** : エチオピアの限局型皮膚リーシュマニア症に対する紫雲膏の治療効果判定のための一日2回4週間塗布法による第2相プラシボ対照ランダム割り付け2重盲検法による臨床試験—伝承薬のICH-GCPに基づく治療効果判定の試み—. NEKKEN/WAKANKEN JOINT SEMINAR, 第4回交流セミナー, 熱帯医学と和漢薬研究の新展開—新しい医療体系の構築をめざして—, 富山大学和漢医薬学総合研究所, 民族薬物資料館3階会議室, 2014年12月8日. 共同利用・共同研究拠点「和漢薬の化学基盤形成拠点」, p.33
- 130) **Kenji Hirayama, Nguyen Thi Phuong Lan, Thuong Van Nguyen, Thanh Le Chi, Thang Minh Cao, Nhon Cao Thi My, Nhung Cao Thi Hong, Mai Thi Nguyen, Truong Quang Nguyen, Ngu Vu Thien Thu, Quoc Kien Do, Ha Tran Thi Ngoc, Huy Tien Nguyen, Ton Tran, Quang Chan Luong, An Van Tran, Huong Vu Thi Que, Shusaku Mizukami, Dao Huy Manh, Juntra Karbwang** : Peripheral T cell dynamics correlate to disease severity in Dengue fever. 第43回日本免疫学会学術集会, 国立京都国際会館, 京都, 2014年12月10日~12月12日.
- 131) **濱口杉大, Ngo Chi Cuong, Doan Thu Tra, Yen Hai Doan, 清水健太, Nguyen Quang Tuan, 吉田レイミント, Le Quynh Mai, Dang Duc Anh, 安藤秀二, 有川次郎, Christopher M Parry, 有吉紅也, Pham Thanh Thuy** : 北ベトナムにおけるツツガムシ病とネズミ発疹熱の臨床疫学像の検討. 第21回リケッチケア研究会, 東京, 2014年12月20日~12月21日.
- 132) **森田公一** : デングウイルス感染の自然免疫系抑制機構の解明. 第46回九州微生物研究会総会, 福岡市2014年12月22日.

10. 3 国際会議における研究発表

- 1) **Eugenio Fonzi, Kyoko Futami, Yukiko Higa, Steve Gowell, Jinping Hu, Dyllo Pemba, Noboru Minakawa** : Population structure of the vector mosquito *Aedes aegypti* in Malawi. The 47th Population Genetics Group Meeting, Bath assembly room, UK, 2014.1.7~1.10.
- 2) **Yoshida LM** : Clinical and Molecular Characterization of Influenza Viruses from a Population Based Cohort Study in Central Vietnam. Working Group Meeting on Influenza, Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20.
- 3) **Kalenda Yombo Dan J, Kentaro Kato, Yasuyuki Goto, Yoshito Fuji, Shinjiro Hamano** : Application of tandem repeat recombinant proteins as potential antigens for the sero-diagnostic test of *Schistosoma mansoni* infection. Asia-Africa Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22. Asia-Africa Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014プログラム抄録集
- 4) **Takashi Tsunoda, Tran Chi Cuong, Tran Duc Dong, Nguyen Hoang Le, Tran Vu Phong, Emiko Kawashima, Hanako Iwashita, Noboru Minakawa** : Blood feeding activity of *Aedes aegypti* and *Ae. albopictus* mosquitoes in Hanoi. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
- 5) **Thuong Van Nguyen, Lan Nguyen Thi Phuong, Thanh Le Chi, Thang Minh Cao, Nhon Cao Thi My, Nhung Cao Thi Hong, Mai Thi Nguyen, Truong Quang Nguyen, Ngu Vu Thien Thu, Quoc Kien Do, Ha Tran Thi Ngoc, Huy Tien Nguyen, Ton Tran, Mihoko Kikuchi, Quang Chan Luong, An Van Tran, Huong Vu Thi Que, Kouichi Morita, Kenji Hirayama** : Cell-mediated Immunity in Dengue Virus Infection ? Increase of Activated Th1 and CD8 Effector T Cells on Day -1 of Defervescence Indicates Protection against Severe form of Dengue. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 新興・再興感染症に関する アジア・アフリカリサーチフォーラム 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
- 6) **Nguyen Thi Thu Thuy, Takeshi Nabeshima, Guillermo Posadas-Herrera, Dang Thi Dinh, Maria Terrese G. Alonzo, Lady-Anne C. Suarez, Mya Myat Ngwe Tun, Nguyen Le Khanh Hang, Pham Hoai Linh Ly, Le Thi Quynh Mai, Corazon C. Buerano, Filipinas F. Natividad, Futoshi Hasebe and Kouichi Morita** : Changing Pattern of DENV Serotypes in Vietnam. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 新興・再興感染症に関する アジア・アフリカリサーチフォーラム 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
- 7) **Le Nhat Minh, Wadagni Anita, Motoi Suzuki, Nguyen Hien Anh, Ai Thi Thuy Nguyen, Vu Dinh Thiem, Le Huu Tho, Moriuchi H, Ariyoshi K, Dang Duc Anh and Yoshida LM** : Clinical characteristic and Molecular epidemiology of Human Respiratory Syncytial Virus in Vietnamese Children. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging

- Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
- 8) **Mitsuru Toda, Ian Njeru, Shikanga O-Tipo, David Kareko, Matilu Mwau, Shingo Inoue, Yoshio Ichinose, Kouichi Morita** : Establishing a Disease Outbreak Alert System in Kenya: Findings from the Baseline Survey. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 新興・再興感染症に関する アジア・アフリカリサーチフォーラム 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
 - 9) **Yoshida LM** : Etiology of Bacterial pneumonia in children Why such a low detection rate by the blood culture?. Working Group Meeting on non-influenza respiratory infection, Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20.
 - 10) **Kensuke Goto, Morris Ndemwa, Sheru Wanyua, Satoshi Kaneko, Mohamed Karama, Yoshio Ichinose, Masaaki Shimada** : Fact finding study of Jigger infection in south-eastern Kenya based on big resident data from HDSS. Asia-Africa Research Forum, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
 - 11) **N. Minakawa, K Futami, P Akweywa, C Mwatele, S Njenga, N Minakawa** : Habitat selection of two subspecies of *Aedes aegypti* in western Kenya. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
 - 12) **N Minakawa, K Futami, P Akweywa, S Njenga, N Minakawa** : Malaria vectors in Nairobi. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
 - 13) **Yasunami M, Miyahara R, Yoshida LM, Nakamura H, Takahashi K, Vu Dinh Thiem, Trinh Xuan Mai, Bui Trong Chien, Dang Duc Anh, Le Huu Tho, Moriuchi H, Ariyoshi K** : Nha Trang Birth Cohort Study a prospective study for the identification of risk factors for childhood infection/infectious diseases. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
 - 14) **Nguyen Tien Huy, Nguyen Thanh Hong Thao, Tran Thi Ngoc Ha, Nguyen Thi Phuong Lan, Phan Th? Thanh Nga⁶, Tran Thi Thuy, Ha Manh Tuan, Cao Thi Phi Nga, Vo Van Tuong, Tran Van Dat, Vu Thi Que Huong, Juntra Karbwang, and Kenji Hirayama** : Prognostic prediction of re-shock during a patient' s first dengue shock episode. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22. Science for Saving Lives, Asian—African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections p.132
 - 15) **Thuong Van Nguyen, Lan Nguyen Thi Phong, Thanh Le Chi, Thang Minh Cao, Nhon Cao Thi My, Nhung Cao Thi Hong, Mai Thi Nguyen, Truong Quang Nguyen, NguVu Thien Thu, Quoc Kien Do, Ha Tran Thi Ngoc, Huy Tien Nguyen, Ton Tran, Mihoko Kikuchi, Quang Chan Luong , An Voan Tran, Huong Vu Thi Que, Kouichi Morita, Kenji Hirayama** : Cell-mediated Immunity in Dengue Virus Infection-Increase of Activated Th1 and Cd8 Effector T Cells on Day-1 of Defervescence Indicates Protection against Severe form of Denu. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF)

- 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22. Science for Saving Lives, Asian–African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections p.117
- 16) **Yoshida LM** : RSV Disease Burden & Genotyping of RSV : Population Based Hospitalized Pediatric Acute Respiratory Infection Surveillance in Central Vietnam. Working Group Meeting on non-influenza respiratory infection, Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2014, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20.
 - 17) **Satoshi Kaneko, Yoshito Fujii, Satoshi Kaneko, Samson Muuo Nzou, Matilu Mwau, Sammy M. Njenga, Chihiro Tanigawa, James Kimotho, Anne Wanjiru Mwangi, Ibrahim Kiche, Sohkiichi Matsumoto, Mamiko Niki, Osada-Oka Mayuko, Yoshio Ichinose, Manabu Inoue, Makoto Itoh, Hiroshi Tachibana, Kazunari Ishii, Takafumi Tsuboi, Lay Myint Yoshida, Dinesh Mondal, Rashidul Haque, Shinjiro Hamano, Mwatasa Changoma, Tomonori Hoshi, Ken-ichi Kamo, Mohamed Karama, Masashi Miura, Kenji Hirayama** : Serological surveillance development for tropical infectious diseases using simultaneous microsphere-based multiplex assays. Asia-Africa Research Forum, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
 - 18) **Mohammad Shah, Erick Odoyo, Amina Galata, Cyrus Kathiiko, Gabriel Miringu, Yosio Ichinose** : The emergence of *Providencia alcalifaciens*, a food born pathogen causes diarrhea among children in Kiambu, Kenya, between 2012-2013. The Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections, Sendai International Center, Sendai, Japan, 2014.1.20~1.22.
 - 19) **Yahata K** : Imaging of malaria parasite's behavior in the red blood cell. The 17th SANKEN International Symposium 2014, The 2nd International Symposium of Nano-Macro materials Devices and System Research Alliance Project, Icho Kaikan, Osaka University, Japan, 2014.1.21~1.22.
 - 20) **Kenji Hirayama** : A gene family encoding membrane or secreting proteins with lectin-like and hemebinding properties from human blood fluke, *Schistosoma japonicum*. 16th International Conference on Emerging Infectious Diseases in the Pacific Rim Antimicrobial Drug Resistance in Bacterial and Parasitic Diseases, icddr, b, 68 Shaheed Tajuddin Ahmed Sarani, Mohakhali, Dhaka 1212, Bangladesh, 2014.2.9~2.11.
 - 21) **Nguyen Tien Huy, Kenji Hirayama** : High-Throughput Screening of Small Molecule Chemical Library for Novel Antimalarials. 16th International Conference on Emerging Infectious Diseases in the Pacific Rim Antimicrobial Drug Resistance in Bacterial and Parasitic Diseases. , icddr, b, 68 Shaheed Tajuddin Ahmed Sarani, Mohakhali, Dhaka 1212, Bangladesh, 2014.2.9~2.11.
 - 22) **Mohammad Shah, Erick Odoyo, Ernest Apondi, Amina Galata, Cyrus Kathiiko, Gabriel Miringu, Yoshio Ichinose** : The emergence of *Providencia alcalifaciens*, a food-borne pathogen causes diarrhea among children in Kiambu, Kenya, between 2012-2013. 16th international Conference on Emerging Infectious Diseases in the Pacific Rim, United States-Japan Cooperastive Medical Sciences Program, Bangladesh, Dhaka, 2014.2.9~2.13.
 - 23) **Chikako Shimokawa, Shinjiro Hamano** : Species-specific immunity induced by infection with *Entamoeba histolytica* and *Entamoeba moshkovskii* in mice. US-Japan panel meeting, Bangladesh, 2014.2.11.
 - 24) **Masahiko Mori, Nuanjun Wichukchinda, Reiko Miyahara, Archawin**

- Rojanawiwat, Panita Pathipvanich, Tomoyuki Maekawa, Philip Goulder, Michio Yasunami, Koya Ariyoshi, and Pathom Sawanpanyalert** : “HLA-B*35:05 is a protective allele with a unique structure amongst CRF01_AE-infected Thais. CROI: Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections, Boston, USA, 2014.3.3~3.6.
- 25) **Nguyen Tien Huy, Pham Lan chi, Jun Nagai, Kaneko Kamei, Juntra Karbwang, Hiroshi Ueda and Kenji Hirayama** : High throughput screening of small molecule chemical library for novel Antimalarial. The 1st International Symposium, Dejima Challenge for Therapeutic Innovation, Nagasaki University Therapeutic Innovation Center (NUThIC), Nagasaki University Bunkyo Sky Hall, 2014.3.14~3.14. The 1st International Symposium, Dejima Challenge for Therapeutic Innovation, Program and Abstract, Nagasaki University Therapeutic Innovation Center (NUThIC), March 14, 2014, p.9
- 26) **Samson Muuo Nzou, Yoshito Fujii, Masashi Miura, Mutil Mwau, Satoshi Kaneko.** : Development of purified recombinant antigens for human African trypanosomes. 16th International Congress on Infectious Diseases, Cape Town International Convention Centre, Cape Town, 2014.4.2~4.5.
- 27) **Hashizume M** : Indian Ocean Dipole and Infectious Disease Dynamics in Tropical Asia and Africa. 5th Asia-Pacific Conference on Public Health, Olympic Parktel, Seoul Korea, 2014.4.10~4.11.
- 28) **Satoshi Kaneko, Chiho Watanabe, Futoshi Nishimoto, Bumpei Tojo, Jiang HongWe, Tiengkham Pongvongsa, Kazuhiko Moji** : Population health and global data sciences in GRENE Ecohealth project. Japan Geoscience Union Meeting 2014, パシフィコ横浜, 2014.4.28~5.2.
- 29) **Toizumi M, Motomura H, Vo Minh Hien, Pham Enga, Kaneko K, Uematsu M, Ikeda S, Hashizume M, Le Huu Tho, Dang Duc Anh, Moriuchi H, Yoshida LM** : High Incidence and Mortality of Congenital Rubella Syndrome in Central Vietnam: A Two-year Follow-up Report. Pediatric Academic Societies and Asian Society For Pediatric Research, JOINT MEETING 2014, Vancouver Convention Centre, Canada, 2014.5.3~5.6.
- 30) **Sugihiro Hamaguchi, Masahiro Aoshima, Koya Ariyoshi, Norichika Asoh, BhimG. Dhoubhadel, Naoto Hosokawa, Masayuki. Ishida, Norihiro Kaneko, Motoi Suzuki, Kenzo Tanaka, Konosuke Morimoto, Yoshihito Otsuka, Eiichiro Sando, Takao Wakabayashi, Makito Yaegashi, Laymyint Yoshida** : Adult Pneumonia Study Group-Japan (APSG-J), “Clinical Characteristics And Mortality-related Factors Of Elderly People With Pneumonia”. ATS 2014 International Conference, San Diego, USA, 2014.5.16~5.21.
- 31) **Kawada H** : Possible new controlling measures for the pyrethroid-resistant malaria vectors. Beating Malaria-London 2014, The O2, Peninsula Square, London, UK, 2014.7.1~7.3.
- 32) **Tsunoda T, Takahashi M** : Trombiculid mites in association with sika deer in Boso Peninsula, Japan. XIV International Congress of Acarology, Kyoto, Japan, 2014.7.14~7.18.
- 33) **Saori Sakabe, Jiro Yasuda** : Antiviral activities of Tetherin/BST-2 against influenza virus in vitro and in vivo. The XIVth IUMS 2014 International Unions of Microbiological Societies, Montreal, Canada, 2014.7.27~8.1.
- 34) **Y Morinaga, M Sekino, M Okamoto, Y Katagami, K Ishihara, K Tsuruda, M Uno, K**

- Kosai, H Hasegawa, T Hara and K Yanagihara** : Immunological monitoring of circulating regulatory T cells in sepsis. Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy, 54th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy, Washington, DC, USA, 2014.8.6.
- 35) **Pandey K, Ferreira PE, Yahata K, Kaneko O** : Calcium signaling in the malaria parasites for the drug development. 13th International Congress of Parasitology, Hotel Camino Real, Mexico City, Mexico, 2014.8.10~8.15.
- 36) **Asada M, Goto Y, Yahata K, Yokoyama N, Inoue N, Kaneko O, Kawazu S** : Gliding motility of *Babesia bovis* merozoites. 13th International Congress of Parasitology, Hotel Camino Real, Mexico City, Mexico, 2014.8.10~8.15.
- 37) **Hirayama K, Kodama Y, Cherif MS, Mbanefo EC, Kumagai T, Furushima-Shimogawara R, Kurosaki T, Yanagi T, Sasaki H, Yui K, Huy NT, Karbwang J, Ohta N.** : Nano-ball consisted of inner cationic Dendri-grafted poly L-lysines (DGL) or polyethyleneimine (PEI) and outer anionic γ -polyglutamic acid (γ -PGA) enhanced plasmid based DNA vaccines against experimental malaria and schistosomiasis. The 13th International Congress of Parasitology (ICOPA). August 10-15, 2014. , Camino Real Hotel, Mexico, 2014.8.10~8.15.
- 38) **Hakimi H, Suganuma K, Usui M, Masuda-Suganuma H, Angeles JMM, Asada M, Sawai S, Inoue N, Kawazu S** : *Plasmodium knowlesi* thioredoxin peroxidase 1 binds to nucleic acids and has RNA chaperone activity. 13th International Congress of Parasitology, Hotel Camino Real, Mexico City, Mexico, 2014.8.10~8.15.
- 39) **Toru Watanabe, Chiho Watanabe, Kensuke Fukushi, Satoshi Kaneko, Shinya Yasumoto, Hein Mallee, Yuki Fukushi, Minato Nakazawa, Megumi Sato, Futoshi Nishimoto, Junko Okumura, Kazumi Natsuhara, Jiang Honwei, Bunpei Tojo, Yukihiro Kohmatsu, Toshifumi Minakoto, Jun Kobayashi, Takashi Asakura, Taro Yamamoto, and Kazuhiko Moji** : Evolution Biology/Medicine and Ecohealth(by T.Yamamoto). EcoHealth2014, カナダ, ケベック大学モントリオール校, 2014.8.11~8.15.
- 40) **Tomo Ichikawa** : Quarantine and the establishment of the Meiji Japan. Conference"Quarantint : History, Heritage, Place 14-16th August 2014 Sydney, オーストラリア シドニー, 2014.8.14~8.18.
- 41) **Tomonori Hoshi, Chihiro Tanigawa, Masashi Miura, Samson M Nzou, Kiche O Ibrahim, Matilu Mwau, Yoshito Fujii, Kensuke Goto, Satoshi Kaneko** : Spatial clusters of HIV-negative and HIV-positive populations in a highly endemic area of Western Kenya. The 20th IEA World Congress of Epidemiology, Anchorage, Alaska, USA, 2014.8.17~8.21.
- 42) **Hashizume M, Nishiwaki Y, Kim H, Kan H, Guo YL, Wu CF, Ueda K, Honda Y, Bell M: Health Effects of Asian Dust** : a Systematic Review. The 26th International Society for Environmental Epidemiology, Seattle, USA, 2014.8.24~8.28.
- 43) **Imai C, Armstrong B, Chalabi Z, Mangtani P, Hashizume M** : Issues and Solutions: Application of Traditional Time-Series Regression Models for Study of Environmental Determinants of Infectious Diseases. The 26th International Society for Environmental Epidemiology, Seattle, USA, 2014.8.24~8.28.
- 44) **Hashizume M, Imai C** : Vector-Borne Diseases in the WHO Western Pacific Region (WPRO).

- The 26th International Society for Environmental Epidemiology, Symposium: Climate Change and Health in the Western Pacific., Seattle, USA, 2014.8.24~8.28.
- 45) **Ernest W Apondi, Koki Taniguchi, Satoshi Komoto, Yoshimasa Maeno, Mitsutaka Wakuda, Mohammad Shah, Kouichi Morita, Yoshio Ichinose** : Genetic Diversity of Group A Rotavirus Strains Circulating in Central Kenya (Jan-Dec, 2012). 11th International Rotavirus Symposium, India, 2014.9.3~9.5.
 - 46) **Sakaguchi M, Miyazaki N, Fujioka H, Kaneko O, Murata, K** : 3D structural analysis of malaria parasite-infected red blood cells by SBF-SEM. 18th International Microscopy Congress, Prague, Czech Republic, 2014.9.7~9.12.
 - 47) **Allan Ole Kwallah, Shingo Inoue, Ann Muigai, Matilu Mwwau** : Novel Approaches in the Detection of Yellow Fever Virus in Febrile Patients Visiting Selected Health Facilities in Western Kenya. 19th International Scientific Conference, Mayfair Hotel, Nairobi, Kenya, 2014.9.11~9.13.
 - 48) **Mutungu JK, Yahata K, Sakaguchi M, Kaneko O** : Characterization of PyRON5, a Plasmodium yoelii rhoptry neck protein. 25th Annual Molecular Parasitology Meeting, Marine Biological Laboratory, Woods Hole, MA, USA, 2014.9.14~9.18.
 - 49) **Yahata K, Pandey K, Ferreira P, Kaneko O** : Evaluation of Ca²⁺ Oscillation in Plasmodium falciparum through Yellow Cameleon-Nano Biosensors. 25th Annual Molecular Parasitology Meeting, Marine Biological Laboratory, Woods Hole, MA, USA, 2014.9.14~9.18.
 - 50) **Junko Okumura** : Post-disaster essential medicine model list and way forward to establish an efficient medical supply system in Japan. The 12th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (Takashi Ukai presented for Okumura due to her work at Geneva)., Tokyo, Japan, 2014.9.17~9.19.
 - 51) **Clara Vasquez Velasquez, Kenji Hirayama, Arthur Dessi Roman, Lan T P Nguyen, Huy T Nguyen, Edelvisa S Mercado, Fe Esperanza Espino, Ma Lucila M Perez, Huong T Q Vu, Thuy T, Tran, Than D Vo, Nga T PCao, Ha T N Tran, Josie M Bilar, Jeminah D P Bajaro, Benilda W Basello, Mihoko Kikuchi, Michio Yasunami, Kouichi Morita, Caohiro Watanabe, Juntra Karwang** : Association study of mast cell related genes polymorphism, CMA1 promoter region at-1903G/A and alleles of TPSAB1 gene with severe forms of Dengue virus infection in Vietnam and Philippines. The 13th Awaji International Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural new Public Hall, Japan, 2014.9.23~9.26. p.110
 - 52) **Sugihiro Hamaguchi, Pham Thanh Thuy, Ngo Chi Cuong, Nguyen Thi Huong Giang, Kenta Shimizu, Nguyen Quang Tuan, Lay-Myint Yoshida, Le Mai Quynh, Dang Duc Anh, Shuji Ando, Joro Arikawa, Koya Ariyoshi** : “Clinical Characteristics of Rickettsioses among Hospitalized Patients with Acute Undifferentiated Fever in Northern Vietnam”. The 13th Awaji International Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural new Public Hall, Japan, 2014.9.23~9.26.
 - 53) **Mahamoud Sama Cherif, Mohammed Nasir Shuaibu, Yukinobu Kodama, Gideon Kofi Helegbe Mihoko Kikuchi, Mbanefo Evaritus Chibonna, Massoud Abkari, Shusaku Mizukami, Campos Eduardo Kawasaki, Tetsuo Yanagi, Hitoshi Sasaki, Katsuyuki Yui, Nguyen Huy Tien, Juntra Karbwang, Kenji Hirayama** :

- Bioequivalence of two different Nanoparticle delivery systems formulated with Plasmodium yoelii-Transamidase related protein DNA vaccine in the mouse model. The 13th Awaji International Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural New Public Hall, Nara, Japan, 2014.9.23~9.26. pp74
- 54) **Shusaku Mizukami, Nguyen Thi Phuong Lan, Thuong Van Nguyen, Thanh Le Chi, Thang Minh Cao, Nhon Cao Thi My, Nhung Cao Thi Hong, Mai Thi Nguyen, Truong Quang Nguyen, Ngu Vu Thien Thu, Quoc Kien Do, Ha Tran Thi Ngoc, Huy Tien Nguyen, Ton Tran, Quang Chan Luong, An Van Tran, Huong Vu Thi Que, Dao Huy Manh, Juntra Karbwang, Kenji Hirayama** : Peripheral T cell dynamics correlates to disease severity in Dengue fever. The 13th Awaji International Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural New Public Hall, Nara, Japan, 2014.9.23~9.26. p.74
- 55) **Leo Uchida, Lyre Anni Espada-Murao, Yuki Takamatsu, kenta okamoto, Daisuke Hayasaka, Fuxun Yu, Takeshi Nabeshima, Corazon C. Buerano, Kouichi Morita** : Dengue virus conceals double-standed RNA in intracellular membrane to escape from interferon response. The 13th Awaji international Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural new Public Hall, Japan, 2014.9.23~9.26.
- 56) **Pandey K, Ferreira PE, Yahata K, Kaneko O** : Distinct response of Plasmodium falciparum against inhibitors for sarco/endoplasmic reticulum Ca²⁺-ATPase. The 13th Awaji International Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural New Public Hall, Nara, Japan, 2014.9.23~9.26. P.53
- 57) **Mutungu JK, Yahata K, Sakaguchi M, Kaneko O** : Isolation of viable and invasive Plasmodium yoelii merozoites. The 13th Awaji International Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural New Public Hall, Nara, Japan, 2014.9.23~9.26. P.49
- 58) **Mohammad M Shah, Cyrus Kathiiko, Erick Odoyo, Gabriel Miringu, Yoshio Ichinose** : Prevalence of enteric bacterial pathogens among hospitalized children with acute diarrhea in suburban regions of central Kenya. The 13th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Nara Prefectural New Public Hall, Nara, Japan, 2014.9.23~9.26.
- 59) **Ngwe Tun mya Myat, Kotaro Aoki, Masachika Senba, Kouichi Morita, Daisuke Hayasaka** : TNF- α and IL-10 reduce the incidence of mortality in mice infected with Tick-borne encephalitis. virus The 13th Awaji international Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural New Public Hall, Nara, Japan, 2014.9.23~9.26.
- 60) **Boampong JN, Asare KK, Afoakwah R, Ameyaw EO, Sehgal R, Quashie NB** : Use of proscribed chloroquine is associated with an increased risk of pfprt t76 mutation in some parts of Ghana. The 13th Awaji International Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural New Public Hall, Nara, Japan, 2014.9.23~9.26. P.46
- 61) **Mitsuru Toda, Ian Njeru, Shikanga O-Tipo, David Kareko, Matilu Muwau, Shingo Inoue, Kouichi Morita** : Using a mobile short message-based disease outbreak alert system to enhance disease surveillance in. Kenya The 13th Awaji international Forum on Infection and Immunity in Nara, Nara Prefectural new Public Hall, Japan, 2014.9.23~9.26.
- 62) **Hashizume M, Hashizume M** : Epidemiological Studies on the Association between Weather,

- Flooding and Diarrhea in Low-income Settings. 2014 Water & Health Conference. A side event on Climate Change & Diarrheal Disease, Chapel Hill, NC, USA, 2014.10.13~10.17.
- 63) **山本太郎** : A History of Infectious Diseases and Civilization: Conquest or Co-existence?. Asian Society of Zoo and Wildlife Medicine (2014 meeting in Vietnam), ベトナム タムダオ国立公園, 2014.10.14~10.16.
- 64) **E A Wandera, M Shah, S Komoto, J Nyangao, C Kathiiko, E Odoyo, K Morita, K Taniguchi, Y Ichinose** : Genetic Diversity of Group A Rotavirus Strains Circulating in Central Kenya (Jan-Dec, 2012). 3rd Medical and Veterinary Virus Research Symposium, ナイロビ, 2014.10.16~10.17.
- 65) **Junko Okumura, Futoshi Nishimoto, Tiengkham Pongvongsa, Sengchanh Kounavong, Satoshi Kaneko, Miki Miyoshi, Kazuhiro Moji** : Interim report on child health survey in Xepon district, Savannaketh Province, Lao PDR. The 8th National Health Research Forum to support the Health Research in Laos Session 8: Maternal and Child Health, NIOPH, Vientiane, Lao PDR. (Miki Miyoshi presented for Okumura due to her work at Geneva)., Laos, 2014.10.16~10.17.
- 66) **Satoshi Kaneko, Chiho Watanabe, Futoshi Nishimoto, Bumpei Tojo, Jiang HongWei, Tiengkham Pongvongsa, Kazuhiko Moji** : Population Health And Global Data Sciences: Grene Ecohealth Project In Lao R P D. 8th Lao National Health Research Forum, National Institute of Public Health Vientiane, Lao PDR, 2014.10.16~10.17.
- 67) **Cherif MS, Cherif MS** : Strategy for late blood stage expressed gene selection. Wellcom trust advance workshop “Working with Parasite Database Resources”. , Wellcome Trust Genome Campus, Hinxton, Cambridge, UK, 2014.10.19~10.24.
- 68) **Cherif MS, Shuaibu MN, Kodama Y, Kurosaki T, Helegbe GK, Mbanefo EC, Kikuchi M, Yanagi T, Sasaki H, Yui K, Huy NT, Karbwang J, Hirayama K** : A new malaria vaccine candidate, GPI protein transamidase related protein showed good protective immune response in mouse model. The 63rd Annual Meeting ASTMH, Sheraton New Orleans Hotel and New Orleans Marriott Hotel, New Orleans, USA, 2014.11.2~11.6. The 63rd Annual Meeting ASTMH, Sheraton New Orleans Hotel and New Orleans Marriott Hotel, New Orleans, USA. 2-6th Nov, 2014., Abstract, p. 299
- 69) **Mohammed Jalaleideen Abdulgadir, Tomonon Hoshi, Kenji Hirayama, Satoshi Kaneko** : Degitized data from rural Africa; A field application of open data kit (ODK) to collect baseline health data in Eastern Sudan new halfa locality . The 63rd Annual Meeting ASTMH, Sheraton New Orleans Hotel and New Orleans Marriott Hotel, New Orleans, USA, 2014.11.2~11.6. (The 63rd Annual Meeting ASTMH, Sheraton New Orleans Hotel and New Orleans Marriott Hotel, New Orleans, USA. 2-6th Nov, 2014., Abstract, p. 325)
- 70) **Luis F.Chaves, Luis F Chaves, Azael Saldana, Indra Rodriguez, Kadir Gonzalez, Chystire Rigg, Vanessa Pineda, Marcia D Laurenti, Jose E Calzada** : Dog serology for cutaneous leishmaniasis is associated with sand fly vector abundance and suggests endemic transmission in rural Panam? American Society of Tropical Medicine & Hygiene (ASTMH), 63rd Annual Meeting, New Orleans, LA USA, 2014.11.2~11.6.

- 71) **Gideon K Helegbe, Nguyen T Huy, Tetsuo Yanagi, Mohammed N Shuaibu, Mihoko Kikuchi, Mohamoud S Cherif, Hirayama K** : Elevated levels of IL 17 and ITS association with low haemoglobin in semi-immune mice infected with plasmodium berghei anka. The 63rd Annual Meeting ASTMH, Sheraton New Orleans Hotel and New Orleans Marriott Hotel, New Orleans, USA., 2014.11.2~11.6. The 63rd Annual Meeting ASTMH, Sheraton New Orleans Hotel and New Orleans Marriott Hotel, New Orleans, USA. 2-6th Nov, 2014., Abstract, p.120
- 72) **Mbanefo EC, Kumagai T, Kodama Y, Ohta N, Sasaki H, Hirayama K** : Immunogenicity and anti-fecundity effect of nanoparticle-coated glutathione S-transferase (SjGST) DNA vaccine against murine Schistosoma japonicum infection. The 63rd Annual Meeting ASTMH, Sheraton New Orleans Hotel and New Orleans Marriott Hotel, New Orleans, USA. , 2014.11.2~11.6. The 63rd Annual Meeting ASTMH, Sheraton New Orleans Hotel and New Orleans Marriott Hotel, New Orleans, USA. 2-6th Nov, 2014., Abstract, p.10
- 73) **Eugenio Fonzi, Yukiko Higa, Arlene Bertuso, Emiko Kawashima, Kogomi Minagawa, Kyoko Futami, Jinping Hu, Noboru Minakawa** : Population structure of the vector mosquito Aedes aegypti and human-mediated dispersal in the Philippine archipelago. American Society of Tropical Medicine & Hygiene (ASTMH), 63rd Annual Meeting, New Orleans, LA USA, 2014.11.2~11.6.
- 74) **Tomonori Hoshi, Nozomi Imanishi, Yukiko Higa, Luis Ferenado Chaves** : Mosquito species diversity patterns in an urban environment of Okinawa, Japan. The Entomological Society of America, ポートランド (アメリカ) , 2014.11.16~11.19.
- 75) **Yoshihara K, Le MN, Nguyen HA, Toizumi M, Pham E, Suzuki M, Nguyen TT, Okamoto M, Oshitani H, Moriuchi H, Hashizume M, Dang DA, Ariyoshi K and Yoshida LM** : Association of Newly Emerging RSV-A ON1 genotype with Pediatric ARI Hospitalization and Lower Respiratory Tract Infection in Central Vietnam. 15th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection., Kuala Lumpur, Malaysia, 2014.11.26~11.29.
- 76) **Takahashi N, Nakao R, Ueda K, Ono M, Masahide M, Honda Y, Hashizume M** : Behavior and knowledge change in elderly people against heat: a community trial. 2014 Conference of International Society for Environmental Epidemiology Asia Chapter, Shanghai, China, 2014.11.29~12.2.
- 77) **Hashizume M** : Climate, climate change and diarrhea in low-income settings -time-series regression analysis-. 2014 Conference of International Society for Environmental Epidemiology Asia Chapter., Shanghai, China, 2014.11.29~12.2.
- 78) **Chaves LF.** : Cutaneous leishmaniasis and sand fly fluctuations are associated with El Nino in Panama. The 13th Asian-Pacific Congress for Parasitic Zoonoses, Taipei Medical University, 2014.11.29~11.30.
- 79) **Hoshi T, Imanisi N, Chaves LF** : Efficient data collection and management using Open Data Kit: Mosquito species composition in Mt. Konpira, Nagasaki, Japan. The 13th Asian-Pacific Congress for Parasitic Zoonoses, Taipei Medical University, 2014.11.29~11.30.
- 80) **Kim Y, Hashizume M, McIver L, Davies GI, Iddings S, Chan V** : Impact of water-related extreme weather on diarrheal disease for children in East Cambodia. 2014 Conference of International

Society for Environmental Epidemiology Asia Chapter, Shanghai, China, 2014.11.29~12.2.

- 81) **Yamada K, Calzada JE, Valderrama A, Hoshi, Minakawa, Cerezo L, Gottdenker N, Saldaria A, Chaves LF** : Spatio-temporal patterns of American Cutaneous Leishmaniasis in Panama: the role of ENSO and housing quality. The 13th Asian-Pacific Congress for Parasitic Zoonoses, Taipei Medical University, 2014.11.29~11.30.
- 82) **Kenji Hirayama** : Schistosomiasis and Malaria Drug and Vaccine Development Using Bioinformatics Approach. 17th Asia-Pacific International Molecular Biology Network (A-IMBN) Annual Conference, St Luke's Medical Center Global City, Manila, Philippines, 2014.12.1~12.2.

10. 4 報告書等印刷物

- 1) **有吉紅也**：ヒトAPOBEC3タンパク質発現とスプライシングパターンの解析. APOBEC3分子のタンパク質レベルの機能性多型を基礎としたHIV-1複製制御機構の分子基盤の解明 平成25年度 総括・分担研究報告書, 2014年3月 pp.25~28
- 2) **橋爪真弘**：東アフリカの高地マラリアとインド洋ダイポールモード現象. 化学療法の領域, 2014年3月 pp.113~120
- 3) **浦田秀造**：細胞内脂質合成を標的とした抗高病原性ウイルス療法の分子基盤. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業, 2014年3月 pp.1~46
- 4) **平山謙二, 狩野繁之, 坪井敬文, 野崎智義, 北 潔**：寄生虫疾患の研究・米側との専門協議. アジア地域にまん延している疾病に関する研究. 分担研究報告書 厚生労働科学研究補助金地球規模保健課題推進研究事業 (国際医学協力研究事業). 平成25年度総括・分担研究報告書. 研究代表者 岩本愛吉, pp.11-14, 東京大学医科学研究所, 平成26 (2014) 年3月発刊, 2014年3月 pp.11~14
- 5) **奥村順子 (監修)**：日本集団災害医学会災害時医薬品検討委員会編:災害時超急性期における必須医薬品モデルリスト第1版. 日本集団災害医学会ホームページに掲載 (<http://square.umin.ac.jp/jadm/iinkai/saigaiji.html>), 2014年4月4日.
- 6) **山本太郎**：ポスト2015ー現代的課題 肥満を例に. 日本医師会特別号, 2014年6月 pp.49~53
- 7) **山本太郎**：雪の上高地. 龍谷大学入試問題 (みすず書房), 2014年7月29日.
- 8) **山本太郎, 和田崇之, 市川智生**：進化とエコヘルス. 医学の歩み 250巻3号, 2014年7月30日.
- 9) **Taro Yamamoto**：Post-2015 Contemporary Issues-The example of obesity-.JMAJ. Vol.57, No.1, Jan.-Feb. 2014, 2014年7月30日.
- 10) **五十嵐理恵, 金子 明, 木俣 勲, 木村政継, 一瀬休生, 上村春樹, 平山謙二**：集団治療実施に関連するヒト・熱帯病マラリア原虫の分子疫学的研究～ビクトリア湖島嶼. 平成25年度 (2013) 熱帯医学研究拠点共同研究報告書, 長崎大学熱帯医学研究所 (全国共同利用研究所), pp85-89, 長崎大学熱帯医学研究所 2014年7月発行, 2014年7月. pp.85~89
- 11) **佐々木 均, Fabio Zicker, 津谷喜一郎, Cristina Torre, Young- Mo Koo, 土田 尚, 楊河宏章, 松山章子, 佐藤 博, 三原華子, Juntra Karbwang, 平山謙二**：医学研究のための倫理に関する国際セミナー. 平成25年度 (2013) 熱帯医学研究拠点共同研究報告書, 長崎大学熱帯医学研究所 (全国共同利用研究所), pp169-182, 長崎大学熱帯医学研究所 2014年7月発行, 2014年7月. pp.169~182
- 12) **山本太郎**： Dengue熱の解説. TBSテレビ「TBS 森本毅郎・スタンバイ!」, 2014年8月28日.
- 13) **山本太郎**： Dengue熱について解説. NHKラジオ「私も一言!」夕方ニュース, 2014年9月9日.
- 14) **山本太郎**：感染症に備える. 時事通信社「時事ドットコム」, 2014年9月29日.
- 15) **平山謙二**： Dengue熱. 【放送予定時間】 テレビ朝日 スーパーJ (全国放送) 平成26年9月3日 (水)18時00分から, 2014年9月3日.
- 16) **平山謙二**： Dengue熱. 【放送予定時間】 NCCスーパーJ長崎 平成26年9月3日(水)18時25分か

ら, 2014年9月3日.

- 17) 平山謙二:「デング熱」のデングとは? 歴史と由来を解説. (09/04 17:03) ANN ニュース
テレビ朝日, 2014年9月4日.
- 18) 平山謙二: デング熱~計36人に, 全て代々木公園. 大分合同新聞, 2014年9月3日. p.29
- 19) 平山謙二: 相次ぐデング熱感染~公園に『好条件』そろそろ, 熱の分布拡大駆除急務. 山陰中
央新聞, 2014年9月3日. p.3
- 20) 平山謙二: 患者発生代々木公園に集中 感染源条件そろそろ「蚊の天国」水場・茂み豊富. 河
北新聞, 2014年9月3日.
- 21) 平山謙二: デング熱感染拡大 代々木公園, 条件そろそろ 水場や茂み豊富/国内外から多数の
人 蚊分布北上, 他地域も注意. 秋田さきがけ新聞, 2014年9月3日. p.22
- 22) 平山謙二: 相次ぐデング熱感染 代々木公園に集中~他地域も注意必要. 千葉日報 2014年
9月3日 p.20, 2014年9月2日. p.20
- 23) 平山謙二: デング熱感染36人に拡大 代々木公園なぜ集中, 蚊・茂み・水場条件そろそろ. 下
野新聞 2014年9月3日 p.2
- 24) 平山謙二: デング熱感染拡大 日本は媒介蚊の天国 代々木公園以外も要注意 日常的な駆
除必要. 高知新聞 2014年9月3日 p.23
- 25) 平山謙二: デング熱 新宿中央公園で感染, 埼玉の男性 代々木公園以外で初. 四国新聞
2014年9月6日. p.29
- 26) 平山謙二: デングウイルス運搬 人か風邪か. 大分合同新聞 2014年9月6日. p.18
- 27) 平山謙二: デング熱 新宿中央公園で感染か, 埼玉の男性 代々木公園以外で初. 熊本日日
新聞 2014年9月6日. p.30
- 28) 平山謙二: デング熱 新宿中央公園で感染~埼玉男性 代々木以外は初. 南日本新聞 2014
年9月6日. p.31
- 29) 平山謙二: デング熱 新宿中央公園で感染~埼玉の男性 代々木以外は初確認. 上毛新聞
2014年9月6日. p.3
- 30) 平山謙二: 代々木講演以外でも感染~デング熱 新宿中央公園か~蚊~風に吹き飛ばされウ
イルス運搬? 河北新聞 2014年9月6日. p.26
- 31) 平山謙二: デング熱, 新宿の公園で感染か, 埼玉の男性代々木公園訪れず, ウイルス運搬風
か人か. 埼玉新聞 2014年9月6日. p.19
- 32) 市川智生, 蔡 国喜, 山本太郎: 中国寒冷高地における身体適応と生活習慣病. 天地人 第
25号, 2014年10月 pp.12~13
- 33) 山本太郎: 「エボラウイルスの必要知識」の特集記事の中でエボラウイルスの対峙方法につ
いて. 週刊新潮, 2014年11月6日. p.148
- 34) 山本太郎: エボラ熱「中国経由の感染リスク警戒を」. 産経新聞 (九州・山口特別版), 2014
年11月5日.
- 35) 平山謙二: 「グローバル感染症としてのエボラ出血熱とデング熱」 DEJIMA TIMES Weekly
No749 11/21, 2014年11月21日.
- 36) 山本太郎: 「エボラ」広げる根源に目を. 毎日新聞, 2014年12月4日. p.12
- 37) 山本太郎: 「エボラ」に関するインタビュー. フライデーダイナマイト, 2014年12月29日.
- 38) 平山謙二: Pfor. Dr. Sulianti Saroso インドネシア国立感染症病院院長らが片峰学長を表敬訪

問. 長崎大学ホームページ, 2014年12月

- 39) **Hashizume M.** (Contributing author) : IPCC, 2014 : Climate Change 2014 : Impacts, Adaptation, and Vulnerability. Part B: Regional Aspects. Contribution of Working Group II to the Fifth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change. Cambridge University Press, Cambridge, United Kingdom and New York, NY, USA, 688, 2014年12月
- 40) **神白麻衣子, 有吉紅也** : デング・重症デング. 日本臨牀, 新領域別症候群シリーズ, 日本臨牀, 2014年12月 pp.428~432
- 41) **有吉紅也, 北庄司絵美, 神白麻衣子** : デング・重症デングの神経症候. 日本臨牀, 新領域別症候群シリーズ, 日本臨牀, 2014年12月 pp.613~617
- 42) **森本浩之輔** : 抗寄生虫 (蠕虫, 原虫) 薬. 今日の治療薬2014, 南江堂, 東京, 2014年12月 pp.123~130
- 43) **森本浩之輔** : 感染症 (蛔虫症~マラリア). 今日の処方改訂第5版, 南江堂, 東京, 2014年12月 pp.781~797
- 44) **森本浩之輔, 鈴木 基, 石藤智子, 阿部昌彦, 浜重直久, 麻生憲史, 青島正大, 有吉紅也** : 病原微生物検出情報 (IASR). 『成人肺炎球菌性肺炎の疫学』 Vol35, 2014年12月 pp.238~239
- 45) **有吉紅也** : コレラ. 今日の治療指針 医学書院, 2014年12月 pp.201~202
- 46) **森本浩之輔** : 抗寄生虫薬. 今日の処方 南江堂, 2014年12月 pp.790~801
- 47) **森本浩之輔** : 抗寄生虫薬. 今日の治療薬 南江堂, 2014年12月 pp.123~130
- 48) **有吉紅也** : 一般内科外来で見逃してはいけない熱帯感染 神戸市医師会報 No.633 平成26年度, 2014年12月 pp.53~63
- 49) **Imakawa K, Kusama K, Yasuda J** : Early placentation and local immune regulation. Reproduction in Domestic Ruminants VIII, 2014年12月 pp.375~386
- 50) **Mondal D, Hamano S, Hasnain M.G, Satoskar AR** : Challenges for management of post kala-azar dermal leishmaniasis and future directions. Research and Reports in Tropical Medicine 2014; 5, 2014年12月 pp.105~111
- 51) **濱野真二郎** : アメーバ症. 今日の治療指針2014, 医学書院, 2014年12月 p.255
- 52) **濱野真二郎** : リンパ系糸状虫症. 寄生虫薬物治療の手引き 改訂8.0版, 熱帯病治療薬研究班, 2014年12月 pp.62~63
- 53) **濱野真二郎** : イヌ糸状虫症. 寄生虫薬物治療の手引き 改訂8.0版, 熱帯病治療薬研究班, 2014年12月 p.68

11 講演会

11. 1 熱帯医学研究所における所外講師による講演

- 1) Understanding Interactions in Complex trait: the malaria story
Anavaj Sakuntabhai (Viral Genomics & Vaccination Unit and Functional Genetics of Infectious Diseases Unit, Institut Pasteur, Paris, France)
大学院セミナー, Large Seminar Room, Global Health Building 1F, Nagasaki University
2014年3月12日
- 2) Introduction to research ethics : History and the need of ethical review system
Chitr Sithi-amorn (Chulalongkorn University)
The 13th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakami, Japan
2014年5月8日
- 3) Informed consent
Cristina Torres (FERCAP-Philippines)
The 13th Nagasaki International Course on Research EthicsPompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日
- 4) Risks and benefits evaluation
Cristina Torres (FERCAP-Philippines)
The 13th Nagasaki International Course on Research EthicsPompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日
- 5) Case Study 1 : Reporting and Plenary discussion
Cristina Torres
The 13th Nagasaki International Course on Research EthicsPompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日
- 6) Ethical issues in epidemiological and social research
Cristina Torres (FERCAP-Philippines)
The 13th Nagasaki International Course on Research Ethics,Pompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日
- 7) Ethical issues in pediatric research
Nao Tsuchida (National Center for Child Health and Development, Japan)
The 13th Nagasaki International Course on Research EthicsPompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日

- 8) Ethical issues in traditional medicine research 13th Nagasaki International Course on Research Ethics, 8-10 May 2014, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
Kiichiro Tsutani (University of Tokyo, Japan)
The 13th Nagasaki International Course on Research EthicsPompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年 5 月 8 日
- 9) Case Study 2: Reporting and Plenary discussion
Cristina Torres (FERCAP-Philippines)
The 13th Nagasaki International Course on Research EthicsPompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年 5 月 8 日
- 10) Ethical issues in international health research : consent, level of care, post trial benefit
Cristina Torres (FERCAP-Philippines)
The 13th Nagasaki International Course on Research EthicsPompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年 5 月 8 日
- 11) Plenary discussion
Cristina Torres
The 13th Nagasaki International Course on Research EthicsPompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年 5 月 8 日
- 12) Case Study 1: Reporting and Plenary discussion
Chitr Sitthi-amorn
The 13th Nagasaki International Course on Research EthicsPompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年 6 月 8 日
- 13) 中部アフリカ・ガボンという国
小林正雄 (在ガボン日本国大使)
特別講義長崎大学
2014年 6 月 9 日
- 14) Challenges when treating Cutaneous Leishmaniasis
Byron Arana (Head of Cutaneous Leishmaniasis Program, DNDi)
大学院セミナー Bauduin Lecture Hall, Ryojun Auditorium 2F
2014年 7 月10日
- 15) T cell recognition of microbial vitamin metabolites presented by the MHC-I-related molecule MR1
James McCluskey (Department of Microbiology and Immunology, Peter Doherty Institute for Infection and Immunity, University of Melbourne, Australia)
大学院セミナー Bauduin Lecture Hall, Ryojun Auditorium 2F
2014年 9 月14日

- 16) 躍動するアフリカと日本の若者たち

日野博之

第5回国際連携セミナー長崎大学

2014年10月27日

- 17) Challenges and opportunities for the development of new treatments for leishmaniasis

Simon L Croft (Professor of Parasitology, Faculty of Infectious and Tropical Diseases, London School of Hygiene and Tropical Medicine, London, UK)

大学院セミナー Conference room (No.120), Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

2014年10月29日

11. 2 熱帯医学研究所教員による講演

- 1) Evolutionary origins of *P.falciparum* and *P. vivax* as human pathogens
Richard Culleton
シンポジウム, 大阪大学微生物病研究所
2014年1月15日
- 2) Prognostic prediction of re-shock during a patient's first dengue shock episode
Nguyen Tien Huy
Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections, Sendai
2014年1月20日
- 3) 感染症と人類—文明以前と文明以後
山本太郎
国立民族博物館共同研究会, 国立民族学博物館
2014年2月1日
- 4) 抗酸菌感染症～動物とヒト, 環境の理解を目指すOne Healthの一例
和田崇之
第2回水文化・水環境シンポジウム ジオコミュニケーション学構築をめざして, 香川
大学
2014年2月7日
- 5) 1950年前後の琵琶湖周辺におけるマラリア流行の消長と環境変容
市川智生
第2回水文化・水環境シンポジウム ジオコミュニケーション学を構築をめざして, 香
川大学
2014年2月7日
- 6) 感染症に関する課題について
有吉紅也
学術講演会, 神戸市医師会館本館
2014年2月8日
- 7) Collaborative research with Public Health England, Portn down.
安田二郎
The 2nd Biosecurity Workshop : U.K.-Japan Collaboration to Counter Biological Threats, Keio
University
2014年2月8日
- 8) High-throughput screening of small-molecule chemical library for novel antimalarials
Nguyen Tien Huy and Kenji Hirayama
U.S.-Japan Cooperative Medical Sciences Program Regional Conference on Emerging Infectious
Diseases, Bangladesh
2014年2月9日

- 9) HIV抗体検査について
有吉紅也
長崎県医師会・HIV医療講習会，長崎県医師会館
2014年2月11日
- 10) HIV感染症の基礎知識
齊藤信夫
長崎県医師会・HIV医療講習会，長崎県医師会館
2014年2月11日
- 11) 国際協力と国際保健 いま何を考えるべきか
山本太郎
総合リハビリテーション学研究科FD講演会，神戸学院大学
2014年3月5日
- 12) Vector outbreaks and control: population dynamics in changing environments?
Luis Fernando Chaves
Ecology Seminar, Odum School of Ecology, University of Georgia, Athens, GA, USA
2014年3月6日
- 13) 結核分子疫学研究の現在と未来
和田崇之
第19回国際結核セミナー，東京都港区 ヤクルトホール
2014年3月6日
- 14) Marrying quantitative whole genome sequencing to linkage analyses
Richard Culleton
シンポジウム，北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター・感染免疫部門
2014年3月8日
- 15) 被災地における薬剤師の役割
奥村順子
宮城県災害医療従事者研修に於ける講義，宮城県庁
2014年3月21日
- 16) Ethical review of clinical trials and standards of SIDCER survey.
Karbwang J
The Conference for GCP Platform Construction and Clinical Trials of New Drug and Medical Device, China
2014年3月21日
- 17) Spatial distribution and biology of dengue vectors, *Aedes aegypti* and *Aedes albopictus*.
Yukiko Higa
Public Talk Sarawak Museum, Kuching Malaysia
2014年3月25日

- 18) Development of molecular diagnostics for viral haemorrhagic fevers.
安田二郎
1st Nagasaki University Market Place in London School of Hygiene and Tropical Medicine,
London School of Hygiene and Tropical Medicine, London
2014年3月26日
- 19) 一般医家が診る輸入感染症
森本浩之輔
伊勢崎感染症セミナー, 伊勢崎市民病院 10階「大会議室」
2014年3月27日
- 20) High-throughput screening of small-molecule chemical library for novel antimalarials
Nguyen Tien Huy
The Japanese Society of Parasitology, 83th Annual Meeting. , Ehime
2014年3月27日
- 21) Case Study 2 : Reporting and Plenary discussion
Akiko Matsuyama (Nagasaki University)
The 13th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日
- 22) Ethical issues in international health research: Study design, informed consent, level of care, post trial benefit
Akiko Matsuyama (Nagasaki University)
The 13th Nagasaki International Course on Research Ethic, Pompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日
- 23) Plenary discussion
Akiko Matsuyama (Nagasaki University)
The 13th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日
- 24) Plenary discussion
Juntra Karbwang (Nagasaki University)
The 13th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日
- 25) Ethical issues in pharmacogenomics research
Kenji Hirayama (Nagasaki University Japan)
The 13th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus,
Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2014年5月8日

- 26) 赤血球をイボイボするマトリョーシカ生物～マラリア原虫の謎～
金子 修
サイエンスカフェ「マトリョーシカカフェ 08」, お茶の秋月園 浜町店, 長崎市
2014年 5月23日
- 27) 赤血球をイボイボするマトリョーシカ生物～マラリア原虫の謎～
金子 修
サイエンスカフェ「マトリョーシカカフェ 09」, 池田屋, 長崎市
2014年 5月24日
- 28) 長崎大学のケニア等での活動と産官学連携の可能性
一瀬休生
日本人商工会の講演会インターナショナルハウス, ナイロビ, ケニア
2014年 5月30日
- 29) グローバル健康環境：後悔にもいろいろあるけれど・・・
奥村順子
大阪大学グローバルコラボレーションセンターに於ける特別講演, 大阪大学医学保健学科
2014年 7月17日
- 30) 気候変動の健康影響
橋爪真弘
特別講演, 福岡県北九州市小倉北区 小倉パークサイドビル 9F
2014年 7月26日
- 31) 気候変動の健康影響
橋爪真弘
特別講演, 第508回北九州小児科医会, 福岡県, 北九州市
2014年 7月26日
- 32) 地球温暖化と健康影響
橋爪真弘
特別講演, 第70回佐賀小児科地方会, 第193回日本小児科学会長崎地方会 合同地方会,
長崎大学医学部 良順会館
2014年 7月27日
- 33) 次々に登場する新しいウイルス感染症
安田二郎
第 9 回東京大学医科学研究所ラブラボ, 東京大学
2014年 8月 4 日
- 34) The research background for the development of IDEWS and plans of actions.
Minakawa N.
SATREPS Infectious Diseases Early Warning System (IDEWS), KICK-OFF SYMPOSIUM DST
Pretoria, Pretoria, South Africa
2014年 8月 5 日

- 35) エボラ出血熱
安田二郎
長崎大学病院カンファレンス，長崎大学
2014年8月14日
- 36) Luminex法を用いたアフリカにおける血清疫学調査
藤井仁人
講演（xSAMPLES Japan 2014 ~for Life Science Research~），ホテルレオパレス博多
2014年8月22日
- 37) エボラ出血熱とは何か？感染症研究者の戦い 一つひとつの命を守るために
安田二郎
長崎大学熱帯医学研究所緊急企画，長崎市
2014年8月26日
- 38) Combining classical genetics with quantitative whole genome sequencing: identifying the genes of interest in apicomplexan parasites
Richard Culleton
シンポジウム，北海道大学国際連携研究教育局
2014年8月28日
- 39) マラリアと貧困の複雑な関係を解く：測定と相関
Peter S. Larson
HDSSセミナー，長崎大学熱帯医学研究所
2014年9月1日
- 40) エボラ出血熱について
安田二郎
長崎県エボラ連絡会議，長崎市
2014年9月2日
- 41) 鳥インフルエンザと今後の研究においてBSL-4に期待される役割ー未知なる脅威との戦いー
安田二郎
長崎大学熱帯医学研究所全力講座第2回，長崎市
2014年9月7日
- 42) Colistin resistance in *Acinetobacter baumannii*
Dr. Ben Adler
セミナー，長崎大学熱帯医学研究所
2014年9月11日
- 43) 西アフリカのエボラ出血熱アウトブレイクの現状と対応
安田二郎
長崎県職員 診療放射線技師等研修会，長崎市
2014年9月26日

- 44) 様々な感染症と今後の研究において高度安全実験 (BSL-4) 施設に期待される役割—
BSL-4施設はいかに長崎, 日本, 世界を守れるか?
安田二郎
長崎大学熱帯医学研究所全力講座第4回, 長崎市
2014年9月29日
- 45) 7th Annual P3 Laboratory Training Seminar Maintenance and Operation of P3 Laboratory System
Amina Galata
7th Annual P3 Laboratory Training Seminar, 熱帯医学研究所ケニアプロジェクト拠点, ケ
ニア
2014年10月7日
- 46) 私たちの関心とコラボの可能性
山本太郎
数理地理研究会, 京都大学
2014年10月10日
- 47) デング熱の基礎と疫学
森田公一
四学会緊急セミナー, 東京 (ベルサーヌ汐留)
2014年10月13日
- 48) 地球温暖化と熱帯感染症
橋爪真弘
第46回日本小児感染症学会総会学術集会 イブニングセミナー, 東京都新宿区, 京王ブ
ラザホテル
2014年10月18日
- 49) 地球温暖化と熱帯感染症
橋爪真弘
第46回日本小児感染症学会総会・学術集会「イブニングセミナー2」, 東京都, 新宿区
2014年10月18日
- 50) 西アフリカのエボラ出血熱アウトブレイクの現状と対応
安田二郎
第4回福岡市医師会感染症セミナー, 福岡市
2014年10月24日
- 51) 長崎大学のケニアでの活動と産官学連携の可能性について (～九州から発信するグロー
バルな取り組み～)
一瀬休生
日本工学アカデミー九州支部と長崎大学の共催講演会, 長崎大学, 工学部
2014年10月30日

- 52) Detection of Pre-Erythrocytic Stage Malaria Parasite DNA in Blood and Faeces of Sporozoite-Infected Mice and Monkeys
Richard Culleton
学会, (独)国立国際医療研究センター
2014年11月2日
- 53) わが国への侵入が危惧されるフラビウイルス感染症
森田公一
教育講演, 東京 (国立感染症研究所・戸山研究庁舎)
2014年11月8日
- 54) Ebola outbreak in West Africa.
奥村順子
防衛省陸上自衛隊中央即応集団 対特殊武器衛生隊に対する「感染症対策に資する研修」
講義, 長崎大学熱帯医学研究所
2014年11月13日
- 55) Establishment of an early-warning system for infectious diseases in Southern Africa incorporating climate predictions.
Hashizume M
Global Research Council (GRC) Africa Summit. Invited Speaker, Stellenbosch, South Africa
2014年11月23日
- 56) Human Microbiota: Missing Microbes
山本太郎
Workshop on Sanitation, 統合地球環境学研究所
2014年11月29日
- 57) Night Soil and Sanitation in Modern Japan
市川智生
Workshop on Sanitation, 統合地球環境学研究所
2014年11月29日
- 58) アジアのデング熱媒介蚊の分類
比嘉由紀子
緊急公開シンポジウム「デング熱と蚊の分類と自然史標本」招待講演, 東京都, 日本学術会議講堂
2014年12月5日
- 59) デング熱を媒介する熱帯シマカ2亜種の起源と進化
二見恭子
緊急公開シンポジウム「デング熱と蚊の分類と自然史標本」招待講演, 東京都, 日本学術会議講堂
2014年12月5日

- 60) 高病原性ウイルスの分子生物学的解析とその抗ウイルス戦略への応用

浦田秀造

富山大学和漢医薬学総合研究所・長崎大学熱帯医学研究所 第4回交流セミナー，富山大学

2014年12月8日

- 61) エボラ，デング熱に備える

山本太郎

健康危機管理研修，佐賀中部保健福祉事務所

2014年12月12日

- 62) 黄砂と健康

橋爪真弘

特別講演 第92回長崎医学会総会，長崎県，長崎市

2014年12月13日

- 63) エボラ出血熱

安田二郎

第4回熱帯医学研修課程フォローアップ事業「リフレッシュ講座」，長崎大学

2014年12月14日

- 64) 熱帯域における病原媒介性昆虫研究の現状

皆川 昇

緊急公開シンポジウム「デング熱と蚊の分類と自然史標本」，東京都，日本学術会議講堂

2014年12月15日

- 65) デング熱を媒介する熱帯シマカ2亜種の起源と進化

二見恭子

緊急公開シンポジウム「デング熱と蚊の分類と自然史標本」，東京都，日本学術会議講堂

2014年12月15日

- 66) デング，エボラを考える

山本太郎

行政フォーラム，人事院公務員研修所

2014年12月19日

11. 3 熱帯医学研究所主催の市民公開講座（平成26年度）

長崎大学熱帯医学研究所・緊急企画

エボラ出血熱とは何か？

現在、連日報道にぎわっている「エボラ出血熱」について多くの方からご要望を受け

- ①どのような病気か？
- ②何に気を付ければよいのか？
- ③日本と長崎は安全か？

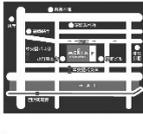
について、新興感染症ウイルスの専門家が丁寧にご説明します。

講師 **安田二郎**
長崎大学熱帯医学研究所 教授

平成 26 年 8 月 26 日 [火]
午後 7 時～午後 8 時 30 分
メルカ薬局 5 階
長崎市民生活プラザホール

※もちろん無料・先着 270 名

お問合せ：長崎大学熱帯医学研究所
TEL 095-819-7603
E-mail: biosafety@ml.nagasaki-u.ac.jp



平成 26 年 8 月 26 日開催
『エボラ出血熱とは何か？』

講演者：安田二郎
熱帯医学研究所 教授

世界の感染症と戦う・長崎大学熱帯医学研究所

第 1 回市民向け説明会

SFTS、クリミア・コンゴ出血熱と今後の研究において BSL-4 に期待される役割

日時：9 月 3 日（水） 19:00 から
場所：長崎市チトセピアホール
（長崎市長尾町 5 番 1 号）
講演者：森田 公一
（熱帯医学研究所・所長）
入場無料・先着 500 名さま

◆昨年話題になった SFTS、クリミア・コンゴ出血熱はどんな病気？

◆SFTS とは？

- ・SFTS に感染すると発熱する可能性が高い。
- ・野山に出入りしたときは検疫官の検疫を受ける。
- ・SFTS に感染した場合は検疫官の検疫を受ける。
- ・SFTS に感染した場合は検疫官の検疫を受ける。



平成 26 年 9 月 3 日開催
『SFTS、クリミア・コンゴ出血熱と今後の研究において BSL-4 に期待される役割』

講演者：森田公一
熱帯医学研究所 所長

長崎大学熱帯医学研究所・全力講座

第 2 回全力講座

鳥インフルエンザと今後の研究において BSL-4 に期待される役割

日時：9 月 7 日（日） 13:30 から
場所：長崎山里地区ふれあいセンター
（長崎県長崎市高尾町 4-10）
講演者：安田 二郎
（熱帯医学研究所・教授）
入場無料・先着 100 名さま

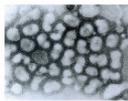
◆よく話題になるけど鳥インフルエンザは人に感染するの？

◆20 世紀初頭に世界で数千万人の死者を出したスペイン風邪もインフルエンザの一種です。

◆熱研の専門家が大流行への備えについてもわかりやすくお話しします。

（アドバイス）

- ・鳥インフルエンザウイルスはウイルスを保持する鳥との密接な接触によってのみ感染します。
- ・通常のインフルエンザの予防接種は効果ありません。



高病原性鳥インフルエンザ

平成 26 年 9 月 7 日開催
『鳥インフルエンザと今後の研究において BSL-4 に期待される役割』

講演者：安田二郎
熱帯医学研究所 教授

長崎大学熱帯医学研究所・全力講座

第 3 回全力講座

エボラ出血熱と今後の研究において BSL-4 に期待される役割

日時：9 月 21 日（日） 13:30 から
場所：長崎市立図書館多目的ホール
（長崎市興善町 1-1）
講演者：高田 礼人（北海道大学・教授）
（人獣共通感染症リサーチセンター）
入場無料・先着 200 名さま

◆今話題のエボラウイルスが日本に来る可能性は？

◆高田先生は、情報大蔵(MBS)や爆発問題の日本の教養(NHK)に出演された注目若手ウイルス学者です。

◆熱研の安田二郎先生とも親交の深い先生で、エボラ出血熱ウイルスが哺乳動物の宿主生物の特定にアフリカ・ザンビアで挑んで居られます。

（アドバイス）

- ・空気感染は起こりません。
- ・感染者の血液、体液や排泄物には触れないで下さい。
- ・一般の飲み水や食事を介した感染は起こりません。



高田 礼人先生

平成 26 年 9 月 21 日開催
『エボラ出血熱と今後の研究において BSL-4 に期待される役割』

講演者：高田礼人
北海道大学 教授

長崎大学熱帯医学研究所・全力講座

第 4 回全力講座

様々な感染症と今後の研究において高度安全実験施設 (BSL-4) に期待される役割

BSL-4 はいかに長崎、日本、世界を守れるか？

日時：9 月 29 日（月） 19:00 から
場所：長崎市立図書館多目的ホール
（長崎市興善町 1-1）
講演者：森田 公一（熱帯医学研究所・所長）
安田 二郎（熱帯医学研究所・教授）他
入場無料・先着 200 名さま

◆高度安全実験施設 (BSL-4) ってどんな施設？どんな役割が期待されているの？

◆新しい感染症の治療法の確立には、高度安全実験施設 (BSL-4) 内でのウイルスを用いた実験が不可欠です。

◆国内に無いウイルスが、日本国内にいつ入ってきてもおかしくないグローバル化が進んでいます。

世界を飛行するおびただしい航空機の影（灰色が一機の機影）

（ポイント）

- ・感染症の拡大は人の密集、衛生環境、正しい知識の有無などに大きく依存しています。
- ・感染症の発生には必ずしも何らかの予防措置、感染経路の遮断が必要ですが、感染症発生は世界の安全を安心に脅かしています。



平成 26 年 9 月 29 日開催
『様々な感染症と今後の研究において高度安全実験施設 (BSL-4) に期待される役割 / BSL-4 はいかに長崎、日本、世界を守れるか？』

講演者：森田公一、安田二郎
熱帯医学研究所 所長，教授

長崎大学熱帯医学研究所市民公開講座

求められる感染症対策

一国内および世界の経験をふまえて

演者は世界保健機構 (WHO) に 20 年間勤務し、アジアでのエボラ、根拠、SARS の制圧、さらに最後の対策などに個人的に関与した。帰国後、日本政府新型インフルエンザ対策本部委員、東京都のデング熱対策協議会議長などを務める。こうした国内外での感染症対策の経験を基に、皆様にお話ししたい。



講演者 **尾身 茂**

独立行政法人 地域医療機能推進機構 理事長
名誉世界保健機関 (WHO) 西太平洋地域 事務局長
内閣府新型インフルエンザ等対策有識者会議 会長
自治医科大学 客員教授

2014 年 12 月 3 日 [水]
午後 7:00-8:30
長崎市立図書館 / 1 階
多目的ホール

人場無料
申請中迄不要

お問合せ 長崎大学熱帯医学研究所 TEL 095-819-7868

平成 26 年 12 月 3 日開催
『求められる感染症対策一国内および世界の経験をふまえて』

講演者：尾身 茂
独立行政法人
地域医療機能推進機構 理事長

12 主要な研究設備

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 反射型蛍光顕微鏡 | 23 液体クロマトグラフ質量分析計 |
| 2 ウルトラマイクローム | 24 自動焦点維持装置付長時間観察システム |
| 3 落射蛍光位相差顕微鏡 | 25 高感度ノンラベル・ゲノム定量解析システム |
| 4 万能倒立顕微鏡 | 26 デジタルセルソーターシステム |
| 5 走査電子顕微鏡装置 | 27 透過及び操作電子顕微鏡用デジタル画像出力装置 |
| 6 生態機能解析装置 | 28 多機能超遠心機 |
| 7 病理組織標本作製システム | 29 マイクロ流路を応用した遺伝子発現解析装置 |
| 8 原虫遺伝子DNA解析システム | 30 遺伝子解析システム |
| 9 宿主・寄生体相互作用解析システム | 31 共焦点レーザー顕微鏡システム |
| 10 プラスミド自動分離調整システム | 32 超解像顕微鏡システム |
| 11 感染症病原性解析システム | 33 高圧凍結装置 |
| 12 熱帯性病原体成分機能解析システム | 34 自動細胞解析装置 |
| 13 多機能ぜん虫行動解析システム | 35 DNAアナライザ |
| 14 熱帯性ウイルス感染症診断試薬作成システム | 36 生物ハイグレード正立顕微鏡 |
| 15 超遠心機 | 37 ION PROTONシステム Protom-CO12S2cp |
| 16 核酸オリゴマー感染症治療薬開発システム | 38 IT活用遠隔講義システム |
| 17 生物顕微鏡 | 39 病原性ウイルス遺伝子及び蛋白質機能解析システム |
| 18 細菌毒素活性測定解析システム | 40 X線結晶構造解析システム |
| 19 DNAシーケンサー | 41 バイオハザード対策用ラボシステム |
| 20 デジタル画像電子顕微鏡システム | 42 次世代シーケンサーシステム |
| 21 耐腐食構造棚式真空凍結乾燥装置 | 43 感染症診断検査分析システム |
| 22 リアルタイム定量PCRシステム | |

13 刊 行 物

1) Tropical Medicine

当研究所が発行した機関誌で、熱帯医学の原著論文のほかに短報や総説などが掲載される。本誌は長崎大学風土病紀要として昭和34年に創刊されたものであるが、昭和42年に研究所名が改められたときにTropical Medicine（熱帯医学）と変更され、さらに平成元年からは英文のみの雑誌となった。毎年4号分を1巻として平成12年度には第42巻が発行されたが、平成13年度から休刊中である。

2) 長崎大学熱帯医学研究所年次要覧

昭和39年3月、当研究所の沿革および研究活動をまとめた最初の「長崎大学風土病研究所年次要覧、昭和38年度」が刊行された。その後、昭和42年の研究所名改称に伴う標記表題への変更はあったが、昭和45年度まで毎年刊行された。昭和46年度から54年度までの分はまとめて昭和56年3月に発行された。昭和55年度から再び毎年発行されることになり現在に至っている。平成25年度年次要覧は平成26年12月に発行された。

3) 長崎大学熱帯医学研究所概要Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

国内及び外国からの来訪者に対する当研究所の紹介パンフレットとして、長崎大学熱帯医学研究所案内（A Guide to the Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University）が昭和55年12月に最初に発行された。その後一部改訂されたものが随時発行されてきた。平成元年10月には、当研究所が共同利用研究所に改組されたのを機会に、標記のように表題を改めカラー印刷として発行され、その後は毎年発行されることになった。平成6年度に研究所の機構が大部門制に改組されたのを機に、このパンフレットはB5判からA4判に改められ、また和文版と英語版を別々に作成することになった。平成27年度版は、平成27年7月に発行された。

4) 長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集

この報告集は、当研究所が平成元年に全国共同利用研究所に改組されたのに伴い、毎年実施される共同研究と研究集会の概要をまとめたものである。平成26年度の報告集は、平成27年7月に発行された。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧
平成26年度（2014）

平成27年12月発行

編集者：長崎大学熱帯医学研究所

発行者：長崎大学熱帯医学研究所

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4

☎(095)819-7800（総合案内）

印刷所：株式会社クイックプリント

〒850-0034 長崎市樺島町8-12

☎(095)827-1318